

《調査報告》

物語・小説教材の中の感情表現に関する調査

根本大暉、岩田晴之、大鋸洋樹、岡田美樹、
小林和馬、今野優香、坂本主史、高橋佑希、
松尾あずさ、森山 陽、安田佳実、安野 葵

はじめに

本稿は、横浜国立大学大学院教育学研究科の授業（担当：高木まさき）において行われた、物語・小説教材の感情表現に関する調査報告である。

本調査は、今日の国語科の授業において、物語・小説教材を読むことを通して、学習者がどのような感情体験をしているのか、その手がかりの一端を明らかにすることを目的として行われた。

『感情類語辞典』（アンジェラ・アッカーマン、ベッカ・パグリッシ著、滝本杏奈訳、フィルムアート社刊 2016）を参考に、中学校国語科教科書（光村図書 1 年～3 年、2016 年発行）に収録された物語・小説教材を対象とし、各教材の登場人物の発話や行動、情景などの描写からどのような感情を読み手は経験するのか。その種類と傾向を分析した。

1. 分析の対象・方法

1-1 対象

本調査では、上記の光村図書発行の教科書に採録された物語・小説教材から各学年ごとに以下の作品（表 I）を調査の対象とした。

表 I 調査対象とした物語・小説教材

採録学年	教材
中学校 1 年	「花曇りの向こう」
	「光る地平線」
	「星の花が降るころに」

中学校 2 年	「大人になれなかった弟たちに……」
	「少年の日の思い出」
	「アイスプラネット」
中学校 3 年	「盆土産」
	「世界で一番の贈り物」
	「走れメロス」
中学校 3 年	「握手」
	「高瀬舟」
	「故郷」

1-2 方法

本調査は以下の方法によって行われた。

- ①各担当者が、担当した教材を読み込み、感情表現の単位を区切る。概ね一文であることが多いが、一文を超えたり、一文を区切ったりすることもある。
- ②そこに、その表現が、人物の発話なのか、様子なのか、描写なのか、などの分類をし、その感情表現のまとまりが、より直接的にどのような感情を表しているのかを分析し、Excel の表にまとめた（本稿末尾の資料Ⅲ参照）。その際参考としたのが、上記の『感情類語辞典』である。
- ③『感情類語辞典』は、目次に感情を表す語句（愛情、圧倒、あやふやなど 76 語）が列記されているが、まずはそれらの語句から当該表現の感情を意味づける語句を選定し、適当な語句が見当たらない場合は、授業の中で話し合っ、新たな語句を追加した。表Ⅱ内で

※がついているものは、この新たに追加した語句である。

④授業では、担当者が感情表現とみられるものすべてについて「愛情」「反感」などのラベル語（感情表現語句）を当てはめて、その妥当性を、教員を含む受講者全員で話し合っ

て決めた。
⑤いくつかの語句（ラベル語）が該当しそうな場合は、話し合いの上、最後に多数決で判定したが、意見が著しく割れた場合は、備考欄にその旨、記載することとした。

⑥本調査で用いた最終的なラベル語（感情表現語句）は、表Ⅱ「ラベル語（感情表現語句）」にまとめた通りである。合計 93 語。

⑦決定した感情をポジティブなもの・ネガティブなもの2つに分類し、ポジティブな感情を「+1」、ネガティブな感情を「-1」として、「ポジ・ネガ数値」を算出した。たとえば「愛情」であれば「+1」、「反感」であれば「-1」などとした。また、あまり多くはないが、どちらとも言いがたいものについては「0」とした。この「ポジ・ネガ数値」の合計値や平均値、またその推移をグラフ化することなどにより、ストーリーの進行に従って、どのような感情の起伏があるのか考える手がかりとした。ただし、主観の影響を極力排除するため、感情の強さに関わりなく「+1～-1」の間で数値化したため、作品の印象を比較した場合、読み手の直感とは異なる場合も少なくない。

表Ⅱ ラベル語（感情表現語句）

愛情	悲しみ	苦痛	興奮	羨望	不安	欲望
あきらめ	感謝	屈辱	高揚感	尊敬	不思議	落胆
※						

あやふや	感動	屈服	孤独	短気	不本意	冷静
安心	気がかり	苦悩	懇願	同情	不満	
安堵	危惧	悔しさ※	自嘲	動揺	不愉快	
怒り	期待	警戒※	嫉妬	戸惑い※	平穩	
潔さ※	希望	軽蔑	失望	納得※	防衛	
意地悪※	きまり悪さ	激励※	自暴自棄	憎しみ	満足	
いらだち	共感※	決意	自慢※	熱中※	無関心	
陰気	恐縮※	決別※	謝罪※	熱望	もどかしさ※	
疑い※	虚勢※	嫌悪	心配	敗北	優しさ※	
うめぼれ	恐怖	好意※	信頼	恥	やるせなさ※	
驚き	拒絶	後悔	崇拜	反感	勇気※	
懐古	虚無※	好奇心	清々しさ※	反省※	愉快	
葛藤	緊張	幸福	絶望	皮肉※	用心	

2. 資料について

調査の結果を資料Ⅰ・Ⅱ・Ⅲとしてまとめた。各資料の示す内容は以下の通りである。
資料Ⅰ：各教材の「ポジ・ネガ数値」の平均値を示す。各教材の「ポジ・ネガ数値」の合計を調査表現数で値を求めた。

資料Ⅱ：各教材の「ポジ・ネガ数値」の推移を示す。各グラフの横軸ラベルは、資料Ⅲに示した「通し番号」に対応している。

資料Ⅲ：各教材の調査結果を示す。原則として各表現（資料Ⅲの「テキスト」の項目に示されるもの）から読み取れる感情は「感情」の欄に示されるが、読み取れる感情が複数ある場合には「備考」の欄に示した。また、「表現」の項目は調査の対象となる表現を、その表現が示す内容別に、「境遇」・「行為」・「情景」・「性格」・「設定」・「内面」・「発話」・「様子」に分類した結果を示す。

3. 調査結果

調査の結果、今回調査した物語・小説教材の中に登場する感情表現は資料Ⅲに示すように分類することができた。調査を行った箇所は全 1443 箇所である。

各感情表現に当てはまるラベル語（感情表現語句）のうち、調査全体を通した登場回数の多さの上位 5 つと下位 5 つは以下のようになった（表Ⅲ・表Ⅳ）。また、今回調査に使用したラベル語（感情表現語句）の「陰気」に該当する表現は 1 箇所も存在しなかった。

表Ⅲ 「登場回数の多いラベル語（感情表現語句）」

ラベル語 (感情表現語句)	期待	寂しさ	気がかり	懐古	戸惑い
登場回数	40	39	35	34	34

表Ⅳ 「登場回数の少ないラベル語（感情表現語句）」

ラベル語（感情表現語句）	短気	嫉妬	憎しみ	羨望	屈服	苦痛	歓喜
登場回数	1	1	2	2	2	2	2

また、感情表現を「表現」別に分類すると以下のような結果となった（表Ⅳ）。

表Ⅳ 『「表現」別 感情表現数』

「表	境遇	行為	情景	性格	設定	内面	発話	様子
箇所数	67	288	36	8	20	486	333	205

今回調査の対象とした物語・小説教材に登場する感情表現は、全体を通して、ポジティブな感情を読み取れる表現が 555 箇所、ネガティブな感情を読み取れる表現が 632 箇所、どちらとも言いがたい感情を読み取れる表現が 256 箇所という結果になった。また、学年別では以下のような結果となった（表Ⅴ）。

表Ⅴ 「録学年別 感情表現の分類」

教科書名 (採録学年)	ポジティブな感情を読み取れる表現の数	ネガティブな感情を読み取れる表現の数	どちらとも言いがたい感情を読み取れる表現の数
『国語 1』	161	192	61
『国語 2』	282	255	115
『国語 3』	111	185	81

おわりに

今回の調査では、光村図書発行の中学校教科書を対象に調査を行った。本調査では調査結果のみの報告を行い、調査結果に対する考察は加えていない。今後は調査を行う教科書会社や対象学年を広げながら、引き続き調査を行いたい。

引用・参考文献

アンジェラ・アッカーマン、ベッカ・パグリッシ著、滝本杏奈訳『感情類語辞典』（フィルムアート社刊 2016）

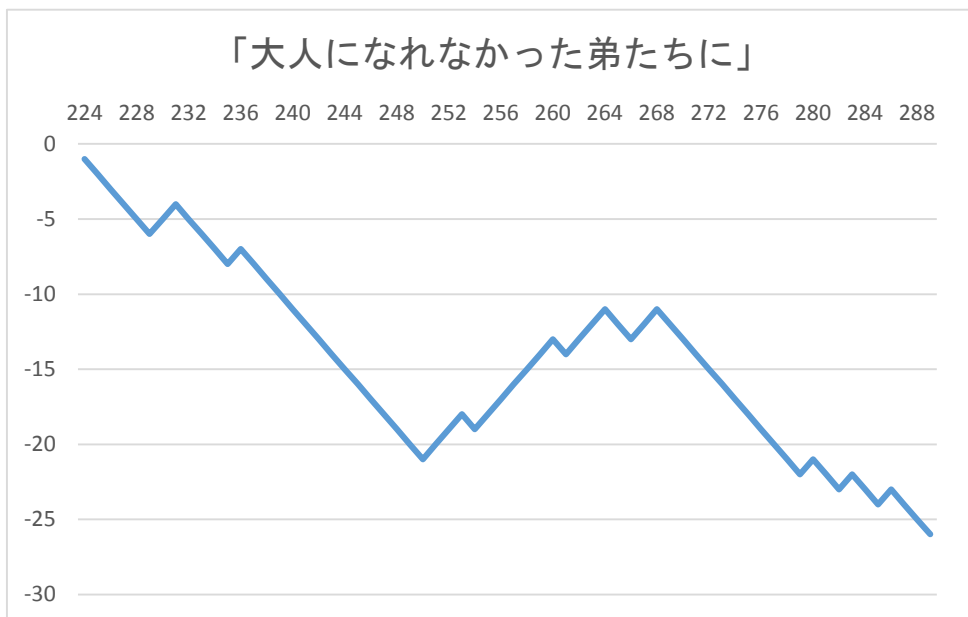
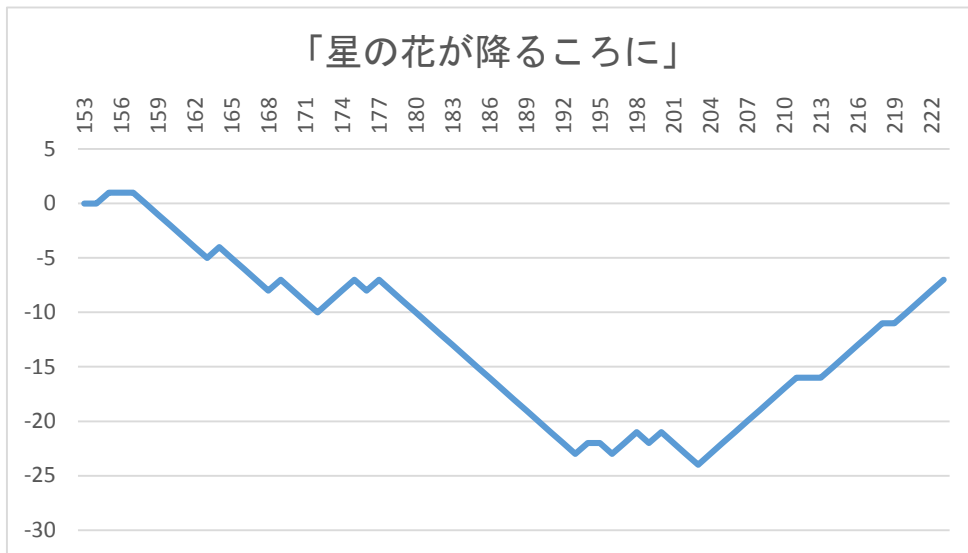
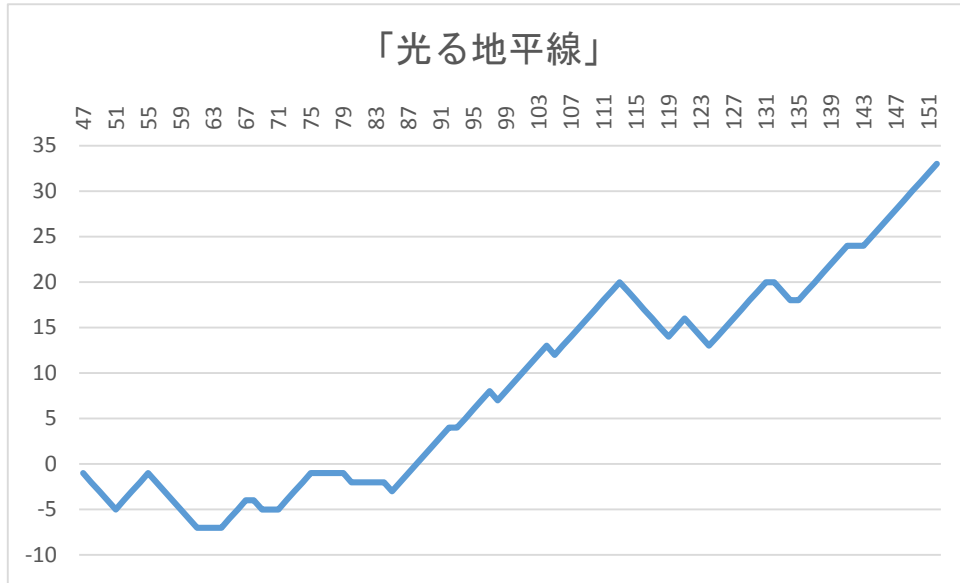
(横浜国立大学大学院 教育学研究科)

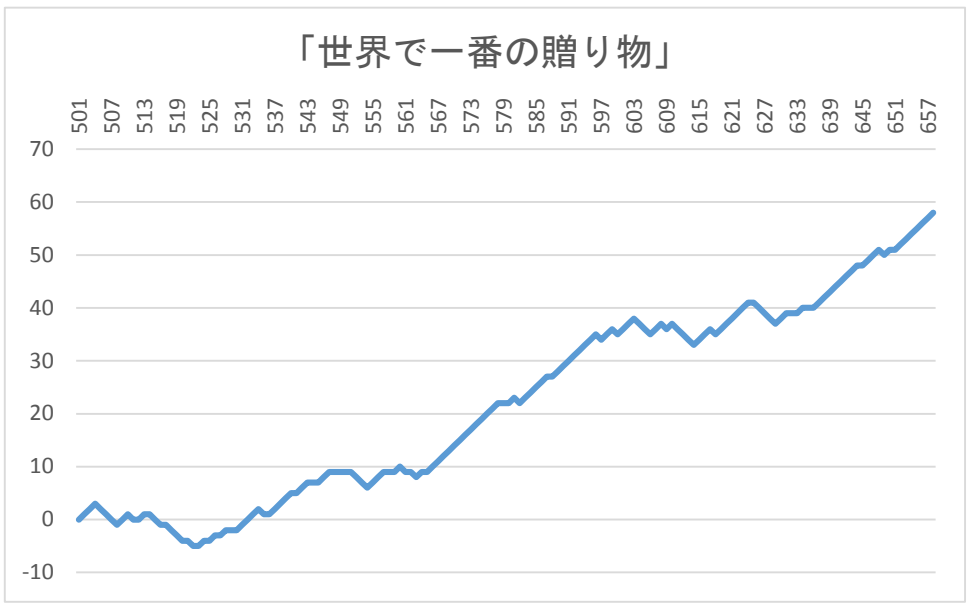
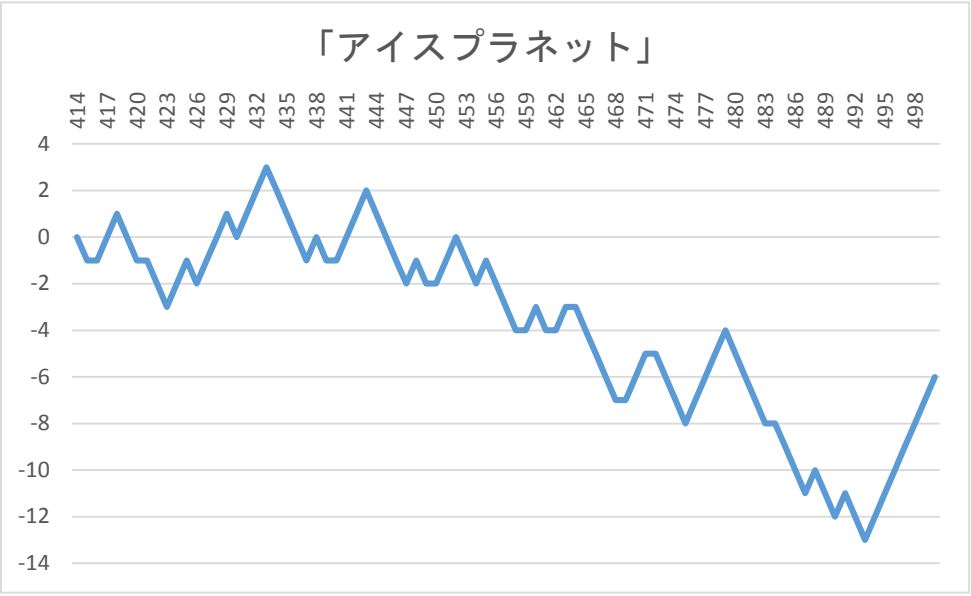
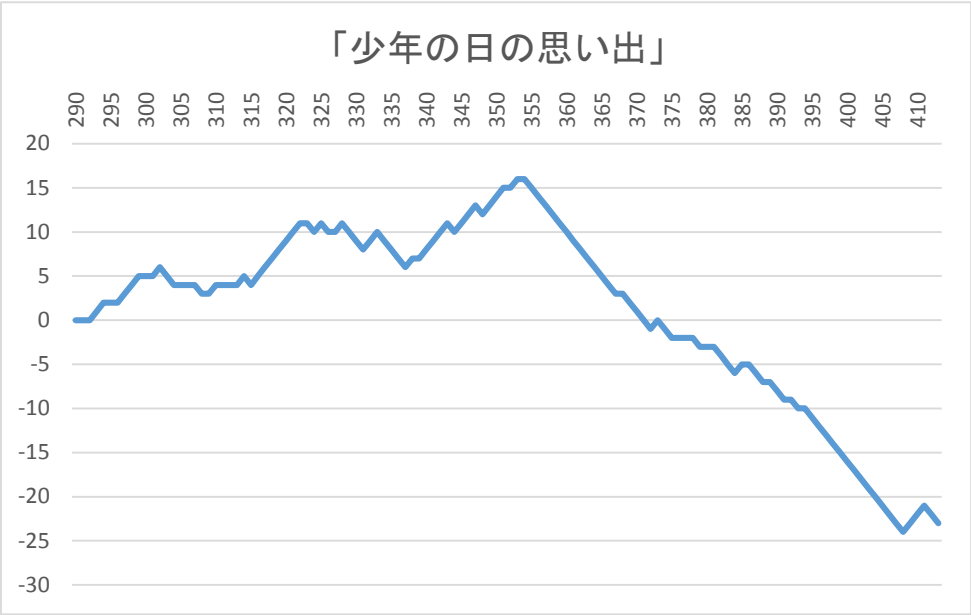
資料Ⅰ 「各作品のポジ・ネガ数値の平均」

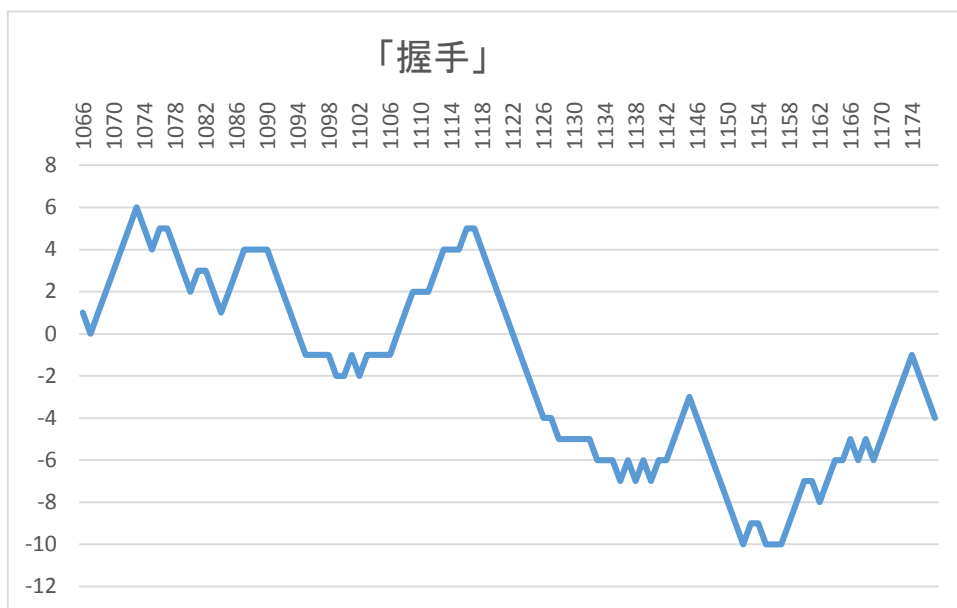
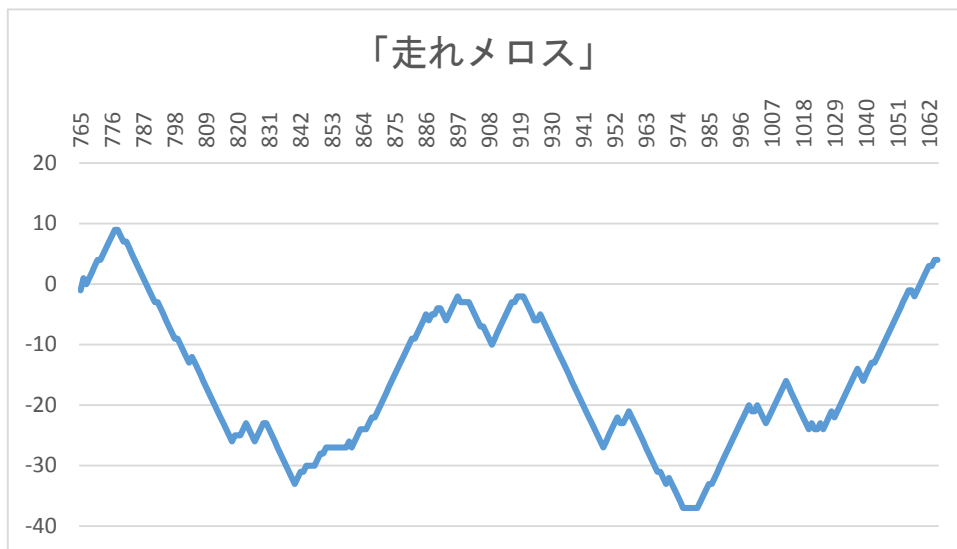
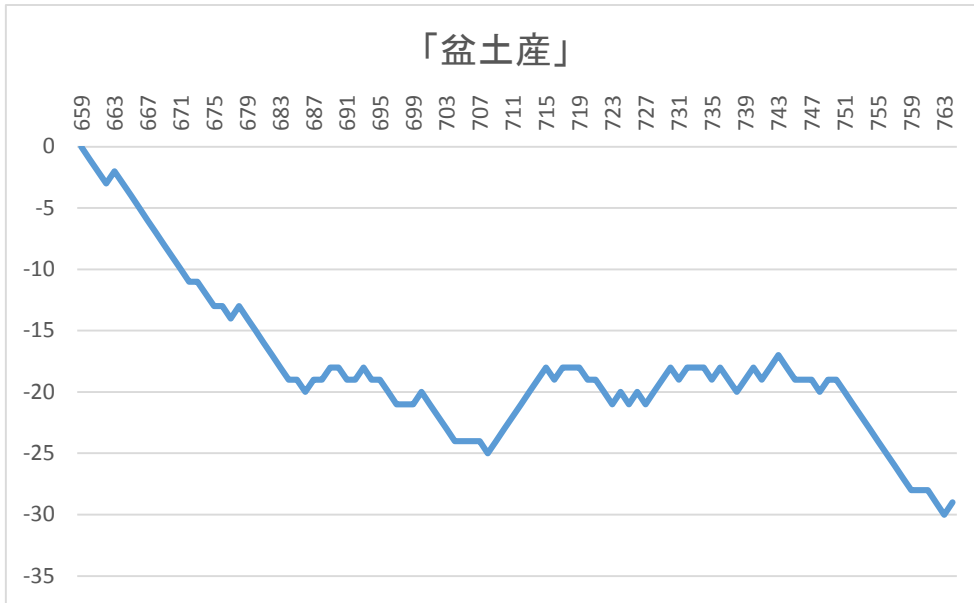
作品	ポジ・ネガ数値の平均
「世界で一番の贈り物」	0.36708
「光る地平線」	0.31132
「走れメロス」	0.01328
「握手」	-0.03571
「アイスプラネット」	-0.06896
「星の花が降るころに」	-0.09859
「故郷」	-0.15384
「花曇りの向こう」	-0.17391
「盆土産」	-0.27358
「大人になれなかった弟たちに……」	-0.39394
「高瀬舟」	-0.44329
「少年の日の思い出」	-0.57447

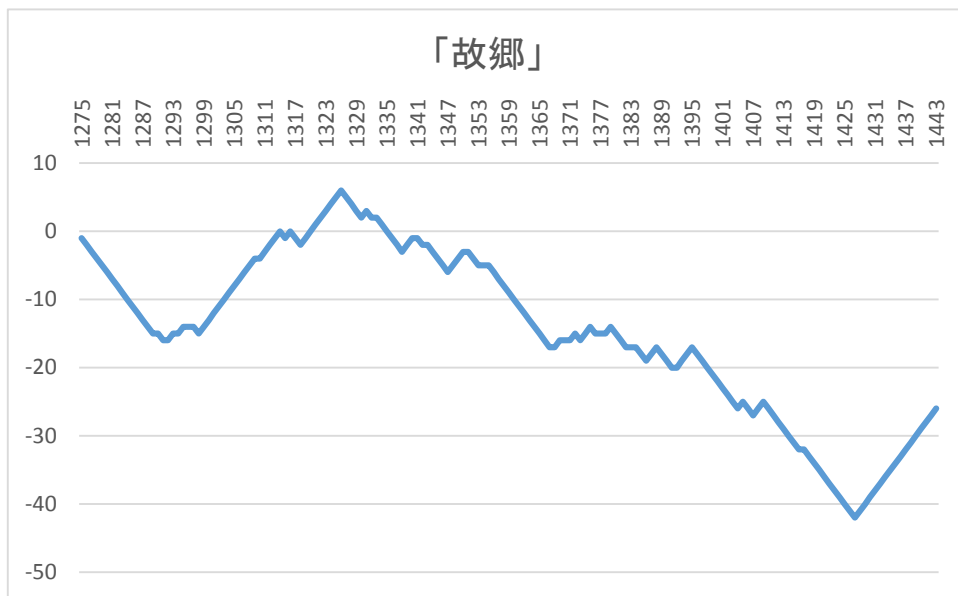
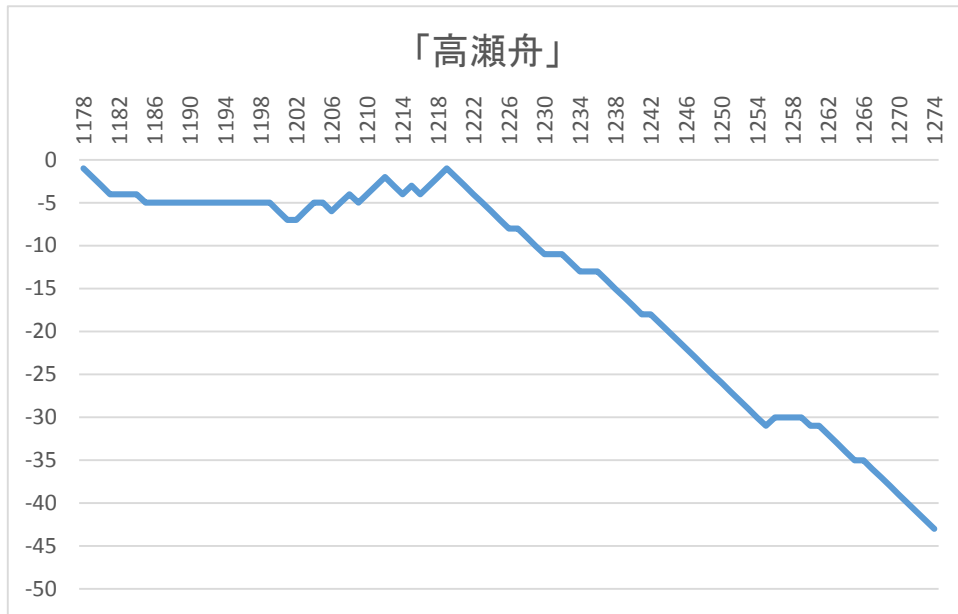
資料Ⅱ 「各作品のポジ・ネガ数値の累計」











資料Ⅲ「各教材の調査結果」

通し番号	作品名	出版社	学年	感情	ポジ・ネガ	表現	テキスト
1	花曇りの向こう	光村	7	気がかり		0 発話	「なんや、また気が重そうな顔して。」
2	花曇りの向こう	光村	7	苦痛		-1 様子	「胃が痛いんだ。」とおなかを押えて答える僕に、
3	花曇りの向こう	光村	7	愉快		1 発話	「そこ、胃じゃなくて腸や。」とばあちゃんが笑った。
4	花曇りの向こう	光村	7	反感		-1 発話	「中学入学って言ったって、だいたいみんな小学校からの仲間なんだ。簡単にいくわ
5	花曇りの向こう	光村	7	激励		1 発話	そんなん言うたら
6	花曇りの向こう	光村	7	潔さ		1 行為	勢いよくみそ汁を飲んだ。
7	花曇りの向こう	光村	7	反感		-1 内面	僕ら子供は、意思とは関係なく無理難題をふっかけられる。
8	花曇りの向こう	光村	7	反感		-1 内面	好き勝手にやっているフラダンスやパッチワークといっしょにされちゃ困る。
9	花曇りの向こう	光村	7	激励		1 発話	「いつまでもぼそぼそ食べてんと、梅干し食べとき。」
10	花曇りの向こう	光村	7	不安		-1 発話	「おはよ。」とつぶやきながら教室に入ると、
11	花曇りの向こう	光村	7	無関心		-1 行為	同じ様なぼそりとした反応が返ってくる。
12	花曇りの向こう	光村	7	苦悩		-1 内面	小学校のときはもう少し簡単だったはずなのに、なかなかうまくいかない。
13	花曇りの向こう	光村	7	期待		1 発話	「今日も曇りやな。じいちゃんが花曇りって言ってたけど、四月は意外と天気悪い日が多いねんな。」
14	花曇りの向こう	光村	7	苦悩		-1 内面	けれど、それはいつだってうまくつながらない。
15	花曇りの向こう	光村	7	戸惑い		-1 発話	「あ、ああ。そうなんだ。」それで会話は終了。
16	花曇りの向こう	光村	7	きまり 悪さ		-1 様子	川口君も僕もさつきより空気を持って余して、窓の外を見つめるしかなくなってしま
17	花曇りの向こう	光村	7	後悔		-1 内面	「これで桜が全部散ってしまうな。」と言えばよかったとか、「花曇りって何。」と
18	花曇りの向こう	光村	7	後悔		-1 内面	きけばよかったとか。
19	花曇りの向こう	光村	7	自信喪失		-1 内面	思いつくのは後になってからだ。
20	花曇りの向こう	光村	7	落胆		-1 情景	晴れることを放棄したようなぼやけた空に、
21	花曇りの向こう	光村	7	落胆		-1 行為	僕は今日も生ぬるい息をはいた。
22	花曇りの向こう	光村	7	苦悩		-1 内面	まだなじんでない仲間とのチーム競技は、なかなか厄介だ。
23	花曇りの向こう	光村	7	期待		1 内面	今日はなんとかなるかもしれない。
24	花曇りの向こう	光村	7	興奮		1 行為	敵のボールをカットすると、わっと歓声が起こった。
25	花曇りの向こう	光村	7	高揚感		1 内面	チャンスだ。はやる気持ちを抑えて、ドリブルしながら辺りをうかがう。
26	花曇りの向こう	光村	7	自信		1 内面	ここだ。
27	花曇りの向こう	光村	7	自信		1 行為	僕はねらいを定めて、するどいパスを送った。いいパスだったはずだ。
28	花曇りの向こう	光村	7	落胆		-1 内面	今日もわずかなとっかかりはするりと抜け落ちていった。
29	花曇りの向こう	光村	7	皮肉		-1 発話	「いいねえ、子供は。ぼんやりしとつても、やる事が転がって来るんやから。」
30	花曇りの向こう	光村	7	反感		-1 発話	ばあちゃんほうらめしように言った。
31	花曇りの向こう	光村	7	不本意		-1 発話	「別に行きたくないけど……。」
32	花曇りの向こう	光村	7	葛藤		-1 内面	「僕も行こうかな。」そう言うすき間はいくつかあって、間もあった。
33	花曇りの向こう	光村	7	後悔		-1 内面	でも、声は出なかった。
34	花曇りの向こう	光村	7	あきらめ		-1 内面	ハードルは高くなるばかりだった。
35	花曇りの向こう	光村	7	自信喪失		-1 内面	スーパーにはみんながいるかもしれないから、僕は駅とは反対方向の小さな駄菓子屋
36	花曇りの向こう	光村	7	葛藤		-1 内面	に向かった。
37	花曇りの向こう	光村	7	懐古		0 内面	この期におよんで、みんなと交換しやすい物がいいな、なんて考えてしまう自分が情
38	花曇りの向こう	光村	7	懐古		-1 内面	「ここにも売ってるんだ。」
39	花曇りの向こう	光村	7	あきらめ		-1 内面	でも、声は出なかった。これじゃだれも欲しがらないよな。
40	花曇りの向こう	光村	7	共感		1 発話	「お、俺もそれ買おうと思ててん。」
41	花曇りの向こう	光村	7	共感		1 発話	「宮下君も、梅干しのお菓子、好きなんや。」
42	花曇りの向こう	光村	7	共感		1 発話	僕は、「すっぱいけどね。」とうなずいた。
43	花曇りの向こう	光村	7	共感		1 発話	「せやねん。すっぱいのには俺はじいちゃんが好物やから、しょっちゅう食べてる。」
44	花曇りの向こう	光村	7	もどかしさ		0 様子	教室の外で会ったって、相変わらず僕らの会話はたどたどしい。
45	花曇りの向こう	光村	7	勇気		1 発話	「……えっと、明日の野外学習にこれ、持って行こうかな。」
46	花曇りの向こう	光村	7	勇気		1 行為	僕がとどこおり そうな空気をふっ切るように、お菓子をかごに入れると、
47	花曇りの向こう	光村	7	あやふや		0 情景	店を出ると最近続いているぼんやりとした花曇りだ。
48	花曇りの向こう	光村	7	希望		1 様子	でも、僕が手に掲げた小さなふくろの中にはあまらずっぱい梅干しがちゃんと入ってい
49	合計(ポジ・ネガ)					-8	
50	平均(ポジ・ネガ度)					-0.173913043	
51	光る地平線	光村	7	危惧		-1 設定	ライオンがその地に初めてやって来たとき、腹が減って、今にもぶっ倒れそうだった
52	光る地平線	光村	7	絶望		-1 情景	かわいた草原がどこまでも広がっている。
53	光る地平線	光村	7	落胆		-1 内面	ここにも食い物はなさそうさ。
54	光る地平線	光村	7	絶望		-1 様子	そう思ったとたん、体が崩れ落ちた。
55	光る地平線	光村	7	あきらめ		-1 内面	たぶん死ぬのだ、とかれは思った。
56	光る地平線	光村	7	懐古		1 内面	目を閉じると、母の姿が闇の中に浮かぶ。

53	光る地平線	光村	7 幸福	1 内面	一瞬ひもじさを忘れる。
54	光る地平線	光村	7 期待	1 内面	死んだら母に会えるだろうか。
55	光る地平線	光村	7 愛情	1 様子	美しい金色の毛並みと、甘い匂い。
56	光る地平線	光村	7 孤独	-1 境遇	幼いうちに母がなくなり、ふるさとを離れた。
57	光る地平線	光村	7 敗北	-1 境遇	体が小さく、戦いに負け続けた。
58	光る地平線	光村	7 孤独	-1 境遇	くじけがちな心もわざわざいし、長い間居場所を求めてさまよった。
59	光る地平線	光村	7 自暴自棄	-1 内面	それも今日で終わりだ。
60	光る地平線	光村	7 あきらめ	-1 内面	こう やって死んでいく。
61	光る地平線	光村	7 あきらめ	-1 行為	横たわったまま、深い息をついた。
62	光る地平線	光村	7 気がかり	0 行為	そのとき、遠くの方で何か、気配を感じた。
63	光る地平線	光村	7 気がかり	0 行為	どうにか頭を上げて目をこらす。
64	光る地平線	光村	7 あやふや	0 様子	遠くに見える一本のアカシアの下に、何かいる。
65	光る地平線	光村	7 期待	1 様子	プッシュだろうか。[…] 確かに何かがいる。
66	光る地平線	光村	7 期待	1 行為	必死で起き上がる。
67	光る地平線	光村	7 希望	1 内面	つかまえることはできないかもしれないけれど、最期のチャンスだと思った。
68	光る地平線	光村	7 用心	0 行為	そろりそろりと近づいていく。
69	光る地平線	光村	7 落胆	-1 様子	そこにいたのはシマウマでもガゼルでもなかった。
70	光る地平線	光村	7 驚き	0 様子	自分と同じライオンだった。それもうしろ姿だ。
71	光る地平線	光村	7 戸惑い	0 内面	いったいこの列は何だろう。
72	光る地平線	光村	7 興奮	1 内面	食い物だ！
73	光る地平線	光村	7 熱中	1 行為	かれは、夢中でむしゃぶりついた。
74	光る地平線	光村	7 幸福	1 内面	あぶらののっていない肉だったが、これよりうまいものは食べたことがない。
75	光る地平線	光村	7 満足	1 行為	肉の汁がついた前肢までべろべろとなめてから、
76	光る地平線	光村	7 冷静	0 内面	我に返った。
77	光る地平線	光村	7 気がかり	0 発話	「 どうして肉をくれたんだ？ 」
78	光る地平線	光村	7 冷静	0 様子	年をとったライオンはだまっている。
79	光る地平線	光村	7 不思議	0 内面	不思議だった。
80	光る地平線	光村	7 心配	-1 様子	見ると、年を取ったライオンも、やせている。肉をやるゆとり があるとは思えない。
81	光る地平線	光村	7 気がかり	0 発話	「 いつもこんなことをしているのか。 」
82	光る地平線	光村	7 冷静	0 発話	「 満月の晩だけだ 」
83	光る地平線	光村	7 好奇心	0 発話	「 自分で食った方がいいんじゃないか。 どうして他の物にあげるんだ。 」
84	光る地平線	光村	7 好奇心	0 行為	あつという 間にたいらげたことは棚に上げ、かれは尋ねた。
85	光る地平線	光村	7 不愉快	-1 様子	年をとったライオンは、少しめんどく さそうな表情を浮かべ、それから答えた。
86	光る地平線	光村	7 安堵	1 内面	無愛想だが、優しい気持ちなのだ。
87	光る地平線	光村	7 好意	1 内面	ライオンはうれしくなった。
88	光る地平線	光村	7 信頼	1 内面	誰かに食べ物を分けてもらったのは、母が死んで以来だ。
89	光る地平線	光村	7 好意	1 内面	でもかれだけは、年を取ったライオンのそばに寄った。
90	光る地平線	光村	7 期待	1 内面	何か、話したかった。
91	光る地平線	光村	7 期待	1 内面	優しい者はきっとなぐさめてくれるはず。
92	光る地平線	光村	7 信頼	1 行為	しなだれかかると、年を取ったライオンを見つめる。
93	光る地平線	光村	7 無関心	0 行為	が、年を取ったライオンは、こちらを見ることはなかった。
94	光る地平線	光村	7 希望	1 内面	肉のかたまりを一つ食べたことで、少し元気が出た。命がいくらか延びた気がした。
95	光る地平線	光村	7 安堵	1 行為	他のライオンが[…] つかまえることもできた。
96	光る地平線	光村	7 満足	1 様子	そのうえ、大きな岩穴まで見つけた。
97	光る地平線	光村	7 高揚感	1 内面	これがおもしろいほどまくいった。
98	光る地平線	光村	7 不満	-1 内面	しかしネズミは何匹食ったところで、腹はふくれない。
99	光る地平線	光村	7 自信	1 様子	でたらめな思いつきだったが、[…] 追い込むことができたのだ。
100	光る地平線	光村	7 安堵	1 内面	これで当分、食べ物に困らない。
101	光る地平線	光村	7 高揚感	1 内面	ライオンは踊りだしたい気分になった。
102	光る地平線	光村	7 うぬぼれ	1 内面	若いライオンは、自分の頭のよさにしびれた。
103	光る地平線	光村	7 懇願	1 発話	まもなくメスのライオンが何頭もやってきた。[…] オスのライオンまでやってきた。
104	光る地平線	光村	7 好意	1 内面	ライオンは喜んでメスを迎えた。
105	光る地平線	光村	7 用心	-1 内面	子分のオスは、自分よりも小さくて弱そうなことを注意深く確かめた。
106	光る地平線	光村	7 愉快	1 内面	こうして思いがけなく、自分の群れを初めて持つことになった。
107	光る地平線	光村	7 うぬぼれ	1 内面	ライオンはすっかり浮かれた。
108	光る地平線	光村	7 平穩	1 様子	かれの群れは狩りに行く必要がないからのんびりとしている。
109	光る地平線	光村	7 平穩	1 様子	毎日、うららかな草原でしゃべった。
110	光る地平線	光村	7 自尊心	1 内面	ライオンは、自分の話をするのが何よりもすきだった。
111	光る地平線	光村	7 満足	1 行為	群れの物たちは口々にリーダーをなぐさめてくれる。
112	光る地平線	光村	7 激励	1 発話	「 苦勞を乗り越えて、よくがんばりましたね。 」[…] 「 そのままのあなたでいいんで

若いライオン：落胆

多数決：「愉快」7名「幸福」4名「喜び」3名
ライオン自身は「幸福」の状態にある。

多数決：「自尊心」7名「幸福」6名

113	光る地平線	光村	7 満足	1 内面	ライオンはこういった言葉が大好きだった。	多数決: 「満足」11名「自尊心」4名
114	光る地平線	光村	7 失望	-1 行為	まばたきするよりも早くメスがなくなった。	
115	光る地平線	光村	7 反感	-1 行為	子分のオスは牙をむき出し、かれを威嚇した。	
116	光る地平線	光村	7 孤独	-1 内面	体をくるんでいた柔らかいものが、いきなりはぎ取られた。	
117	光る地平線	光村	7 自信喪失	-1 内面	空をふわふわ飛んでいたのが、固い地面につき落とされた。	
118	光る地平線	光村	7 不本意	-1 様子	長い間狩りに行かなかった体は重かった。	
119	光る地平線	光村	7 自嘲	-1 内面	コオロギー匹、つかまえられない。	
120	光る地平線	光村	7 懐古	1 内面	ときどき、なぐさめの言葉を思い出した。	
121	光る地平線	光村	7 激励	1 発話	「がんばりすぎないで。」「そのままのあなたでいいんです。」	
122	光る地平線	光村	7 苦悩	-1 行為	むなしくて、のた打ち回った。	多数決: 「苦悩」9名「虚無」8名
123	光る地平線	光村	7 あきらめ	-1 内面	もうだめだ。	
124	光る地平線	光村	7 絶望	-1 内面	死にそうだ。	
125	光る地平線	光村	7 期待	1 内面	もしかして…。	
126	光る地平線	光村	7 懐古	1 内面	あれは半年前だったか、一年前だったか。	
127	光る地平線	光村	7 希望	1 行為	必死で歩き始めた。	
128	光る地平線	光村	7 安心	1 様子	見覚えのある年を取ったライオンが、いちばん前にいた。	
129	光る地平線	光村	7 興奮	1 様子	むしゃぶりついた。	
130	光る地平線	光村	7 幸福	1 内面	うまい。	
131	光る地平線	光村	7 安心	1 内面	だが、今はそれがうれしい。	
132	光る地平線	光村	7 防衛	0 内面	何も聞かれたくないし、何も言われたくない。	
133	光る地平線	光村	7 失望	-1 内面	心地よい言葉は、聞いた一瞬は元気になるが、すぐに消えていく。	多数決: 「失望」6名「納得」4名
134	光る地平線	光村	7 心配	-1 様子	年を取ったライオンが余裕があるわけではないことは、やせたその姿からもよくわか	
135	光る地平線	光村	7 気がかり	0 内面	それなのになぜ満月の晩になるたび、少ない食べ物を分け続けているのか。	
136	光る地平線	光村	7 信頼	1 内面	前とそっくり、同じ答えだ。	
137	光る地平線	光村	7 好奇心	1 内面	まだ聞き足りない。	
138	光る地平線	光村	7 優しさ	1 行為	年を取ったライオンは振り返り、[…] 追い払うことはしなかった。	多数決: 「優しさ」9名「受容」5名
139	光る地平線	光村	7 希望	1 情景	地平線が、一本の金色の線のように輝き出した。	
140	光る地平線	光村	7 興奮	1 情景	まるで金の皿に割った黄金の卵だ。	
141	光る地平線	光村	7 感動	1 様子	ライオンは思わず見とれた。「なんてきれいなんだろう。」	
142	光る地平線	光村	7 共感	0 行為	年を取ったライオンも立ち止まった。	
143	光る地平線	光村	7 混乱	0 様子	突然の問いだった。ライオンはあわてて考える。	
144	光る地平線	光村	7 愛情	1 発話	「生きているからだ。」	
145	光る地平線	光村	7 驚き	1 内面	若いライオンは、はっとした	
146	光る地平線	光村	7 幸福	1 内面	やっぱりきれいだ。	多数決: 「幸福」11名「感動」5名
147	光る地平線	光村	7 幸福	1 内面	見ることができて良かったと思うほどきれいだ。	
148	光る地平線	光村	7 納得	1 内面	なるほど。ライオンは素直にうなずいた。	
149	光る地平線	光村	7 決別	1 行為	かれはもうついていかなかった。	多数決: 「決別」9名「自信」7名
150	光る地平線	光村	7 感謝	1 発話	「ありがとう。」	
151	光る地平線	光村	7 決意	1 内面	そうやって、死ぬまでは確かに生きよう。	
152	光る地平線	光村	7 清々しさ	1 内面	あたりまえのことだったが、そんなふうにライオンが考えたのは初めてだった。	他候補: 「希望」
	合計(ポジ・ネガ)			33		
	平均(ポジ・ネガ度)			0.31132		
153	星の花が降る所に光村	7 懐古	0 行為	夏実と二人で木の真下に立ち、花が散るのを長いこと見上げていた。		
154	星の花が降る所に光村	7 熱中	0 情景	気がつく、地面が白い星形でいっぱいになっていた。		
155	星の花が降る所に光村	7 愉快	1 行為	これじゃ踏めない、これじゃもう動けない、と夏実は幹に体を寄せ、二人で木に閉じ込められた、そう言って笑った。		
156	星の花が降る所に光村	7 驚き	0 内面	びっくりした。		
157	星の花が降る所に光村	7 懐古	0 行為	去年のことをぼんやり思い出していたら、		
158	星の花が降る所に光村	7 きまり 悪さ	-1 行為	戸部君は振り返ると、後ろの男子に向かってどなった。		
159	星の花が降る所に光村	7 きまり 悪さ	-1 発話	「やめろよ。押すなよなあ。俺がわざとぶつかったみたいだろ。」		
160	星の花が降る所に光村	7 嫌悪	-1 行為	私は戸部君をにらんだ。		
161	星の花が降る所に光村	7 怒り	-1 発話	「なんか用？」		
162	星の花が降る所に光村	7 きまり 悪さ	-1 発話	「宿題をきこうと思って来たんだよ。そしたらあいつらがいきなり押してきて。」		
163	星の花が降る所に光村	7 不愉快	-1 内面	戸部君はサッカー部の誰かといつもふざけてじゃれ合っている。[…] わけがわからない。		
164	星の花が降る所に光村	7 期待	1 発話	「この問題わかんねえんだよ。『あたかも』という言葉を使って[…] お前得意だろ、こういうの。」		
165	星の花が降る所に光村	7 不愉快	-1 内面	私だってわからない。		

166	星の花が降るころに光村	7 いらだち	-1 内面	いっしょだった小学校のころからわからないままだ。なんで戸部君はいつも私に	他候補：戸惑い
167	星の花が降るころに光村	7 不満	-1 発話	[・・・]先輩のように格好よくないのか。	
168	星の花が降るころに光村	7 いらだち	-1 行為	「わかんないよ。そんなの自分で考えなよ。」	
169	星の花が降るころに光村	7 決意	1 内面	私は戸部君を押しつけるようにして立ち上がると廊下に向かった。	
170	星の花が降るころに光村	7 不安	-1 行為	戸部君に関わり合っている暇はない。今日こそは仲直りすると決めてきたのだ。	
171	星の花が降るころに光村	7 不本意	-1 内面	はられたポスターや掲示を眺めるふりをしながら、廊下で夏実が出てくるのを待つ	
172	星の花が降るころに光村	7 不安	-1 行為	それなのに、何度か小さなすれ違いや誤解が重なるうち、別々に帰るようになってし	
173	星の花が降るころに光村	7 信頼	1 内面	お守りみたいな小さなビニール袋を上からそととなでた。	
174	星の花が降るころに光村	7 期待	1 内面	もう 香り はなくなっているけれどもかまわない。	
175	星の花が降るころに光村	7 希望	1 内面	香水はもう無理でも 試しにせっけんを作ってみよう、[・・・]それでポプリなんかも	
176	星の花が降るころに光村	7 緊張	-1 内面	作ってみよう・・・そう誘ってみるつもりだった。	
177	星の花が降るころに光村	7 決意	1 行為	夏実だって、私から言いだすのをきっと待っているはずだ。	
178	星の花が降るころに光村	7 不安	-1 発話	そのとたん、私は自分の心臓がどこにあるのかがはっきりわかった。	
179	星の花が降るころに光村	7 戸惑い	-1 行為	どきどき鳴る胸をなだめるように一つ息を吸ってはくと、ぎこちなく足を踏み出し	
180	星の花が降るころに光村	7 落胆	-1 内面	「あの、夏実」	私の心情：不安
181	星の花が降るころに光村	7 落胆	-1 内面	夏実は一瞬とまどったような顔でこちらを見た後、	夏実の心情：きまり 悪さ
182	星の花が降るころに光村	7 きまり 悪さ	-1 行為	隣の子に何か答えながら私からすつと顔を背けた。そして目の前を通り過ぎてしまっ	他候補：戸惑い
183	星の花が降るころに光村	7 恥	-1 様子	音のないこま送りの映像を見ているように、変に長く感じられた。	
184	星の花が降るころに光村	7 きまり 悪さ	-1 行為	騒々しさがやっと耳にもどったとき、教室の中の戸部君がこちらを見ていることに気	
185	星の花が降るころに光村	7 絶望	-1 情景	私はきっとひどい顔をしている。[・・・]目のふちが熱い。	
186	星の花が降るころに光村	7 悲しみ	-1 行為	決まりが悪くてはじかれたようにその場を離れると、窓に駆け寄って下をのぞいた。	
187	星の花が降るころに光村	7 悲しみ	-1 内面	どこも強い日差しで、色が[・・・]光景によく似ている。	熱心？
188	星の花が降るころに光村	7 落胆	-1 行為	私は外にいる友達を探しているふうに熱心に下を眺めた。	
189	星の花が降るころに光村	7 落胆	-1 内面	本当は友達なんていないのに。夏実の他には友達とよびたい人なんて誰もいないの	
190	星の花が降るころに光村	7 気がかり	-1 内面	のろのろとくつを履きかえていると、	
191	星の花が降るころに光村	7 不安	-1 内面	校庭に出ると、毛穴という毛穴から魂がぬるぬると溶け出してしまいそうに暑かつ	
192	星の花が降るころに光村	7 いらだち	-1 内面	水飲み場の近くに座って戸部君を探した。夏実とのことを見られたのが気がかりだっ	
193	星の花が降るころに光村	7 憎しみ	-1 内面	繊細さのかけらもない戸部君だから、[・・・]どこまでわかっているのか探っておき	
194	星の花が降るころに光村	7 安堵	1 内面	だいたいなんであんな場面をのんびりと眺めていたのだろう。	
195	星の花が降るころに光村	7 納得	0 内面	それを考えると弱みを握られた気分になり、八つ当たりとわかっていてもにくらし	
196	星の花が降るころに光村	7 恥	-1 内面	くてしかたがなかった。	
197	星の花が降るころに光村	7 激励	1 行為	戸部君の姿がやっと見つかった。	
198	星の花が降るころに光村	7 冷静	1 内面	なかなか探せないはずだ。	
199	星の花が降るころに光村	7 心配	-1 発話	日陰もない校庭のすみっこで背中を丸め、黙々と[・・・]くだらないことに思えてき	
200	星の花が降るころに光村	7 安堵	1 内面	立ち上がって水道の蛇口をひねった。水をばしゃばしゃと顔にかけた。	
201	星の花が降るころに光村	7 心配	-1 発話	溶け出していた魂がもう一度引っ込み、やっと顔の輪郭がもどってきたような気がし	
202	星の花が降るころに光村	7 不安	-1 行為	「おい。」	
203	星の花が降るころに光村	7 心配	-1 発話	ずっと耳になじんでいた声だからすぐわかる。	
204	星の花が降るころに光村	7 安堵	1 発話	「俺、考えたんだ。」	
205	星の花が降るころに光村	7 優しさ	1 発話	「いいか、よく聞けよ・・・おまえは俺を意外とハンサムだと思ったことがー」	
206	星の花が降るころに光村	7 優しさ	1 様子	にやりと笑った。「あたかもしれない。」	
207	星の花が降るころに光村	7 好意	1 内面	やっぱり戸部君って、わけがわからない。	
208	星の花が降るころに光村	7 愉快	1 行為	二人で顔を見合わせてふき出した。	
209	星の花が降るころに光村	7 愉快	1 行為	私はタオルを当てて笑っていた。	
210	星の花が降るころに光村	7 安心	1 内面	涙がにじんできたのはあんまり笑いすぎたせいだ、たぶん。	
211	星の花が降るころに光村	7 清々しさ	1 行為	少し回り道をして銀木犀のある公園に立ち寄った。	
212	星の花が降るころに光村	7 懐古	0 内面	夏実と私はここが大好きで、二人だけの秘密基地と決めていた。[・・・]そう信じて	
213	星の花が降るころに光村	7 疑い	0 行為	私は首をかしげた。常緑樹は一年中葉っぱがしげっているはずなのに。	
214	星の花が降るころに光村	7 驚き	1 発話	「え、葉っぱはずっと落ちないんじゃないんですか。」	
215	星の花が降るころに光村	7 愉快	1 発話	「まさか、どんどん古い葉っぱを落っことして、その代わりに[・・・]いくら木だっ	
216	星の花が降るころに光村	7 清々しさ	1 様子	て生きていけないよ。」	
217	星の花が降るころに光村	7 希望	1 情景	帽子の中の顔は暗くてよくわからなかったけれど、笑った歯だけは白く見えた。	
218	星の花が降るころに光村	7 決意	1 行為	かたむいた陽が葉っぱの間からちらちらと差し、半円球の宙にまたたく星みたいに	
219	星の花が降るころに光村	7 冷静	0 様子	ポケットからビニール袋を取り出した。	
220	星の花が降るころに光村	7 決別	1 行為	花びらは小さく縮んで、もう色がすっかりあせている。	他候補：潔さ
				袋の口を開けて、星形の花を土の上にはらばらと落とす。	

221 星の花が降る所に光村 7 希望 1 内面
 222 星の花が降る所に光村 7 激励 1 内面
 223 星の花が降る所に光村 7 希望 1 行為
 合計(ポジ・ ネガ) -7
 平均(ポジ・ ネガ度) -0.098591549

224 大人になれなかった弟たちに…… 光村 7 不本意 -1 境遇
 225 大人になれなかった弟たちに…… 光村 7 不安 -1 境遇
 226 大人になれなかった弟たちに…… 光村 7 不安 -1 内面
 227 大人になれなかった弟たちに…… 光村 7 寂しさ -1 内面
 228 大人になれなかった弟たちに…… 光村 7 寂しさ -1 内面
 229 大人になれなかった弟たちに…… 光村 7 もどかしさ -1 内面
 230 大人になれなかった弟たちに…… 光村 7 愛情 1 様子
 231 大人になれなかった弟たちに…… 光村 7 安堵 1 様子
 232 大人になれなかった弟たちに…… 光村 7 気がかり -1 様子
 233 大人になれなかった弟たちに…… 光村 7 不安 -1 内面
 234 大人になれなかった弟たちに…… 光村 7 心配 -1 様子
 235 大人になれなかった弟たちに…… 光村 7 絶望 -1 境遇
 236 大人になれなかった弟たちに…… 光村 7 希望 1 境遇
 237 大人になれなかった弟たちに…… 光村 7 苦悩 -1 境遇
 238 大人になれなかった弟たちに…… 光村 7 葛藤 -1 境遇
 239 大人になれなかった弟たちに…… 光村 7 葛藤 -1 境遇
 240 大人になれなかった弟たちに…… 光村 7 欲望 -1 内面
 241 大人になれなかった弟たちに…… 光村 7 後悔 -1 様子
 242 大人になれなかった弟たちに…… 光村 7 後悔 -1 様子
 243 大人になれなかった弟たちに…… 光村 7 自責 -1 行為
 244 大人になれなかった弟たちに…… 光村 7 後悔 -1 行為
 245 大人になれなかった弟たちに…… 光村 7 後悔 -1 内面
 246 大人になれなかった弟たちに…… 光村 7 自責 -1 行為
 247 大人になれなかった弟たちに…… 光村 7 自責 -1 行為
 248 大人になれなかった弟たちに…… 光村 7 不満 -1 様子
 249 大人になれなかった弟たちに…… 光村 7 不本意 -1 内面
 250 大人になれなかった弟たちに…… 光村 7 不本意 -1 内面
 251 大人になれなかった弟たちに…… 光村 7 決意 1 行為
 252 大人になれなかった弟たちに…… 光村 7 尊敬 1 内面
 253 大人になれなかった弟たちに…… 光村 7 信賴 1 様子
 254 大人になれなかった弟たちに…… 光村 7 悲しみ -1 様子
 255 大人になれなかった弟たちに…… 光村 7 尊敬 1 内面
 256 大人になれなかった弟たちに…… 光村 7 尊敬 1 内面
 257 大人になれなかった弟たちに…… 光村 7 尊敬 1 内面
 258 大人になれなかった弟たちに…… 光村 7 清々しさ 1 様子
 259 大人になれなかった弟たちに…… 光村 7 高揚感 1 様子
 260 大人になれなかった弟たちに…… 光村 7 感動 1 様子
 261 大人になれなかった弟たちに…… 光村 7 もどかしさ -1 内面
 262 大人になれなかった弟たちに…… 光村 7 希望 1 内面
 263 大人になれなかった弟たちに…… 光村 7 感謝 1 内面
 264 大人になれなかった弟たちに…… 光村 7 感謝 1 内面
 265 大人になれなかった弟たちに…… 光村 7 心配 -1 様子
 266 大人になれなかった弟たちに…… 光村 7 自責 -1 様子
 267 大人になれなかった弟たちに…… 光村 7 平穩 1 行為
 268 大人になれなかった弟たちに…… 光村 7 愛情 1 行為
 269 大人になれなかった弟たちに…… 光村 7 心配 -1 様子
 270 大人になれなかった弟たちに…… 光村 7 心配 -1 行為
 271 大人になれなかった弟たちに…… 光村 7 絶望 -1 様子
 272 大人になれなかった弟たちに…… 光村 7 悲しみ -1 内面
 273 大人になれなかった弟たちに…… 光村 7 悲しみ -1 様子
 274 大人になれなかった弟たちに…… 光村 7 悲しみ -1 様子
 275 大人になれなかった弟たちに…… 光村 7 悔しさ -1 様子

ここでいつかまた夏実と花を拾える日が来るかもしれない。[・・・]あるいはそんなことはもうしないかもしれない。
 どっちだっていい。大丈夫、きっとなんとかやっけていける。
 私は銀木犀の木の下をくぐって出た。

多数決: 「清々しさ」5、「決意」4

僕の父は戦争に行っていました。
 空襲といって、アメリカのB29という飛行機が毎日のように日本に爆弾を落としに夜もおちおち寝ていられません。
 母と僕で掘ったのです。
 父は戦争に行って留守なので、家族は、僕と母と祖母と妹と弟の五人です。
 五人が座ったらそれでいっぱい穴です。
 弟は生まれて間もないのですが、いつも泣かないで一人でおとなしく寝ていました。
 母は穴を掘りながら、ヒロユキがおとなしいから助かる、と言っていました。
 その頃は食べ物が多分になかったの、母は僕達に食べさせて、自分はあまり食べませんでした。

多数決: 「安堵」10、「安心」2、「気がかり」1、「心配」

でも弟のヒロユキには、母のお乳が食べ物です。
 母は自分が食べないので、お乳が出なくなりました。
 ヒロユキは食べるものはありません。
 でも、ときどき配給がありました。
 ミルクが一缶、それがヒロユキの大切な大切な食べ物でした……。
 みんなにはどうていわからないでしょうが、そのころ、甘いものはぜんぜんなかった
 あめもチョコレートもアイスクリームも、お菓子はなんにもないころなのです。
 食いしん坊だった僕には、甘い甘い弟のミルクは、よだれが出るほど飲みたいもので母は、よく言いました。
 ミルクはヒロユキのご飯だから、ヒロユキはそれしか食べられないのだからと——。
 でも、僕はかくれて、ヒロユキの大切なミルクを盗み飲みしてしまいました。
 それも、何回も……。

多数決: 「尊敬」10、「懐古」6、「驚き」2、「決意」0、「

僕にはそれがどんなに悪いことか、よくわかっていたのです。
 でも、僕は飲んでしまったのです。
 僕は弟がかわいくてかわいくてしかたがなかったのですが、……それなのに飲んでし
 ところが、しんせきの人は、はるばる[……]うちに食べ物はないと言いました。
 僕たちは食べ物をもらいに行ったのではなかったのです。
 引越しの相談に行ったのに。
 母はそれを聞くなり、僕に帰ろうと言って、くるりと後ろを向いて帰りました。
 そのときの顔を、僕は今でも忘れません。
 強い顔でした。
 でも悲しい悲しい顔でした。

多数決: 「尊敬」6、「感謝」5、「愛情」3、「悲しみ」0

僕はあんなに美しい顔を見たことはありません。
 僕たち子供を必死で守ってくれる母の顔は、美しいです。
 僕はあのときのことを思うと、いつも胸がいっぱいになります。
 馬車の上で昼のおむすびを食べ、昼すぎには、きれいな溪流に沿って山路へかかりま
 美しい青空、桃の花が咲く山村、橋の上からはあゆの泳ぐのが見られます。
 生まれて初めて見る、それは桃源郷でした。
 これから始まる苦しい生活など、僕にはまだわからない年ごろでした。
 ですから、毎日あのあゆを[……]これからの生活に胸をはずませました。
 母は生まれて初めて田植えを手伝い、[……]持って帰ってきました。
 僕たち疎開者には配給もありませんので、[……]米と交換してもらっていました。
 疎開しても、ヒロユキのお乳には困りました。
 母の着物はなくなりました。

多数決: 「もどかしさ」13、「冷静」1、「自責」0、「恥」

多数決: 「感謝」9、「尊敬」5、「恐縮」3

ヒロユキをおんぶして、僕はよく川へ遊びに出かけました。
 僕は弟が欲しかったので、よくかわいがりました。
 ヒロユキは病気になりました。
 僕は学校から帰ると、毎日、まきと食べ物を[……]バスに乗って出かけました。
 ヒロユキは死にました。

多数決: 「平穩」6、「愛情」4、「懐古」4

多数決: 「心配」12、「自責」2

暗い電気の下で、小さな小さな口に綿にくませた水を飲ませた夜を、僕は忘れられ
 泣きもせず、弟は静かに息をひきとりました。
 母と僕に見守られて、弟は死にました。
 病名はありません。

多数決: 「悔しさ」9、「悲しみ」2、「自責」2、「怒り」0

276	大人になれなかった弟たちに……	光村	7 自責	-1 様子
277	大人になれなかった弟たちに……	光村	7 悲しみ	-1 行為
278	大人になれなかった弟たちに……	光村	7 悲しみ	-1 情景
279	大人になれなかった弟たちに……	光村	7 虚無	-1 様子
280	大人になれなかった弟たちに……	光村	7 優しさ	1 行為
281	大人になれなかった弟たちに……	光村	7 悲しみ	-1 発話
282	大人になれなかった弟たちに……	光村	7 悲しみ	-1 様子
283	大人になれなかった弟たちに……	光村	7 感謝	1 様子
284	大人になれなかった弟たちに……	光村	7 悲しみ	-1 行為
285	大人になれなかった弟たちに……	光村	7 戸惑い	-1 様子
286	大人になれなかった弟たちに……	光村	7 愛情	1 行為
287	大人になれなかった弟たちに……	光村	7 悲しみ	-1 様子
288	大人になれなかった弟たちに……	光村	7 悲しみ	-1 境遇
289	大人になれなかった弟たちに……	光村	7 決意	-1 内面
	合計(ポジ・ ネガ)			-26
	平均(ポジ・ ネガ)			-0.39394

290	少年の日の思い出	光村	7 寂しさ	0 情景
291	少年の日の思い出	光村	7 寂しさ	0 情景
292	少年の日の思い出	光村	7 懐古	0 発話
293	少年の日の思い出	光村	7 高揚感	1 発話
294	少年の日の思い出	光村	7 自信	1 発話
295	少年の日の思い出	光村	7 気がかり	0 様子
296	少年の日の思い出	光村	7 気がかり	0 情景
297	少年の日の思い出	光村	7 満足	1 様子
298	少年の日の思い出	光村	7 愉快	1 行為
299	少年の日の思い出	光村	7 自慢	1 発話
300	少年の日の思い出	光村	7 用心	0 行為
301	少年の日の思い出	光村	7 懐古	0 発話
302	少年の日の思い出	光村	7 自信	1 発話
303	少年の日の思い出	光村	7 防衛	-1 発話
304	少年の日の思い出	光村	7 不愉快	-1 行為
305	少年の日の思い出	光村	7 きまり 悪さ	0 表情
306	少年の日の思い出	光村	7 きまり 悪さ	0 行為
307	少年の日の思い出	光村	7 きまり 悪さ	0 発話
308	少年の日の思い出	光村	7 自嘲	-1 発話
309	少年の日の思い出	光村	7 決意	0 発話
310	少年の日の思い出	光村	7 安堵	1 様子
311	少年の日の思い出	光村	7 あやふや	0 様子
312	少年の日の思い出	光村	7 気がかり	0 情景
313	少年の日の思い出	光村	7 あやふや	0 設定
314	少年の日の思い出	光村	7 熱中	1 設定
315	少年の日の思い出	光村	7 危惧	-1 設定
316	少年の日の思い出	光村	7 興奮	1 設定
317	少年の日の思い出	光村	7 高揚感	1 内面
318	少年の日の思い出	光村	7 高揚感	1 内面
319	少年の日の思い出	光村	7 高揚感	1 内面
320	少年の日の思い出	光村	7 期待	1 情景
321	少年の日の思い出	光村	7 期待	1 様子
322	少年の日の思い出	光村	7 興奮	1 内面
323	少年の日の思い出	光村	7 懐古	0 内面
324	少年の日の思い出	光村	7 不満	-1 境遇
325	少年の日の思い出	光村	7 自慢	1 行為
326	少年の日の思い出	光村	7 恥	-1 境遇
327	少年の日の思い出	光村	7 不本意	0 設定

栄養失調です……。バスがありました。母は弟が死んでいるのでほかの人に配慮したのでしょう、三里の道を歩きました。空は高く高く青く澄んでいました。[…] きらつきらっと機体が美しく輝いています。道にも畑にも、人影はありませんでした。歩いているのは三人だけです。母がときどきヒロユキの顔に飛んでくるはえを手ではらいながら、言いました。「ヒロユキは幸せだった。[…] もっとかわいいそうだった。」家では祖母と妹が、泣いて待っていました。部屋を貸してくださっていた[…] 小さな小さな棺を作っていました。弟はその小さな小さな棺に、母と僕の手で寝かされました。小さな弟でしたが、棺が小さすぎて入りませんでした。母が、大きくなっていったんだね、とヒロユキのひざを曲げて棺に入れました。そのとき、母は初めて泣きました。父は、戦争に行つてすぐ生まれたヒロユキの顔を、とうとう見ないままでした。僕はひもじかったことと、弟の死は一生忘れません。

多数決: 「悲しみ」8、「虚無」4

多数決: 「戸惑い」10、「絶望」4

多数決: 「悲しみ」11、「絶望」2、「寂しさ」1、「自責」
多数決: 「悲しみ」8、「落胆」4、「悔しさ」3、「もどか

屋間の明るさは消えうせようとしていた。窓の外には、色あせた湖が、丘の多い岸に鋭く縁取られて、遠くかなたまで広がって「子供ができてから、自分の幼年時代のいろいろの習慣や楽しみ事が、またよみがそれどころか、一年前から、僕はまた、ちょう集めをやっているよ。お目かけようか。」最初の箱を開けてみて、初めて、もうすっかり暗くなっているのに気づき、たちまち外の景色は闇に沈んでしまい、窓全体が不透明な青い夜に閉ざされてしまっ私のちょうは、明るいランプの光を受けて、箱の中から、きらびやかに光り輝いてい私たちは、その上に体をかがめて、美しい形や、濃い見事な色を眺め、ちょうの名前ここらではごく珍しいやつだ。」友人は、一つのちょうを、ピンの付いたまま箱の中から用心深く取り出し、羽の裏側「妙なものだ。ちょうを見るくらい、幼年時代の思い出を強くそそられるものはな僕は、小さい少年の頃、熱情的な収集家だったものだ。」「もう、結構。」その思い出が不愉快でもあるかのように、彼は口早にそう言った。彼は微笑して、巻きたばこを私に求めた。「悪く思わないでくれたまえ。」僕も子供のとき、むろん収集していたのだが、残念ながら自分でその思い出をけがし実際、話すのも恥ずかしいことだが、ひとつ聞いてもらおう。」私たちの顔は、快い薄暗がりの中に沈んだ。彼の姿は、外の闇からほとんど見分けがつかなかった。外では、かえるが、遠くから甲高く、闇一面に鳴っていた。初めは特別熱心でもなく、ただ、はやりだったのでやっていたまでだった。僕は全くこの遊戯のとりこになり、ひどく心を打ち込んでしまい、みんなは何度も、僕にそれをやめさせなければなるまい、と考えたほどだった。ちょうを採りに出かけると、[…] もう、塔の時計が鳴るのなんか、耳に入らなかつ今でも、美しいちょうを見ると、おりおり、あの熱情が身にしみて感じられる。僕はしばしの間、子供だけが感じることのできる、あのなんともいえない、むさぼるような、うっとりした感じに襲われる。少年の頃、初めてキアゲハに忍び寄った、あのとき味わった気持ちだ。強く匂う、乾いた荒野の、焼けつくような屋下が、庭の中の涼しい朝、神秘的な森の外れの夕方、僕は、まるで宝を探す人のように、網を持って待ち伏せたものだ。捕える喜びに息もつまりそうになり、[…] その緊張と歓喜ときたらなかった。そうした微妙な喜びと、激しい欲望との入り混じった気持ちは、その後、そうたびたび感じたことはなかった。僕は、自分の収集を、古いつぶれたボール紙の箱にしまっておかなければならなかつ初めのうち、僕は、自分の収集を喜んでたびたび仲間に見せたが、自分の幼稚な設備を自慢することなんかできなかった。それどころか、重大で、評判になるような発見物や獲物があつても、ないしょにし、[…] 習慣になった。

328	少年の日の思い出	光村	7 自慢	1 内面	それを展翅し、乾いたときに、得意のあまり、せめて隣の子供にだけは見せよう、という気になった。
329	少年の日の思い出	光村	7 反感	-1 性格	この少年は、非の打ちどころがないという悪徳をもっていた。
330	少年の日の思い出	光村	7 嫌悪	-1 性格	それは、子供としては二倍も気味悪い性質だった。
331	少年の日の思い出	光村	7 軽蔑	-1 様子	彼の収集は小さく貧弱だったが、
332	少年の日の思い出	光村	7 羨望	1 様子	こぎれいなのと、手入れの正確な点で、一つの宝石のようなものになっていた。
333	少年の日の思い出	光村	7 尊敬	1 設定	彼は、[…] 非常に難しい、珍しい技術を心得ていた。
334	少年の日の思い出	光村	7 反感	-1 設定	とにかく、あらゆる点で模範少年だった。
335	少年の日の思い出	光村	7 嫌悪	-1 内面	そのため、僕は妬み、嘆賞しながら彼を憎んでいた。
336	少年の日の思い出	光村	7 自信喪失	-1 内面	こっぴどい批評家のため、自分の獲物に対する喜びはかなり傷つけられた。
337	少年の日の思い出	光村	7 反感	-1 設定	それで、僕は、二度と彼に獲物を見せなかった。
338	少年の日の思い出	光村	7 興奮	1 内面	僕の熱情はまだ絶頂にあった。
339	少年の日の思い出	光村	7 無関心	0 内面	そのときほど、僕は興奮しないだろう。
340	少年の日の思い出	光村	7 熱望	1 内面	クジャクヤママユほど僕が熱烈に欲しがっていたものはなかった。
341	少年の日の思い出	光村	7 熱望	1 行為	幾度となく、僕は、本の中のその挿絵を眺めた。
342	少年の日の思い出	光村	7 興奮	1 内面	僕は、すっかり興奮してしまって、それが見られるときの来るのが待ち切れなくなっ
343	少年の日の思い出	光村	7 高揚感	1 行為	すぐ僕は、中庭を越えて、隣の家の四階へ上がっていった。
344	少年の日の思い出	光村	7 嫉妬	-1 内面	それが、僕にはどのくらい羨ましかったかわからない。
345	少年の日の思い出	光村	7 欲望	1 行為	せめて例のちょうを見たいと、僕は中に入った。
346	少年の日の思い出	光村	7 興奮	1 様子	果たしてそこにあった。
347	少年の日の思い出	光村	7 感動	1 行為	僕はその上にかがんで、毛の生えた赤茶色の触角や、[…] 残らず間近から眺めた。
348	少年の日の思い出	光村	7 不満	-1 様子	あいにく、あの有名な斑点だけは見られなかった。
349	少年の日の思い出	光村	7 欲望	1 行為	胸をどきどきさせながら、僕は紙切れを取りのけたいという誘惑に負けて、留め針を
350	少年の日の思い出	光村	7 感動	1 様子	四つの大きな不思議な斑点が、挿絵のよりはずっと美しく、ずっとすばらしく、僕を
351	少年の日の思い出	光村	7 欲望	1 内面	それを見ると、この宝を手に入れたいという、逆らいがたい欲望を感じて、
352	少年の日の思い出	光村	7 緊張	0 行為	僕は、ピンをそっと引っ張った。
353	少年の日の思い出	光村	7 満足	1 内面	そのとき、さしずめ僕は、大きな満足感のほか何も感じていなかった。
354	少年の日の思い出	光村	7 用心	0 行為	ちょうを右手に隠して、僕は階段を下りた。
355	少年の日の思い出	光村	7 動揺	-1 内面	その瞬間に、僕の良心は目覚めた。
356	少年の日の思い出	光村	7 罪悪感	-1 内面	僕は突然、自分は盗みをした、下劣なやつだということを悟った。
357	少年の日の思い出	光村	7 不安	-1 内面	同時に、見つかりはしないか、という恐ろしい不安に襲われて、
358	少年の日の思い出	光村	7 焦り	-1 行為	僕は、本能的に、獲物を隠していた手を上着のポケットにつっ込んだ。
359	少年の日の思い出	光村	7 恥	-1 内面	ゆっくりと僕は歩き続けたが、大それた恥ずべきことをしたという、冷たい気持ちに
360	少年の日の思い出	光村	7 緊張	-1 行為	上がってきた女中と、びくびくしながらすれ違ってから、
361	少年の日の思い出	光村	7 不安	-1 行為	僕は胸をどきどきさせ、額に汗をかき、落ち着きを失い、自分自身におびえながら、家の入り口に立ち止まった。
362	少年の日の思い出	光村	7 防衛	-1 内面	すぐに僕は、このちょうを持っていることはできない、[…] と悟った。
363	少年の日の思い出	光村	7 警戒	-1 内面	人に出くわして見つかりはしないかということに極度に恐れながらも、
364	少年の日の思い出	光村	7 恐怖	-1 行為	急いで引き返し、階段を駆け上がり、
365	少年の日の思い出	光村	7 悲しみ	-1 内面	それをよく見ないうちに、僕はもう、どんな不幸が起こったかということを知った。
366	少年の日の思い出	光村	7 悲しみ	-1 様子	泣かんばかりだった。
367	少年の日の思い出	光村	7 絶望	-1 様子	クジャクヤママユはつぶれてしまったのだ。
368	少年の日の思い出	光村	7 用心	0 行為	ちぎれた羽を用心深くポケットから引き出そうとすると、
369	少年の日の思い出	光村	7 絶望	-1 様子	羽はばらばらになっていて、繕うことなんかもう思いも寄らなかつた。
370	少年の日の思い出	光村	7 苦悩	-1 内面	盗みをしたという気持ちより、自分がつぶしてしまった、美しい、珍しいちょうを見ているほうが、僕の心を苦しめた。
371	少年の日の思い出	光村	7 後悔	-1 内面	それをすっかり元どおりにすることができたら、僕は、どん持ち物でも楽しみでも、喜んで投げ出したろう。
372	少年の日の思い出	光村	7 悲しみ	-1 行為	悲しい気持ちで、僕は家に帰り、夕方まで、うちの小さい庭の中で腰掛けていたが、
373	少年の日の思い出	光村	7 勇気	1 内面	一切を母に打ち明ける勇気を起こした。
374	少年の日の思い出	光村	7 悲しみ	-1 様子	母は驚き悲しんだが、
375	少年の日の思い出	光村	7 同情	-1 内面	すでに、この告白が、どんな罰を忍ぶことより、僕にとってつらいことだったということを感じたらしかった。
376	少年の日の思い出	光村	7 決意	0 発話	「おまえは、エーミールのところに行かなければなりません。」
377	少年の日の思い出	光村	7 潔さ	0 行為	母はきっぱりと言った。
378	少年の日の思い出	光村	7 心配	0 発話	「そして、自分でそう言わなくてはなりません。
379	少年の日の思い出	光村	7 あきらめ	-1 発話	それより他に、どうしようもありません。
380	少年の日の思い出	光村	7 心配	0 発話	おまえの持っているものうちから、どれかをうめ合わせにより抜いてもらうように、申し出るのです。
381	少年の日の思い出	光村	7 心配	0 発話	そして、許してもらうように頼まなければなりません。」

多数決: 「緊張」10名、「警戒」9名

382	少年の日の思い出	光村	7 葛藤	-1 内面	あの模範少年でなくて、他の友達だったら、すぐにそうする気になれたらう。
383	少年の日の思い出	光村	7 あきらめ	-1 内面	彼が、僕の言うことをわかってくれないし、[…] 僕は前もってはっきり感じてい
384	少年の日の思い出	光村	7 苦悩	-1 内面	そのうちに夜になってしまったが、僕は出かける気になれなかった。
385	少年の日の思い出	光村	7 激励	1 発話	「今日のうちでなければなりません。さあ、行きなさい。」
386	少年の日の思い出	光村	7 心配	0 行為	小声で言った。
387	少年の日の思い出	光村	7 不安	-1 発話	「エーメールは？」
388	少年の日の思い出	光村	7 怒り	-1 行為	彼は出てきて、すぐに、誰かがクジャクヤママユをだいなしにしてしまった[…] と
389	少年の日の思い出	光村	7 戸惑い	0 行為	僕は、そのちょうを見せてくれ、と頼んだ。
390	少年の日の思い出	光村	7 落胆	-1 行為	僕は、だいなしになったちょうが展翅板の上に乗っているのを見た。
391	少年の日の思い出	光村	7 絶望	-1 様子	それは直すよしもなかった。
392	少年の日の思い出	光村	7 謝罪	0 行為	それは僕がやったのだ、と言い、詳しく話し、説明しようと試みた。
393	少年の日の思い出	光村	7 不満	-1 行為	エーメールは、[…] 低く「ちえっ。」と舌を鳴らし、
394	少年の日の思い出	光村	7 冷静	0 様子	しばらくじっと僕を見つめていたが、
395	少年の日の思い出	光村	7 軽蔑	-1 発話	「そうか、そうか、つまり君はそんなやつなんだな。」
396	少年の日の思い出	光村	7 懇願	-1 行為	僕は、彼に、僕のおもちゃをみんなやる、と言った。
397	少年の日の思い出	光村	7 軽蔑	-1 様子	それでも、彼は冷淡に構え、依然僕をただ軽蔑的に見つめていたので、
398	少年の日の思い出	光村	7 懇願	-1 行為	僕は、自分のちょうの収集を全部やる、と言った。
399	少年の日の思い出	光村	7 拒絶	-1 発話	「結構だよ。僕は、君の集めたやつはもう知っている。
400	少年の日の思い出	光村	7 軽蔑	-1 発話	そのうえ、今日また、君がちょうをどんなに取りあつかっているか、ということを見る
401	少年の日の思い出	光村	7 激怒	-1 様子	その瞬間、僕はすんでのところであいつの喉笛に飛びかかるころだった。
402	少年の日の思い出	光村	7 あきらめ	-1 様子	もうどうにもしようがなかった。
403	少年の日の思い出	光村	7 屈辱	-1 性格	僕は悪漢だということに決まってしまう、
404	少年の日の思い出	光村	7 悔しさ	-1 様子	エーメールは、[…] 冷然と、正義を盾に、あなどるように僕の前に立っていた。
405	少年の日の思い出	光村	7 冷静	-1 様子	彼は罵りさえしなかった。
406	少年の日の思い出	光村	7 軽蔑	-1 様子	ただ僕を眺めて、軽蔑していた。
407	少年の日の思い出	光村	7 後悔	-1 内面	そのとき、初めて僕は、一度起きたことは、もう償いのできないものだということ
408	少年の日の思い出	光村	7 あきらめ	-1 行為	僕は立ち去った。
409	少年の日の思い出	光村	7 優しさ	1 行為	母が根掘り葉掘りきこうとしないで、僕にキスだけして、構わずにおいてくれた
410	少年の日の思い出	光村	7 感謝	1 内面	うれしく思った。
411	少年の日の思い出	光村	7 安堵	1 発話	僕は、「床にお入り。」と言われた。
412	少年の日の思い出	光村	7 虚無	-1 行為	僕は、[…] 大きなとび色の厚紙の箱を取ってき、それを寝台の上に乗せ、闇の中で
413	少年の日の思い出	光村	7 絶望	-1 行為	ちょうを一つ一つ取り出し、指で粉々に押しつぶしてしまった。
	合計(ポジ・ ネガ)			-23	
	平均(ポジ・ ネガ)			-0.57447	

多数決: 「苦悩」1名、「葛藤」10名、「反感」4名、「罪悪

通し番号396に準じる

「あきらめ」はエーメールの感情。当時の「僕」にとっては

多数決: 「虚無」7名、「喪失感」1名、「絶望」3名
多数決: 「反感」6名、「絶望」12名

414	アイスプラネット	光村	8 不思議	0 様子	でも、ぐうちゃんは変わった人で、そう言われるとなんだかうれしそうだ。
415	アイスプラネット	光村	8 いらだち	-1 様子	それを見て僕の母はまた怒る。
416	アイスプラネット	光村	8 不思議	0 性格	怒るけど「これ、ぐうちゃんの好物。」[…] ご飯の支度をしているから母もちょっと変わっている。
417	アイスプラネット	光村	8 安心	1 発話	ぐうちゃんがいると[…] 父はぐうちゃんのいそうろうを歓迎しているみたいだ。
418	アイスプラネット	光村	8 好奇心	1 内面	いかにもプロの道具みたいで格好いい。
419	アイスプラネット	光村	8 いらだち	-1 様子	僕の母は、ぐうちゃんのそういう落ち着かない仕事のしかたが気に入らないようだ。
420	アイスプラネット	光村	8 心配	-1 発話	「ちゃんと就職して早く独立しなさい。[…] といつも怒る。
421	アイスプラネット	光村	8 あやふや	0 発話	当のぐうちゃんは、[…] などと訳のわからないことを言う。
422	アイスプラネット	光村	8 不愉快	-1 発話	すると、母はこんどは僕に向かって、[…] 大人になってはだめだからね。」と言う。
423	アイスプラネット	光村	8 反感	-1 内面	本当に文句ばかりだ。
424	アイスプラネット	光村	8 好意	1 内面	そんな「ぐうちゃん」だけど、僕はぐうちゃんが大好きだ。
425	アイスプラネット	光村	8 愉快	1 内面	ぐうちゃんの話は文句なしにおもしろいのだ。
426	アイスプラネット	光村	8 心配	-1 発話	母は、「みんなほら話なんだから[…] 勉強していなさい。」と言うけれど、
427	アイスプラネット	光村	8 愉快	1 内面	宿題をするよりよっぽどおもしろい。
428	アイスプラネット	光村	8 期待	1 様子	ぐうちゃんは、細い目をめいっぱい見開くようにして僕にきいた。
429	アイスプラネット	光村	8 期待	1 内面	それは、いつもおもしろい話をするときのぐうちゃんの癖で[…] その表情が好きだ。
430	アイスプラネット	光村	8 反感	-1 内面	でも、今日は話のテーマがちょっと幼稚すぎる。
431	アイスプラネット	光村	8 好奇心	1 内面	とはいえ、宿題するよりはずっとおもしろそうだから、[…] その話を聞いていることにした。
432	アイスプラネット	光村	8 自信	1 発話	「アナコンダとかいうやつだね。アフリカの密林あたりにいる。」
433	アイスプラネット	光村	8 愉快	1 発話	「悠君は地理に弱いんだなあ。
434	アイスプラネット	光村	8 不安	-1 発話	「泳いでいて出会ったら嫌だな。飲み込まれちゃいそうさ。」
435	アイスプラネット	光村	8 疑い	-1 内面	ぐうちゃんの話はいつも怪しい。
436	アイスプラネット	光村	8 反感	-1 内面	僕がおもしろがれば良いと思っているのだ。
437	アイスプラネット	光村	8 反感	-1 発話	

438	アイスプラネット	光村	8 自信	1 発話	「ありえねくないんだよ。」ぐうちゃんは変な言い方をした。	
439	アイスプラネット	光村	8 疑い	-1 内面	本当かなあ。	
440	アイスプラネット	光村	8 用心	0 内面	力の籠った話し方を聞いていると、[...] ほら話の世界に取り込まれてしまいそうにな	
441	アイスプラネット	光村	8 愉快	1 内面	でもその怪しさがやっぱりおもしろい。	
442	アイスプラネット	光村	8 好奇心	1 発話	どうせほら話だから僕も大きく出ることにした。「そうだね。じゃーメートル！」	
443	アイスプラネット	光村	8 愉快	1 発話	「ブッブー。」	
444	アイスプラネット	光村	8 反感	-1 内面	外れの合図らしいけど、まるっきり子供扱いだ。	
445	アイスプラネット	光村	8 反感	-1 発話	「うそだあ。ありえねえ。」	他候補：疑い
446	アイスプラネット	光村	8 いらだち	-1 内面	さすがに頭にきた。	
447	アイスプラネット	光村	8 反感	-1 内面	僕を小学生ぐらいと勘違いしているんだ。	
448	アイスプラネット	光村	8 愉快	1 表情	ぐうちゃんは、また細い目になった。	多数決：「愉快」9名、「満足」6名
449	アイスプラネット	光村	8 反感	-1 内面	僕をからかって喜んでいる目だ。	
450	アイスプラネット	光村	8 冷静	0 発話	「ふうん。」なんだかばかばかしくなったので気のない返事をした。	
451	アイスプラネット	光村	8 潔さ	1 発話	「あ、信じてないだろう。[...] ぐうちゃんは話の作戦を変えてきた。	
452	アイスプラネット	光村	8 期待	1 内面	宇宙の話は好きだ。	
453	アイスプラネット	光村	8 落胆	-1 内面	ところが、ぐうちゃんの話は、地球の中の宇宙の話だった。	
454	アイスプラネット	光村	8 疑い	-1 発話	「童話か何かの話？」	
455	アイスプラネット	光村	8 自信	1 発話	「いや、本当にある話だよ。[...] いい話だろ。」	
456	アイスプラネット	光村	8 落胆	-1 発話	「やっぱりありえねえ。俺、風呂の時間だし。」	多数決：「落胆」7名、「あきらめ」6名
457	アイスプラネット	光村	8 拒絶	-1 行為	ぐうちゃんは続けて話したそうだったけれど、[...] 逃げることにした。	
458	アイスプラネット	光村	8 反感	-1 内面	ぐうちゃんは、やっぱり今どきの中学生をなめているのだ。	
459	アイスプラネット	光村	8 用心	0 内面	初めはどうしようかと思ったけど、	
460	アイスプラネット	光村	8 期待	1 行為	馬も飲み込んでしまう でっかいアナコンダや[...] つい吉井や今村にその話をしてしまった。	
461	アイスプラネット	光村	8 疑い	-1 発話	二人は僕の話が終わると顔を見合わせて、「ありえねえ。」「証拠見せろよ。」と言った。	
462	アイスプラネット	光村	8 冷静	0 内面	「そんなほら話、小学生でも信じないぞ。」そう言われればそうだ。	多数決：「冷静」9名、「納得」4名
463	アイスプラネット	光村	8 期待	1 発話	だから、部活が終わって大急ぎで家に帰ると、[...] と不愛想に言った。	
464	アイスプラネット	光村	8 戸惑い	0 様子	ぐうちゃんは少し考えるしぐさをして[...] 目をパチパチさせている。	多数決：「戸惑い」9名、「混乱」4名
465	アイスプラネット	光村	8 いらだち	-1 内面	むっとした。	
466	アイスプラネット	光村	8 嫌悪	-1 内面	そんな言い逃れをするぐうちゃんは好きではない。	
467	アイスプラネット	光村	8 屈辱	-1 内面	なんかぐうちゃんに僕の人生が全面的にからかわれた感じだ。	
468	アイスプラネット	光村	8 後悔	-1 内面	吉井や今村に話をした分だけ損をした。[...] 僕までほら吹きになってしまったのだ。	
469	アイスプラネット	光村	8 無関心	0 行為	僕は人生を全面的にからかわれて以来、[...] 気にも留めなかった。	
470	アイスプラネット	光村	8 尊敬	1 発話	「僕たちは、都市のヒルの中にあるからなかなか気がつかないけど、[...] いっぱい見えているんたろうね」	
471	アイスプラネット	光村	8 羨望	1 発話	なんだか羨ましいような気がするな。」	
472	アイスプラネット	光村	8 高揚感	0 様子	母は、珍しくビールまで飲んだらしく、[...] もっと強烈に雄弁になっている。	
473	アイスプラネット	光村	8 心配	-1 発話	「あなたは何をのんきなことを言っているの。[...] どう責任とってくれるのかし	
474	アイスプラネット	光村	8 不本意	-1 内面	ただ、僕のことでぐうちゃんが責められるのは少し違う気がする。	
475	アイスプラネット	光村	8 気がかり	-1 内面	そう思うと、電気の消えたぐうちゃんの部屋が急に寂しく感じられてきた。	
476	アイスプラネット	光村	8 愉快	1 内面	顔と手足が真っ黒になっていて、パンツ一つになると、どうしても笑いたくなって	
477	アイスプラネット	光村	8 期待	1 内面	久しぶりにぐうちゃんの話ほら話を聞きたいと思った。	
478	アイスプラネット	光村	8 潔さ	1 内面	またからかわれてもいい。	
479	アイスプラネット	光村	8 期待	1 内面	暑いから、今度は寒い国の話が聞きたいと思った。	
480	アイスプラネット	光村	8 落胆	-1 内面	ところが、ぐうちゃんの話は、でっかい動物のでも、暑い国のでも、寒い国のでもな	他候補：驚き
481	アイスプラネット	光村	8 驚き	-1 内面	「でもまあもう少し。」にはこんな意味があったのか。	
482	アイスプラネット	光村	8 混乱	-1 内面	ぐうちゃんはいつもと変わらずに話を続けている。それなのに、ぐうちゃんの声はど	
483	アイスプラネット	光村	8 失望	-1 発話	んどん遠くなっていく。	
484	アイスプラネット	光村	8 驚き	0 表情	気がつく、僕はぶっきらぼうに言っていた。「勝手に行けばいいじゃないか。」	
485	アイスプラネット	光村	8 拒絶	-1 行為	ぐうちゃんは、そのときちょっと驚いた表情をした。	
486	アイスプラネット	光村	8 きまり 悪さ	-1 行為	何か話しかけようとするぐうちゃんを残して僕は部屋を出た。	
487	アイスプラネット	光村	8 心配	-1 行為	それ以来、僕は二度とぐうちゃんの部屋には行かなかった。	
488	アイスプラネット	光村	8 愛情	1 行為	母は、そんな僕たちに、あきれたり慌てたりしていたけれど、	
489	アイスプラネット	光村	8 不本意	-1 内面	父は何も言わなかった。	
490	アイスプラネット	光村	8 きまり 悪さ	-1 内面	十月の初めに、ぐうちゃんは[...]「いそうろう」を卒業してしまった。	
491	アイスプラネット	光村	8 激励	1 行為	出発の日、僕は、なんて言っているのかわからないままぐうちゃんの前立って	
492	アイスプラネット	光村	8 不満	-1 内面	ぐうちゃんは僕に近づき、あの表情で笑った。そして[...] 大股で僕の家を出てい	
493	アイスプラネット	光村	8 寂しさ	-1 内面	「ほらすっかりだったじゃないか。」	
494	アイスプラネット	光村	8 期待	1 内面	「いそうろう」がいなくなってしまう部屋の前で、僕はそう思った。	多数決：「期待」9名、「高揚感」4名、「好奇心」3名
495	アイスプラネット	光村	8 期待	1 様子	ぐうちゃんから[...] 手紙が届いたのは、それから四か月ぐらいたってからだった。	
496	アイスプラネット	光村	8 期待	1 発話	珍しい切手がいっぱい貼ってあった。	
					悠君にもいつか見てほしい。	

497 アイスプラネット 光村 8 激励 1 発話
 498 アイスプラネット 光村 8 期待 1 発話
 499 アイスプラネット 光村 8 尊敬 1 様子
 500 アイスプラネット 光村 8 信頼 1 内面
 合計(ポジ・ ネガ) -6
 平均(ポジ・ ネガ) -0.068965

501 世界で一番の贈り物 光村 8 懐古 0 設定
 502 世界で一番の贈り物 光村 8 自信 1 発話
 503 世界で一番の贈り物 光村 8 自信 1 行為
 504 世界で一番の贈り物 光村 8 熱望 1 内面
 505 世界で一番の贈り物 光村 8 もどかしさ -1 内面
 506 世界で一番の贈り物 光村 8 冷静 -1 様子
 507 世界で一番の贈り物 光村 8 気がかり -1 様子
 508 世界で一番の贈り物 光村 8 気がかり -1 様子
 509 世界で一番の贈り物 光村 8 安堵 1 内面
 510 世界で一番の贈り物 光村 8 自信 1 内面
 511 世界で一番の贈り物 光村 8 不安 -1 内面
 512 世界で一番の贈り物 光村 8 葛藤 0 内面
 513 世界で一番の贈り物 光村 8 決意 1 行為
 514 世界で一番の贈り物 光村 8 懐古 0 行為
 515 世界で一番の贈り物 光村 8 不愉快 -1 様子
 516 世界で一番の贈り物 光村 8 拒絶 -1 内面
 517 世界で一番の贈り物 光村 8 納得 0 内面
 518 世界で一番の贈り物 光村 8 不安 -1 内面
 519 世界で一番の贈り物 光村 8 同情 -1 内面
 520 世界で一番の贈り物 光村 8 落胆 -1 様子
 521 世界で一番の贈り物 光村 8 決意 0 内面
 522 世界で一番の贈り物 光村 8 いらだち -1 行為
 523 世界で一番の贈り物 光村 8 驚き 0 様子
 524 世界で一番の贈り物 光村 8 興奮 1 内面
 525 世界で一番の贈り物 光村 8 不思議 0 様子
 526 世界で一番の贈り物 光村 8 好奇心 1 行為
 527 世界で一番の贈り物 光村 8 葛藤 0 内面
 528 世界で一番の贈り物 光村 8 好奇心 1 行為
 529 世界で一番の贈り物 光村 8 自嘲 0 内面
 530 世界で一番の贈り物 光村 8 防衛 0 内面
 531 世界で一番の贈り物 光村 8 好奇心 1 行為
 532 世界で一番の贈り物 光村 8 幸福 1 行為
 533 世界で一番の贈り物 光村 8 幸福 1 内面
 534 世界で一番の贈り物 光村 8 興奮 1 内面
 535 世界で一番の贈り物 光村 8 警戒 -1 様子
 536 世界で一番の贈り物 光村 8 懐古 0 様子
 537 世界で一番の贈り物 光村 8 清々しさ 1 情景
 538 世界で一番の贈り物 光村 8 感動 1 情景
 539 世界で一番の贈り物 光村 8 清々しさ 1 情景
 540 世界で一番の贈り物 光村 8 自尊心 1 様子
 541 世界で一番の贈り物 光村 8 きまり悪さ 0 内面
 542 世界で一番の贈り物 光村 8 尊敬 1 様子
 543 世界で一番の贈り物 光村 8 好意 1 発話
 544 世界で一番の贈り物 光村 8 戸惑い 0 行為
 545 世界で一番の贈り物 光村 8 冷静 0 様子
 546 世界で一番の贈り物 光村 8 愉快 1 様子
 547 世界で一番の贈り物 光村 8 愉快 1 発話
 548 世界で一番の贈り物 光村 8 冷静 0 内面
 549 世界で一番の贈り物 光村 8 冷静 0 内面
 550 世界で一番の贈り物 光村 8 驚き 0 様子
 551 世界で一番の贈り物 光村 8 戸惑い 0 様子
 552 世界で一番の贈り物 光村 8 用心 -1 発話
 553 世界で一番の贈り物 光村 8 警戒 -1 発話

若いうちに勉強をたくさんして、[...] 世界に出かけていくとおもしろいぞ。
 世界は、楽しいこと、悲しいこと[...] それを自分の目で確かめてほしいんだ。
 手紙には、ぐう ちゃん力強い文字がぎっしり詰まっていた。
 そして、封筒からは写真が二枚出てきた。[...] 氷の惑星の写真だった。

多数決: 「信頼」9名、「希望」5名

その机を見つけたのは、ブリッド ボード のがらくた屋の店先だった。
 「十九世紀初期の品で、オーク材ですよ。」
 店の人は、そう言って勧めた。
 ずっと前から、そんな蓋の付いた机が欲しかったんだ。
 でもたいていは値段が高すぎて、手が出せなかった。
 その机は、ひどいありさまだった。
 巻き上げ式の蓋は壊れているし、一本の脚にはへたくそな修理の痕がある。
 おまけに、横っちょが焼け焦げていた。
 おかげで、たいした金額じゃなかった。
 それに、僕ならその机を元通りに直せるような気がした。
 もちろん、やってみないとわからない。
 でも念願のローレルトップデスクを手に入れるチャンスじゃないか。
 そう考えて店の人に代金を払うと、その机をガレージ億に運び込んだ。
 修理を始めたのはクリスマス・ イヴだった。
 イヴには家に親戚の連中が集まって、大騒ぎをしていた。
 だから、しばらく一人になりたかったんだ。
 始めてみてわかった。
 これは思ったより大仕事になりそうだ。
 火と水の両方に痛めつけられたんだな。
 なだめたり、すかしたり……いろいろやってみたが、びくともしない。
 こうなったら、カズくで開けるよりしょうがない。
 げんこつで、思い切りたたいた。
 すると引き出しが、ぼんと飛び出してきて、その下に小さな空間が現れた。
 秘密の引き出しだったんだ。
 中に何か入っているようだった。
 手を突っ込んで取り出してみると、それは黒い小さなブリキの箱だった。
 むやみに開けちゃいけない。
 そうわかっていながら、箱を開けていた。
 結局好奇心の強さが、良心のとがめを吹き飛ばしたわけだ。
 まあ、たいてい、そんなものだろう。
 封筒から手紙を取り出して開いてみた。
 私は今、とても幸せな気分で、この手紙を書いている。
 すばらしいことが起きたんだ。
 それを早く君に知らせたくてたまらない。
 昨日の朝、我々は全員塹壕の中で、ドイツ軍の攻撃に備えていた。
 クリスマスの朝だった。
 辺りはしんと静まり返り、空気は冷たくさえ渡っていた。
 見たこともないくらい、それはそれは美しい朝だった。
 真っ白く霜が降りて、凍えるような、いかにもクリスマスらしい朝だった。
 始めたのは我が軍。
 そういえたらよいのだが、残念ながら違った。
 ドイツ軍の兵士から始めたことだ。
 「メリー・クリスマス、イギリスさん！クリスマスおめでとう！」
 一同、耳を疑い呆然とした。
 ようやく驚きが収まった頃だ。
 こちらの塹壕からどなり返すものがあつた。
 「こっちからも、メリー・クリスマス！ドイツさん！」
 それで、もう終わり。
 誰もがそう思った。
 ところがそのときドイツ兵が一人立ち上がり、大きく白旗を振りだした。
 外套姿を、すっかりこちらにさらして。
 「おい、撃つんじゃないぞ！」と我が軍の兵士の声。
 「頭を下げろ。畏かもしれん。」

554	世界で一番の贈り物	光村	8	警戒	-1	行為	私は、部下の兵士たちに命じた。
555	世界で一番の贈り物	光村	8	安堵	1	様子	だが罨ではなかった。
556	世界で一番の贈り物	光村	8	好意	1	様子	一人のドイツ兵が、頭の上で酒瓶を振って見せながら、こう言った。
557	世界で一番の贈り物	光村	8	好意	1	発話	「今日はクリスマスだ、イギリスさん[…] どうだいいっしょにやらないか？」
558	世界で一番の贈り物	光村	8	戸惑い	0	様子	気が付くと十人ほどのドイツ兵が、[…] ぞろぞろ歩いてくる所だった。
559	世界で一番の贈り物	光村	8	戸惑い	0	様子	しかも、ライフルを持たずに。
560	世界で一番の贈り物	光村	8	興奮	1	発話	「行きましょう。何をぐずぐずしているんです？」
561	世界で一番の贈り物	光村	8	あきらめ	-1	様子	もはや、止められるものではなかった。
562	世界で一番の贈り物	光村	8	冷静	0	境遇	私は将校だ。
563	世界で一番の贈り物	光村	8	反省	-1	内面	その場でやめさせるべきだったかもしれない。
564	世界で一番の贈り物	光村	8	潔さ	1	内面	でも、そんな気には全くなれなかった。
565	世界で一番の贈り物	光村	8	懐古	0	様子	私もそこにいた。
566	世界で一番の贈り物	光村	8	平穩	1	様子	そう、戦争の最中に我々は、つかの間の平和を作り出したのだ。
567	世界で一番の贈り物	光村	8	自慢	1	様子	この私も、そのうちの一人だった。
568	世界で一番の贈り物	光村	8	好意	1	行為	ドイツの将校が、私のところにやって来て、手を差し伸べた。
569	世界で一番の贈り物	光村	8	感動	1	内面	その男と、目を合わせたときの気持ちといったら、コニー……。
570	世界で一番の贈り物	光村	8	好意	1	行為	温かい握手をかわし、その手を握ったままにして、彼は話しかけてきた。
571	世界で一番の贈り物	光村	8	好意	1	発話	「私はハンス・ヴォルフ[…] クリスマスおめでとう。」
572	世界で一番の贈り物	光村	8	好意	1	行為	こちらからも挨拶を返した。
573	世界で一番の贈り物	光村	8	好意	1	発話	「ジム・マクファーソン大佐だ[…] イギリスの南西部だ。」
574	世界で一番の贈り物	光村	8	好意	1	発話	「ああ、ドーセットね[…] とてもよく知っている。」
575	世界で一番の贈り物	光村	8	好意	1	表情	彼はそう言って、ほほえんだ。
576	世界で一番の贈り物	光村	8	幸福	1	内面	とてもよかったよ。
577	世界で一番の贈り物	光村	8	熱中	1	内面	コニー、どんなに夢中で語り合ったかしのれない。
578	世界で一番の贈り物	光村	8	好意	1	様子	ハンスは、なかなかきれいな英語を話した。
579	世界で一番の贈り物	光村	8	不思議	0	様子	ところが話の様子から、ドーセットへいったことがないのがわかってきた。
580	世界で一番の贈り物	光村	8	納得	0	境遇	イギリスについての知識は、学校で学んだのだそう。
581	世界で一番の贈り物	光村	8	愉快	1	行為	それでなんと、この荒れ果てた無人地帯で[…] 牧場の話に花を咲かせた。
582	世界で一番の贈り物	光村	8	やるせなさ	-1	境遇	彼には奥さんと、生まれてまだ六か月の息子がいるそう。
583	世界で一番の贈り物	光村	8	平穩	1	様子	見回すと、無人地帯は、カーキ色とグレーが入り混じった塊で、いっぱいだった。
584	世界で一番の贈り物	光村	8	平穩	1	様子	交換したタバコをふかし、笑い合い[…] 食べ物を分け合う兵士たち。
585	世界で一番の贈り物	光村	8	自慢	1	行為	コニー、君がクリスマスのために焼いてくれたケーキを[…] ふるまってやったよ。
586	世界で一番の贈り物	光村	8	幸福	1	行為	こんなにおいしいマジパンは[…] コニー、私も同感だと言った。
587	世界で一番の贈り物	光村	8	好意	1	様子	彼とは何でも意見が合うんだ。
588	世界で一番の贈り物	光村	8	皮肉	0	境遇	敵だというのにな。
589	世界で一番の贈り物	光村	8	幸福	1	内面	コニー、まず考えられないようなクリスマスパーティーだった。
590	世界で一番の贈り物	光村	8	平穩	1	様子	そのうち誰かが、サッカーボールを持ち出した。
591	世界で一番の贈り物	光村	8	平穩	1	様子	無人地帯の真ん中で、ドイツ対イギリスのサッカーの試合が始まった。
592	世界で一番の贈り物	光村	8	興奮	1	行為	手をたたいたり、足を踏み鳴らしたりしながら。
593	世界で一番の贈り物	光村	8	愉快	1	内面	そうしないと、寒くていられなかったから。
594	世界で一番の贈り物	光村	8	平穩	1	様子	二人のはく息が、目の前で混ざり合った。
595	世界で一番の贈り物	光村	8	好意	1	表情	ハンスも、それに気がついて笑った。
596	世界で一番の贈り物	光村	8	愉快	1	発話	「ジム・マクファーソン、この戦争を[…] 試合で、勝負を決めればいい。
597	世界で一番の贈り物	光村	8	皮肉	-1	発話	サッカーなら、誰も死なずにすむ。親を失う子もない。夫を失う妻もない。
598	世界で一番の贈り物	光村	8	愉快	1	発話	「クリケットにしてくれないか[…] イギリス勢のほうが勝てそうだから。」
599	世界で一番の贈り物	光村	8	平穩	1	様子	そんなことを言って、笑い合いながらサッカーの試合を楽しんでいた。
600	世界で一番の贈り物	光村	8	落胆	-1	様子	だがコニー、残念ながら二対一でドイツチームの勝ちに終わった。
601	世界で一番の贈り物	光村	8	好意	1	行為	しかし、ハンス・ヴォルフが、こう慰めてくれた。
602	世界で一番の贈り物	光村	8	潔さ	1	発話	イギリス側のゴールのほうが、ドイツ側より広がった。
603	世界で一番の贈り物	光村	8	潔さ	1	発話	だから公平ではなかったんだと。
604	世界で一番の贈り物	光村	8	寂しさ	-1	様子	楽しい時間は、またたく間に過ぎてしまった。
605	世界で一番の贈り物	光村	8	寂しさ	-1	様子	サッカーの試合が終わるころには[…] とつくになくなっていた。
606	世界で一番の贈り物	光村	8	やるせなさ	-1	内面	もう、終わりにするよりしょうがないとは、誰もがわかっていた。
607	世界で一番の贈り物	光村	8	激励	1	発話	私はハンスに元気でと言い、早く家族のもとに帰れるようにと言った。
608	世界で一番の贈り物	光村	8	希望	1	発話	この戦争が終わって、みんなが故郷に帰れるよう願っている。
609	世界で一番の贈り物	光村	8	やるせなさ	-1	発話	「兵士は一人残らず、そう願っているさ。どちらの軍の兵士も。」
610	世界で一番の贈り物	光村	8	好意	1	発話	「じゃあ、元気でなジム[…] 今日のことは忘れないよ。君のことも忘れない。」
611	世界で一番の贈り物	光村	8	寂しさ	-1	行為	彼は私に向かって敬礼すると、ゆっくり戻っていった。
612	世界で一番の贈り物	光村	8	寂しさ	-1	様子	まるで別れたくないともいうように。
613	世界で一番の贈り物	光村	8	寂しさ	-1	行為	一度だけ、こちらを振り向いて手を振った。

多数決: 「やるせなさ」7 「愛情」6

コニーへの「愛情」、ハンスへの「自慢」(8人) 「共感」(5人)

614	世界で一番の贈り物	光村	8	やるせなさ	-1	様子
615	世界で一番の贈り物	光村	8	愉快	1	様子
616	世界で一番の贈り物	光村	8	愉快	1	行為
617	世界で一番の贈り物	光村	8	平穩	1	様子
618	世界で一番の贈り物	光村	8	寂しさ	-1	様子
619	世界で一番の贈り物	光村	8	平穩	1	内面
620	世界で一番の贈り物	光村	8	幸福	1	内面
621	世界で一番の贈り物	光村	8	希望	1	内面
622	世界で一番の贈り物	光村	8	納得	1	様子
623	世界で一番の贈り物	光村	8	希望	1	内面
624	世界で一番の贈り物	光村	8	希望	1	内面
625	世界で一番の贈り物	光村	8	冷静	0	行為
626	世界で一番の贈り物	光村	8	罪悪感	-1	行為
627	世界で一番の贈り物	光村	8	反省	-1	行為
628	世界で一番の贈り物	光村	8	後悔	-1	内面
629	世界で一番の贈り物	光村	8	後悔	-1	内面
630	世界で一番の贈り物	光村	8	決意	1	内面
631	世界で一番の贈り物	光村	8	決意	1	内面
632	世界で一番の贈り物	光村	8	戸惑い	0	様子
633	世界で一番の贈り物	光村	8	納得	0	発話
634	世界で一番の贈り物	光村	8	好意	1	発話
635	世界で一番の贈り物	光村	8	不思議	0	発話
636	世界で一番の贈り物	光村	8	同情	0	発話
637	世界で一番の贈り物	光村	8	優しさ	1	発話
638	世界で一番の贈り物	光村	8	安堵	1	様子
639	世界で一番の贈り物	光村	8	好意	1	様子
640	世界で一番の贈り物	光村	8	好意	1	様子
641	世界で一番の贈り物	光村	8	愉快	1	様子
642	世界で一番の贈り物	光村	8	感謝	1	様子
643	世界で一番の贈り物	光村	8	優しさ	1	発話
644	世界で一番の贈り物	光村	8	好意	1	発話
645	世界で一番の贈り物	光村	8	不思議	0	様子
646	世界で一番の贈り物	光村	8	希望	1	表情
647	世界で一番の贈り物	光村	8	幸福	1	表情
648	世界で一番の贈り物	光村	8	興奮	1	行為
649	世界で一番の贈り物	光村	8	落胆	-1	様子
650	世界で一番の贈り物	光村	8	愛情	1	行為
651	世界で一番の贈り物	光村	8	驚き	0	行為
652	世界で一番の贈り物	光村	8	幸福	1	表情
653	世界で一番の贈り物	光村	8	幸福	1	発話
654	世界で一番の贈り物	光村	8	愛情	1	行為
655	世界で一番の贈り物	光村	8	愛情	1	発話
656	世界で一番の贈り物	光村	8	幸福	1	発話
657	世界で一番の贈り物	光村	8	期待	1	発話
658	世界で一番の贈り物	光村	8	愛情	1	発話
	合計(ポジ・ネガ)				58	
	平均(ポジ・ネガ)				0.36708	

659	盆土産	光村	8	気がかり	0	行為
660	盆土産	光村	8	警戒	-1	内面
661	盆土産	光村	8	もどかしさ	-1	内面
662	盆土産	光村	8	不本意	-1	行為
663	盆土産	光村	8	愉快	1	発話
664	盆土産	光村	8	もどかしさ	-1	内面
665	盆土産	光村	8	不満	-1	行為
666	盆土産	光村	8	不満	-1	行為
667	盆土産	光村	8	不満	-1	内面
668	盆土産	光村	8	反感	-1	発話
669	盆土産	光村	8	反感	-1	発話
670	盆土産	光村	8	不満	-1	発話

そしてドイツ軍の塹壕に戻る何百人というグレーの外套の兵士たちの一人になった。ドイツ語で歌う見事な「きよこの夜」だった。こちら声も張り上げて「羊飼いたちが」を歌い返した。しばらくの間、両軍が代わる代わる、いくつもクリスマスキャロルを歌い合った。やがて、いつのまにか歌声はとどえ、辺りは静けさに包まれた。つかの間とはいえ、思いやりに満ちた、心温まる時間がもてた。かけがえのない一生の宝物そんなひとときだった。来年のクリスマスには、この戦争も、ただの遠い思い出話になっていることだろう。今日の出来事で、[…] どんなに平和を願っているかがよくわかった。君のもとに戻れる日が、もうすぐ来る。私は、そう信じている。手紙を畳んで、そっと封筒に戻した。手紙を見つけたことは、誰にも言わなかった。誰かの大事な場所に、勝手に踏み込んでしまった。そんな後ろめたさを自分の胸にしまい込んだ。たぶんそのせいだろう、その晩はどうしても眠れなかった。朝までには自分のやるべきことを、すっかり決めていた。僕は口実を作って、みんなと教会にはいかないことにした。十二番地の家は、焼け焦げた残骸になっていた。「ああ、あの人のことかい。」「気のいいおばあさんだよ。もともと[…] ここに住んでいたよ。なんで火事になったかは、わからずじまいさ。たぶん原因はろうそくの火だろうな[…] いつも言っていたよ。うまく消防隊が間に合って[…] 通りにあるパーリントン・ハウスだ。」パーリントン・ナーシング・ホームは、すぐに見つかった。玄関ホールは、色紙の鎖で、飾り付けられていた。クリスマスツリーにも明かりがともり、そのてっぺんで天使の人形が傾いていた。食堂ではちょうど、紙の帽子をかぶった[…] 楽しげに歌っていた。みんなと同じ紙の帽子をかぶったヘルパーさんが、[…] ごちそうしてくれた。ヘルパーさんは、並んで廊下を歩きながら[…] とっても喜ぶんじゃないかしら。」「クリスマスおめでとう、コニーさん[…] あなたの物ですよ。」そう言っている間、コニーさんは、僕の顔から目を離さない。コニーさんの目にはっきり、光がともった。顔中に喜びがあふれ、輝き始めた。僕は、ロールトップデスクを狩ったことから始めて[…] 説明した。それなのに、僕の言葉など少しも聞いていないようだった。しばらくの間、コニーさんは黙ったまま、ただ指先で優しく手紙をなでていた。そのうち、ずっと片手を伸ばしたと思うと、僕の手を取った。目には、涙があふれていた。「あなた、そう言ったものね[…] さあジム、そばに来て。ここに、坐って。」僕が隣に座ると、コニーさんは、そっと、僕の頬にキスをした。「ねえ、ジム。私、この手紙を毎日[…] あなたが、そばにいるようだった。やっと、帰ってきてくれたのね。あなたの手紙、読んでくださる？私に読んで聞かせてくださる？ねえジム、もう一度あなたの声が[…] マジパンがとっても大好きだから。」

多数決: 「罪悪感」4「きまり 悪さ」3

真実を知った「僕」の「悲しみ」
 真実を知った「僕」の「悲しみ」
 真実を知った「僕」の「悲しみ」
 真実を知った「僕」の「悲しみ」
 真実を知った「僕」の「悲しみ」
 真実を知った「僕」の「悲しみ」

671	盆土産	光村	8 不満	-1 内面	帰るなら、もっと早くに知らせてくれれば、…釣っておかなければいけない。	
672	盆土産	光村	8 心配	-1 内面	今朝釣ってどうにか送り盆の晩には間に合うくらいだから、…気が気ではなかった。	
673	盆土産	光村	8 気がかり	0 内面	えびフライ、どうもそいつが気にかかる。	
674	盆土産	光村	8 心配	-1 内面	ゆうべ、といいても、まだ日が暮れたばかりの頃だったが、…思ったのだ。	多数決：動揺8、心配4
675	盆土産	光村	8 危惧	-1 内面	普段、速達などには縁のない暮らしをしているから、…感じてしまう。	
676	盆土産	光村	8 不思議	0 行為	祖母と、姉と、三人で、しばらく顔を見合わせていた。	
677	盆土産	光村	8 戸惑い	-1 内面	父親は、正月休みで帰ってきたとき、…みんなすっかりその気でいたのだ。	
678	盆土産	光村	8 期待	1 内面	もちろん、父親が帰ってくるのは、嬉しかったが	
679	盆土産	光村	8 不安	-1 内面	正直言って土産が少し心もとなしかった。	
680	盆土産	光村	8 不安	-1 内面	えびフライというものは、まだ見たことも食ったこともない。	多数決：不安6 戸惑い5、動揺1
681	盆土産	光村	8 戸惑い	-1 発話	「どっちらもんで……えびのフライだえな。	
682	盆土産	光村	8 意地悪	-1 発話	えんぴじゃねくて、えびフライ。」	
683	盆土産	光村	8 きまり悪さ	-1 様子	姉は、にこりとせせずにそう言って、…鼻の頭でも眺めるような目つきをしていた。	
684	盆土産	光村	8 戸惑い	-1 内面	両方一いっしょにして、えびフライを言われると、…わからなくなる。	多数決：戸惑い11、不安1
685	盆土産	光村	8 不思議	0 内面	あんな小えびを、どうやって…コロケのようにするのだろうか。	
686	盆土産	光村	8 戸惑い	-1 発話	「……うめもんせ。」	
687	盆土産	光村	8 期待	1 内面	それは、父親がわざわざ東京から盆土産に…とびきりうまいものには違いない。	
688	盆土産	光村	8 もどかしさ	0 行為	だからこそ、気になってつい、「えびフライ……。」…いられないのだ。	
689	盆土産	光村	8 興奮	1 内面	これはすこぶるまずいものだが、もうすぐうまいものが食えるのだから…気にならな	
690	盆土産	光村	8 納得	0 内面	父親の土産のうまさをよく味わうためにも、…まずくしておいたほうがいいのだ。	
691	盆土産	光村	8 いらだち	-1 発話	「ばためぐなじゃ、こりゃあ。」	
692	盆土産	光村	8 懐古	0 様子	父親は、村にいる頃から…あみだかぶりにする癖があったが、	
693	盆土産	光村	8 安堵	1 様子	今度も真新しいハンチングのひさしをあげて、はげ上がった額を丸出しにして帰って	多数決：安堵8、安心4
694	盆土産	光村	8 気がかり	-1 様子	見上げると、その広い額の横じわのほうは、そこだけ病んででもいるかのように…生	多数決：気がかり7、心配5
695	盆土産	光村	8 納得	0 内面	どうやら、工場のヘルメットばかりは自分の流儀で気ままにかぶるといわけにはい	
696	盆土産	光村	8 皮肉	-1 様子	淡い空色のハンチングは、まだ頭になじんでいなくて、…押さえつけなければならな	
697	盆土産	光村	8 驚き	-1 内面	土間の上がり框で、土産の紙袋の口を開けてみてまず、…びっくりさせられた。	
698	盆土産	光村	8 不思議	0 内面	ぶっかき氷にしては不透明で白すぎる、	
699	盆土産	光村	8 不思議	0 様子	なにやら砂糖菓子のような塊が大小合わせて十個ほども…入っているので	
700	盆土産	光村	8 期待	1 行為	これも土産のの一つかと思って、口をほどいてみると、	
701	盆土産	光村	8 驚き	-1 様子	とたんに中から、もうもうと湯気のようなものが噴き出てきたのだ。…中の塊が一つ	
702	盆土産	光村	8 不満	-1 発話	「あ、もったいない。」	多数決：不満7、もどかしさ5、いらだち3
703	盆土産	光村	8 驚き	-1 内面	急いで拾おうとすると、ちょうど囲炉裏の灰の中から掘り出したばかりの…二度びつ	
704	盆土産	光村	8 いらだち	-1 様子	そのうえそいつのほうから指先に吸い付いてくるので、…囲炉裏の方まで転げたいっ	
705	盆土産	光村	8 心配	0 発話	「そつたらもど、食っちゃなんねど。それはドライアイスつうもんだ。」	
706	盆土産	光村	8 納得	0 行為	そんなにまでして紙袋の中を冷やし続けなければならなかった訳は、…初めてわかっ	
707	盆土産	光村	8 心配	0 内面	えびフライといっても、まだ生ものだから、父親は家へ帰り着くまでに…いけないと	
708	盆土産	光村	8 皮肉	-1 行為	ただこの六尾のえびだけのために、一晩中、眠りを寸断して冷やし続けながら帰って	
709	盆土産	光村	8 興奮	1 行為	それにしても、箱の中のえびの大きさには、姉と二人で目を見はった。	多数決：興奮10、好奇心1、期待1
710	盆土産	光村	8 興奮	1 内面	こんなに大きなえびがいるとは知らなかった。	
711	盆土産	光村	8 驚き	1 様子	今朝釣ってきた雑魚のうちでいちばん大きなやつよりもずっと大きいし、よく肥えて	多数決：驚き6、興奮4、期待2
712	盆土産	光村	8 満足	1 行為	「ずんぶ大きかえん？これでも頭は落とすしてある。」父親は、満足そうに…たたきな	
713	盆土産	光村	8 好奇心	1 行為	いったいどの沼で捕れたえびだろうかと尋ねてみると、	多数決：好奇心11、不思議1
714	盆土産	光村	8 満足	1 発話	「これは単えびつうえびだけんど、海ではもっと大きなやつも捕れる。長えひげのあ	多数決：満足11、愉快1
715	盆土産	光村	8 愉快	1 行為	父親が珍しくそんな冗談を言うので、思わず首をすくめて笑ってしまった。	
716	盆土産	光村	8 不愉快	-1 様子	「父っちゃ、帰ったてな？」喜作は一級上の四年だが、…じろじろ見ながらそう言う	
717	盆土産	光村	8 興奮	1 行為	「んだ。」とうなずいてから、土産は何かきかれる前に、「えびフライ。」と言っ	多数決：自慢9、愉快2、満足1
718	盆土産	光村	8 驚き	0 様子	喜作は氣勢をそがれたように、口を開けたままきょとんとしていた。	
719	盆土産	光村	8 不思議	0 発話	「……なんどえ？」	
720	盆土産	光村	8 皮肉	-1 発話	「えびフライ。」	
721	盆土産	光村	8 不思議	0 発話	「……えびフライって、何せ。」	
722	盆土産	光村	8 皮肉	-1 内面	それが知りたければ家に来てみる。	
723	盆土産	光村	8 警戒	-1 内面	そう言いたかったが、見せるだけでももったいないのに、…「なんでもねっす。」と	多数決：警戒11、葛藤1
724	盆土産	光村	8 期待	1 様子	煮えた油の中でパン粉の焦げるいい匂いが、家の中に籠った。	
725	盆土産	光村	8 不安	-1 内面	四人家族に六尾では、配分がむつかしように思われたが、	
726	盆土産	光村	8 潔さ	1 様子	父親は明快に、「お前と姉は二匹ずつ食え。…」…雑魚をビールの肴にした。	
727	盆土産	光村	8 心配	-1 発話	「あんまり食えば、そばのだしがなくならえ。」	多数決：心配8、不安4
728	盆土産	光村	8 愉快	1 行為	父親は薄く笑って、「わかったらあに。人のことは気にしねで、…と味わって食	
729	盆土産	光村	8 興奮	1 様子	揚げたてのえびフライは、口の中に入れると、しゃおっ、というような音を立てた。	

730	盆土産	光村	8 高揚感	1 内面	かむと、緻密な肉の中で前歯がかすかにきむような、いい歯ごたえで…口の中に広	
731	盆土産	光村	8 不本意	-1 内面	二尾を一度に食ってしまうのは惜しいような気がしたが、明日からは盆で精進しな	多数決: 不本意8、悲しみ1
732	盆土産	光村	8 熱中	1 内面	最初は、自分だけ先になくならないように、横目で姉を見ながら…二尾目になると、	
733	盆土産	光村	8 驚き	0 様子	不意に、祖母がむせてせき込んだ。	
734	盆土産	光村	8 心配	0 行為	「歯がねえのに、しっぽは無理だえなあ、婆っちゃん。…」…父親が苦笑いして言っ	
735	盆土産	光村	8 不満	-1 内面	そんなら、食う前にそう教えてくれればよかった。	
736	盆土産	光村	8 共感	1 行為	姉の皿を見ると、やはりしっぽは見当たらなかった。	
737	盆土産	光村	8 恥	-1 行為	姉もこちらの皿を見ていた。顔を見合わせて、首をすくめた。	
738	盆土産	光村	8 虚勢	-1 発話	「歯があれば、しっぽもうめえや。」	多数決: 虚勢9、清々しさ1、潔さ1、決まり悪さ1
739	盆土産	光村	8 共感	1 行為	「んだ。うめえ。」と同調して、その勢いで二尾目のえびのしっぽも口の中に入れ	多数決: 共感9、潔さ2
740	盆土産	光村	8 納得	1 様子	父親の皿には、さすがにしっぽは残っていたが、	多数決: 納得12、尊敬0
741	盆土産	光村	8 皮肉	-1 様子	案の定、焼いた雑魚はもうあらかたなくなっていた。	
742	盆土産	光村	8 幸福	1 内面	翌朝、目を覚ましたときも、まだ舌の根にゆうべのうまさが残っていた。	
743	盆土産	光村	8 感謝	1 内面	あんなにうまい土産をもらったのだから、今朝もまた川へ出かけて、そばのだしを…	
744	盆土産	光村	8 不満	-1 行為	思っていたのだが 父親が、一日半しか休暇をもらえなかったのも、今夜の夜行で東京へ戻ると言い出し	
745	盆土産	光村	8 皮肉	-1 内面	たからである。	
746	盆土産	光村	8 不思議	0 様子	どおりで、ゆうべは雑魚の食べ方が尋常ではないと思ったのだ。	
747	盆土産	光村	8 驚き	0 行為	祖母は、墓地へ登る坂道の途中から絶え間なく…『なまん、だあうち』というふう	
748	盆土産	光村	8 皮肉	-1 行為	ふと「えんぴフライ……。」という言葉が混じるのを聞いた。	
749	盆土産	光村	8 幸福	1 内面	祖母は歯がないから、言葉のたいがいは不明瞭だが、…えんぴフライという言葉をも	僕: 共感9、幸福2、気がかり1
750	盆土産	光村	8 気がかり	0 内面	祖母は昨夜の食卓の様子を…祖父と母親に報告しているのだろうかと思った。	
751	盆土産	光村	8 心配	-1 内面	そういえば、祖父や母親は生きていううちに、えんぴフライなど食べたことがあったの	
752	盆土産	光村	8 きまり悪さ	-1 行為	祖父のことは知らないが、まだ田畑を作っている頃に…一度も食わずに死んだのでは	
753	盆土産	光村	8 寂しさ	-1 行為	そんなことを考えているうちに、なんとなく墓を上目でしか見られなくなった。	多数決: 寂しさ7、決意4、愛情2
754	盆土産	光村	8 悲しみ	-1 行為	村外れのつり橋を渡り終えると、父親は…「こんだ正月に帰るすけ、もつとゆつく	
755	盆土産	光村	8 虚勢	-1 行為	すると、なぜだか不意にしゃくり上げそうになって	多数決: 虚勢10、きまり悪さ1、動揺1
756	盆土産	光村	8 寂しさ	-1 行為	「冬だら、ドライアイスもいらねべな。」と言った。	
757	盆土産	光村	8 心配	-1 行為	それからまた、停留所まで黙って歩いた。	
758	盆土産	光村	8 混乱	-1 内面	バスが来ると、父親は右手でこちらの頭をわずかみにして…揺さぶった。	
759	盆土産	光村	8 不本意	-1 行為	それがいつもより少し手荒くて、それで頭が混乱した。	
760	盆土産	光村	8 驚き	0 行為	んだら、さいなら、というつもりで、ついうっかり「えんぴフライ。」と言ってし	
761	盆土産	光村	8 納得	0 行為	バスの乗り口の方へ歩きかけていた父親は、ちょっと驚いたように立ち止まって、	
762	盆土産	光村	8 寂しさ	-1 発話	苦笑いした。	
763	盆土産	光村	8 寂しさ	-1 様子	「わかってらあに。また買ってくるすけ……。」	
764	盆土産	光村	8 決意	1 行為	父親はまだ何か言いたげだったが、 父親は、何も言わずに、片手でハンチングを上から押さえて…駆け込んでいった。	多数決: 決意7、寂しさ5
	合計(ポジ・ネガ)			-29		
	平均(ポジ・ネガ)			-0.273584906		
765	走れメロス	光村	8 激怒	-1 内面	メロスは激怒した。	
766	走れメロス	光村	8 決意	1 内面	必ず、かの邪智暴虐の王を除かなければならぬと決意した。	
767	走れメロス	光村	8 あやふや	0 設定	メロスには政治がわからぬ。	
768	走れメロス	光村	8 平穩	1 設定	メロスは、村の牧人である。	
769	走れメロス	光村	8 幸福	1 設定	笛を吹き、羊と遊んで暮して来た。	
770	走れメロス	光村	8 潔さ	1 内面	けれども邪悪に対しては、人一倍に敏感であった。	
771	走れメロス	光村	8 高揚感	1 内面	きょう未明メロスは村を出発し、野を越え山越え、十里はなれた此このシラクスの市に	
772	走れメロス	光村	8 平穩	0 境遇	やって来た。	
773	走れメロス	光村	8 幸福	1 設定	メロスには父も、母も無い。女房も無い。十六の、内気な妹と二人暮らしだ。	
774	走れメロス	光村	8 期待	1 行為	この妹は、村の牧人仲間の一牧人を、近々、花婿はなむこしく迎える事にはついで	
775	走れメロス	光村	8 平穩	1 行為	結婚式も間近かなのである。メロスは、それゆえ、花嫁の衣裳やら祝宴の御馳走やらを	
776	走れメロス	光村	8 幸福	1 設定	買いに、はるばる市にやって来たのだ。	
777	走れメロス	光村	8 期待	1 行為	まず、その品々を買い集め、それから都の大路をぶらぶら歩いた。	
778	走れメロス	光村	8 不思議	0 情景	メロスには竹馬の友があった。セリヌンティウスである。今は此のシラクスの市で、石	
779	走れメロス	光村	8 不安	-1 情景	工をしている。 その友を、これから訪ねてみるつもりなのだ。久しく逢わなかったのだから、訪ねて行	
					くのが楽しみである。	
					歩いているうちにメロスは、まちの様子を怪しく思った。ひっそりしている。	
					もう既に日も落ちて、まちの暗いのは当りまえだが、けれども、なんだか、夜のせいば	
					かりでは無く、市全体が、やけに寂しい。	

780	走れメロス	光村	8 不安	-1 内面	のんきなメロスも、だんだん不安になって来た。
781	走れメロス	光村	8 不思議	0 発話	路で逢った若い衆をつかまえて、何かあったのか、二年まえに此の市に来たときは、夜でも皆が歌をうたって、まちは賑やかであった筈はずだが、と質問した。
782	走れメロス	光村	8 戸惑い	-1 行為	若い衆は、首を振って答えなかった。
783	走れメロス	光村	8 もどかしさ	-1 行為	しばらく歩いて老翁に逢い、こんどはもっと、語勢を強くして質問した。
784	走れメロス	光村	8 防衛	-1 行為	老翁は答えなかった。
785	走れメロス	光村	8 いらだち	-1 行為	メロスは両手で老翁のからだをゆすぶって質問を重ねた。
786	走れメロス	光村	8 用心	-1 行為	老翁は、あたりをはばかりる低声で、わずか答えた。
787	走れメロス	光村	8 恐怖	-1 発話	「王様は、人を殺します。」
788	走れメロス	光村	8 驚き	-1 発話	「なぜ殺すのだ。」
789	走れメロス	光村	8 反感	-1 発話	「悪心を抱いている、というのですが、誰もそんな、悪心を持っては居りませぬ。」
790	走れメロス	光村	8 怒り	-1 発話	「たくさんの人を殺したのか。」
791	走れメロス	光村	8 悲しみ	-1 発話	「はい、はじめは王様の妹婿さまを。それから、御自身のお世嗣を。それから、妹さまを。それから、妹さまの御子さまを。それから、皇后さまを。それから、賢臣のアレキ
792	走れメロス	光村	8 驚き	0 発話	「おどろいた。国王は乱心か。」
793	走れメロス	光村	8 反感	-1 発話	「いいえ、乱心ではございませぬ。人を、信ずる事が出来ぬ、というのです。
794	走れメロス	光村	8 やるせなさ	-1 発話	このごろは、臣下の心をも、お疑いになり、少しく派手な暮しをしている者には、人質ひとりずつ差し出すことを命じて居ります。
795	走れメロス	光村	8 危惧	-1 発話	御命令を拒めば十字架にかけられて、殺されます。
796	走れメロス	光村	8 恐怖	-1 発話	きょうは、六人殺されました。」
797	走れメロス	光村	8 激怒	-1 内面	聞いて、メロスは激怒した。
798	走れメロス	光村	8 怒り	-1 発話	「あきれた王だ。生かして置けぬ。」
799	走れメロス	光村	8 短気	0 行為	メロスは、単純な男じめつた。良い物を、背負つたままじ、のせて土城にはいつく
800	走れメロス	光村	8 不本意	-1 行為	たちまち彼は、巡邏の警吏に捕縛された。
801	走れメロス	光村	8 緊張	-1 行為	調べられて、メロスの懐中からは短剣が出て来たので、騒ぎが大きくなってしまった。メロスは、王の前に引き出された。
802	走れメロス	光村	8 警戒	-1 発話	「この短剣で何をするつもりであつたか。言え！」暴君ディオニスは静かに、けれども威厳を以もって問いつめた。
803	走れメロス	光村	8 苦悩	-1 表情	その王の顔は蒼白そうはくで、眉間みけんの皺しわは、刻み込まれたように深かった。
804	走れメロス	光村	8 決意	1 発話	「町を暴君の手から救うのだ。」とメロスは悪びれずに答えた。
805	走れメロス	光村	8 軽蔑	-1 発話	「おまえがか？」王は、憫笑びんしょうした。
806	走れメロス	光村	8 あきらめ	-1 発話	「しかたの無いやつじゃ。おまえには、わしの孤独がわからぬ。」
807	走れメロス	光村	8 反感	-1 発話	「言うな！」とメロスは、いきり立って反駁した。
808	走れメロス	光村	8 不満	-1 発話	「人の心を疑うのは、最も恥すべき悪徳だ。王は、民の忠誠をさえ疑って居られる。」
809	走れメロス	光村	8 嫌悪	-1 発話	「疑うのが、正当の心構えなのだ、わしに教えてくれたのは、おまえたちだ。
810	走れメロス	光村	8 失望	-1 発話	人の心は、あてにならない。
811	走れメロス	光村	8 あきらめ	-1 発話	人間は、もともと私怨のかたまりさ。信じては、ならぬ。」暴君は落着いて呟つぶやき、ほっと溜息ためいきをついた。
812	走れメロス	光村	8 皮肉	-1 発話	「わしだって、平和を望んでいるのだが。」
813	走れメロス	光村	8 軽蔑	-1 発話	「なんの為の平和だ。自分の地位を守る為か。」こんどはメロスが嘲笑した。
814	走れメロス	光村	8 反感	-1 発話	「罪の無い人を殺して、何が平和だ。」
815	走れメロス	光村	8 反感	-1 発話	「黙れ、下賤の者。」土は、さつと顔を拳けて報いた。
816	走れメロス	光村	8 虚無	-1 発話	「口では、どんな清らかな事でも言える。わしには、人の腹締の奥底が見え透いてなら
817	走れメロス	光村	8 意地悪	-1 発話	おまえだって、いまに、磔になってから、泣いて詫わびたって聞かぬぞ。」
818	走れメロス	光村	8 皮肉	-1 発話	「ああ、王は慥巧だ。自惚うぬぼれているがよい。
819	走れメロス	光村	8 潔さ	1 発話	私は、ちゃんと死ぬる覚悟で居るのに。命乞いなど決してしない。
820	走れメロス	光村	8 戸惑い	0 発話	ただ、——」と言いかけて、メロスは足もとに視線を落とし瞬時ためらい、
821	走れメロス	光村	8 懇願	0 発話	「ただ、私に情をかけたつもりなら、処刑までに三日間の日限を与えて下さい。
822	走れメロス	光村	8 優しさ	1 発話	たった一人の妹に、亭主を持たせてやりたいのです。
823	走れメロス	光村	8 潔さ	1 発話	三日のうちに、私は村で結婚式を挙げさせ、必ず、ここへ帰って来ます。」
824	走れメロス	光村	8 拒絶	-1 発話	「ばかな。」と暴君は、嘎しわがれた声で低く笑った。
825	走れメロス	光村	8 疑い	-1 発話	「とんでもない嘘うそを言うわい。逃がした小鳥が帰って来るといのか。」
826	走れメロス	光村	8 反感	-1 発話	「そうです。帰って来るのです。」メロスは必死で言い張った。
827	走れメロス	光村	8 自信	1 発話	「私は約束を守ります。
828	走れメロス	光村	8 熱望	1 発話	私を、三日間だけ許して下さい。妹が、私の帰りを待っているのだ。
829	走れメロス	光村	8 決意	1 発話	そんなに私を信じられないならば、よろしい、この市にセリヌンティウスという石工がいます。私の無二の友人だ。あれを、人質としてここに置いて行こう。
830	走れメロス	光村	8 懇願	0 発話	私が逃げてしまつて、三日目の日暮まで、ここに帰って来なかつたら、あの友人を絞め殺して下さい。たのむ、そうして下さい。」
831	走れメロス	光村	8 意地悪	-1 内面	それを聞いて王は、残虐な気持で、そつと北叟笑ほくそえんだ。
832	走れメロス	光村	8 軽蔑	-1 内面	生意気なことを言うわい。どうせ帰って来ないにきまっている。

あきらめ さびしさ 孤独

動揺

833	走れメロス	光村	8 意地悪	-1 内面	この嘘つきに騙だまされた振りして、放してやるのも面白い。そうして身代りの男を、三日目に殺してやるのも気味がいい。
834	走れメロス	光村	8 意地悪	-1 内面	人は、これだから信じられぬと、わしは悲しい顔して、その身代りの男を磔刑に処してやるのだ。
835	走れメロス	光村	8 意地悪	-1 内面	世の中の、正直者とかいう奴輩にうんと見せつけてやりたいものさ。
836	走れメロス	光村	8 意地悪	-1 発話	「願いを、聞いた。その身代りを呼ぶがよい。三日目には日没までに帰って来い。おくれたら、その身代りを、きつと殺すぞ。」
837	走れメロス	光村	8 皮肉	-1 発話	ちょっとおくれて来るがいい。おまえの罪は、永遠にゆるしてやろうぞ。」
838	走れメロス	光村	8 反感	-1 発話	「なに、何をおっしゃる。」
839	走れメロス	光村	8 皮肉	-1 発話	「はは。いのちが大事だったら、おくれて来い。おまえの心は、わかっているぞ。」
840	走れメロス	光村	8 屈辱	-1 内面	メロスは口惜しく、地団駄踏んだ。ものも言いたくなくなった。
841	走れメロス	光村	8 共感	1 行為	メロスは、友に一切の事情を語った。セリヌンティウスは無言で首肯き、メロスをひしと抱きしめた。
842	走れメロス	光村	8 信頼	1 行為	友と友の間は、それでよかった。セリヌンティウスは、縄打たれた。
843	走れメロス	光村	8 緊張	0 行為	メロスは、すぐに出発した。
844	走れメロス	光村	8 清々しさ	1 情景	初夏、満天の星である。
845	走れメロス	光村	8 焦り	0 行為	メロスはその夜、一睡もせず十里の路を急ぎに急いで、村へ到着したのは、翌あくる日の午前、陽は既に高く昇って、村人たちは野に出て仕事をはじめていた。
846	走れメロス	光村	8 平穩	0 様子	メロスの十六の妹も、きょうは兄の代りに羊群の番をしていた。
847	走れメロス	光村	8 不思議	0 行為	よろめいて歩いて来る兄の、疲労困憊の姿を見つけて驚いた。そうして、うるさく兄に質問を浴びせた。
848	走れメロス	光村	8 冷静	1 発話	「なんでも無い。」メロスは無理に笑おうと努めた。
849	走れメロス	光村	8 優しさ	1 発話	「町に用事を残して来た。またすぐ市に行かなければならぬ。あす、おまえの結婚式を上げる。早いほうがよからう。」
850	走れメロス	光村	8 きまり悪さ	0 表情	妹は頬をあからめた。
851	走れメロス	光村	8 愛情	1 発話	「うれしいか。綺麗きれいな衣裳も買って来た。さあ、これから行って、村の人たちに知らせて来い。結婚式は、あすだ。」
852	走れメロス	光村	8 熱中	0 行為	メロスは、また、よろよろと歩き出し、家へ帰って神々の祭壇を飾り、祝宴の席を調べ、間もなく床に倒れ伏し、呼吸もせぬくらいの深い眠りに落ちてしまった。
853	走れメロス	光村	8 焦り	0 行為	眼が覚めたのは夜だった。メロスは起きてすぐ、花婿の家を訪れた。
854	走れメロス	光村	8 懇願	0 行為	そうして、少し事情があるから、結婚式を明日にしてくれ、と頼んだ。
855	走れメロス	光村	8 戸惑い	0 行為	婿の牧人は驚き、それはいけない、こちらには未だ何の仕度も出来ていない、葡萄ぶどうの季節まで待ってくれ、と答えた。
856	走れメロス	光村	8 懇願	0 行為	メロスは、待つことは出来ぬ、どうか明日にしてくれ給え、と更に押してたのんだ。
857	走れメロス	光村	8 拒絶	0 行為	婿の牧人も頑強であった。なかなか承諾してくれない。
858	走れメロス	光村	8 懇願	0 行為	夜明けまで議論をつづけて、やっと、どうにか婿をなだめ、すかして、説き伏せた。
859	走れメロス	光村	8 安堵	1 設定	結婚式は、真昼に行われた。
860	走れメロス	光村	8 不安	-1 情景	新郎新婦の、神々への宣誓が済んだころ、黒雲が空を覆い、ぼつりぼつり雨が降り出し、やがて車軸を流すような大雨となった。祝宴に列席していた村人たちは、何か不吉それでも、めいめい気持を引きたて、狭い家の中で、むんむん蒸し暑いのも忝え、陽気に歌をうたい、手を拍った。
861	走れメロス	光村	8 熱中	1 行為	メロスも、満面に喜色を湛え、しばらくは、王とのあの約束をさえ忘れていた。
862	走れメロス	光村	8 高揚感	1 様子	祝宴は、夜に入つていよいよ乱れ華やかになり、人々は、外の豪雨を全く気にしなく
863	走れメロス	光村	8 高揚感	1 様子	メロスは、一生このままここにいたい、と思った。
864	走れメロス	光村	8 葛藤	0 内面	この佳い人たちと生涯暮して行きたいと願ったが、いまは、自分のからだで、自分のものでは無い。ままならぬ事である。
865	走れメロス	光村	8 葛藤	0 内面	メロスは、わが身に鞭打ち、ついに出発を決意した。
866	走れメロス	光村	8 決意	1 内面	明日の日没までには、まだ十分の時間が在る。ちょっと一眠りして、それからすぐに出発しよう、と考えた。その頃には、雨も小降りになっていよう。
867	走れメロス	光村	8 自信	1 内面	少しでも長くこの家にぐずぐずとどまっていたかった。
868	走れメロス	光村	8 葛藤	0 内面	メロスほどの男にも、やはり未練の情というもの是在る。
869	走れメロス	光村	8 同情	1 性格	今宵呆然、歓喜に酔っているらしい花嫁に近寄り、
870	走れメロス	光村	8 決意	1 行為	「おめでとう。私は疲れてしまったから、ちょっとご免こうむって眠りたい。眼が覚めたら、すぐに市に出かける。大切な用事があるのだ。」
871	走れメロス	光村	8 優しさ	1 発話	私がいなくても、もうおまえには優しい亭主があるのだから、決して寂しい事は無い。
872	走れメロス	光村	8 激励	1 発話	おまえの兄の、一ばんきれいなものは、人を疑う事と、それから、嘘をつく事だ。
873	走れメロス	光村	8 自尊心	1 発話	おまえも、それは、知っているね。亭主との間に、どんな秘密でも作ってはならぬ。おまえに
874	走れメロス	光村	8 激励	1 発話	言いたいのは、それだけだ。
875	走れメロス	光村	8 自尊心	1 発話	おまえの兄は、たぶん偉い男なのだから、おまえもその誇りを持っていろ。」
876	走れメロス	光村	8 幸福	1 内面	花嫁は、夢見心地で首肯いた。
877	走れメロス	光村	8 激励	1 発話	メロスは、それから花婿の肩をたたいて、「仕度の無いのはお互さまさ。私の家にも、宝と

信頼

878	走れメロス	光村	8 自慢	1 発話	もう一つ、メロスの弟になったことを誇ってくれ。」
879	走れメロス	光村	8 きまり 悪さ	1 内面	花婿は揉み手して、てれていた。
880	走れメロス	光村	8 感謝	1 行為	メロスは笑って村人たちにも会釈して、宴席から立ち去り、
881	走れメロス	光村	8 安堵	1 行為	羊小屋にもぐり込んで、死んだように深く眠った。
882	走れメロス	光村	8 緊張	0 行為	目が覚めたのは翌日の薄明の頃である。メロスは跳ね起き、南無三、寝過ぎたか、いや、またまた大丈夫、これから早くに出発すれば、約束の刻限までには十分間に合
883	走れメロス	光村	8 安心	1 内面	きょうは是非とも、あの王に、人の信実の存するところを見せてやろう。
884	走れメロス	光村	8 決意	1 内面	そうして笑って磔の台に上ってやる。
885	走れメロス	光村	8 潔さ	1 内面	メロスは、悠々と身仕度をはじめた。雨も、いくぶん小降りになっている様子である。
886	走れメロス	光村	8 勇気	1 行為	身仕度は出来た。さて、メロスは、ぶるんと両腕を大きく振って、雨中、矢の如く走り
887	走れメロス	光村	8 葛藤	-1 内面	私は、今宵、殺される。殺される為に走るのだ。身代りの友を救う為に走るのだ。土の奸佞邪智を打ち破る為に走るのだ。走らなければ
888	走れメロス	光村	8 激励	1 内面	そうして、私は殺される。
889	走れメロス	光村	8 葛藤	0 内面	若い時から名誉を守れ。
890	走れメロス	光村	8 自尊心	1 内面	さらば、ふるさと。
891	走れメロス	光村	8 決別	0 内面	若いメロスは、つらかった。
892	走れメロス	光村	8 苦悩	-1 内面	幾度か、立ちどまり そうになった。
893	走れメロス	光村	8 苦悩	-1 行為	えい、えいと大声挙げて自身を叱りながら走った。
894	走れメロス	光村	8 激励	1 行為	村を出て、野を横切り、森をくぐり抜け、隣村に着いた頃には、雨も止やみ、日は高く
895	走れメロス	光村	8 熱中	1 行為	昇って、そろそろ暑くなって来た。
896	走れメロス	光村	8 安堵	1 内面	メロスは額の汗をこぶしで払い、ここまで来れば大丈夫、もはや故郷への未練は無い。
897	走れメロス	光村	8 希望	1 発話	妹たちは、きっと佳い天婦になるだろう。
898	走れメロス	光村	8 虚勢	-1 内面	私には、いま、なんの気かきりも無い苦た。まっすぐに土城に行き着けば、それでよい
899	走れメロス	光村	8 葛藤	0 内面	そんなに急ぐ必要も無い。ゆっくり歩こう、と持ちまへの呑気のんきさを取り返し、好
900	走れメロス	光村	8 驚き	0 行為	きな小歌をいい声で歌い出した。
901	走れメロス	光村	8 緊張	0 内面	ぶらぶら歩いて二里行き三里行き、そろそろ全里程の半ばに到達した頃、降って湧わいた
902	走れメロス	光村	8 恐怖	-1 設定	た災難、メロスの足は、はたと、とまった。
903	走れメロス	光村	8 戸惑い	-1 内面	見よ、前方の川を。
904	走れメロス	光村	8 絶望	-1 情景	昨日の豪雨で山の水源地は氾濫し、濁流滔々と下流に集り、猛勢一挙に橋を破壊し、ど
905	走れメロス	光村	8 屈服	-1 様子	うどうと響きあげる激流が、木葉微塵に橋桁を跳ね飛ばしていた。
906	走れメロス	光村	8 懇願	0 発話	彼は茫然と、立ちすくんだ。あちこちと眺めまわし、また、声を限りに呼びたててみた
907	走れメロス	光村	8 焦り	-1 発話	が、繫舟は残らず浪に浚さらわれて影なく、渡守りの姿も見えない。
908	走れメロス	光村	8 焦り	-1 情景	流れはいよいよ、ふくれ上り、海のようにになっている。
909	走れメロス	光村	8 焦り	-1 設定	メロスは川岸につすくまり、
910	走れメロス	光村	8 決意	1 内面	男泣きに泣きながらセフスに手を挙げて哀願した。「あめ、鎮しすめたまえ、荒れ狂つ
911	走れメロス	光村	8 勇気	1 内面	時は刻々に過ぎて行きます。太陽も既に真昼時です。あれが沈んでしまわぬうちに、王
912	走れメロス	光村	8 熱中	1 行為	城に行き着くことが出来なかつたら、あの佳い友達が、私のために死ぬのです。」
913	走れメロス	光村	8 熱中	1 内面	濁流は、メロスの叫びをせせら笑う如く、ますます激しく躍り狂う。浪は浪を呑み、捲
914	走れメロス	光村	8 同情	1 行為	き、煽あおり立て、
915	走れメロス	光村	8 安堵	1 行為	そうして時は、刻一刻と消えて行く。
916	走れメロス	光村	8 感謝	1 行為	今はメロスも覚悟した。泳ぎ切るより他に無い。
917	走れメロス	光村	8 焦り	0 内面	あめ、仲々も照覚めれ！ 濁流にも負けぬ愛と誠の偉大な刀を、いまこそ発揮して見せ
918	走れメロス	光村	8 安堵	1 内面	メロスは、さんぶと流れに飛び込み、百匹の大蛇のようにのた打ち荒れ狂う浪を相手
919	走れメロス	光村	8 驚き	0 行為	に、必死の闘争を開始した。
920	走れメロス	光村	8 警戒	0 発話	満身の刀を腕にこめて、押し寄せ渦巻き引きさする流れを、なんのこれしさと掻きわけ掻
921	走れメロス	光村	8 意地悪	-1 発話	獅子奮迅の人の子の姿には、神も哀れと思ったか、ついに憐愍れんびんを垂れてくれ
922	走れメロス	光村	8 いらだち	-1 発話	押し流されつつも、見事、対岸の樹木の幹に、すがりつく事が出来たのである。
923	走れメロス	光村	8 意地悪	-1 発話	ありがたい。メロスは馬のように大きな胸震いを一つして、すぐにまた先きを急いだ。
924	走れメロス	光村	8 怒り	-1 発話	一刻といえども、むだには出来ない。陽は既に西に傾きかけている。
925	走れメロス	光村	8 冷静	0 行為	ぜいぜい荒い呼吸をしながら峠をのぼり、のぼり切って、ほっとした時、
926	走れメロス	光村	8 防衛	1 行為	突然、目の前に一隊の山賊が躍り出た。「待て。」
927	走れメロス	光村	8 怒り	-1 行為	「何をやるのだ。私は陽の沈まぬうちに王城へ行かなければならぬ。放せ。」

冷静

928	走れメロス	光村	8 苦痛	-1 行為	一気に峠を駆け降りたが、流石さすがに疲労し、折から午後の灼熱しやくねつの太陽がまともに、かっと照って来て、メロスは幾度となく眩暈めまいを感じ、これではならぬ、と気を取り直しては、よろよろ二、三步あるいて、	
929	走れメロス	光村	8 屈服	-1 行為	ついに、がくりと膝を折った。	
930	走れメロス	光村	8 敗北	-1 内面	立ち上る事が出来ぬのだ。天を仰いで、くやし泣きに泣き出した。	
931	走れメロス	光村	8 悔しさ	-1 内面	ああ、あ、濁流を泳ぎ切り、山賊を三人も撃ち倒し韋駄天、ここまで突破して来たメロスよ。真の勇者、メロスよ。今、ここで、疲れ切って動けなくなるとは情無い。	いいメロス
932	走れメロス	光村	8 やるせなさ	-1 内面	愛する友は、おまえを信じたばかりに、やがて殺されなければならぬ。	
933	走れメロス	光村	8 目責	-1 発話	おまえは、稀代の不信の人間、まさしく土の思つ壺つはだぞ、	
934	走れメロス	光村	8 敗北	-1 内面	と自分を叱ってみるのたか、全身委なえて、もはや芋虫いもむし ほとにも前進かなわ	
935	走れメロス	光村	8 敗北	-1 行為	路傍の草原にごろりと寝ころがった。	
936	走れメロス	光村	8 自暴自棄	-1 内面	身体疲労すれば、精神も共にやられる。もう、どうでもいいという、勇者に不似合いなふてくされた根性が、心の隅に巣喰った。	
937	走れメロス	光村	8 防衛	-1 内面	私は、これほど努力したのだ。約束を破る心は、みじんも無かった。	悪いメロス
938	走れメロス	光村	8 防衛	-1 内面	神も照覧、私は精一ばいに努めて来たのだ。動けなくなるまで走って来たのだ。	悪いメロス
939	走れメロス	光村	8 防衛	-1 内面	私は不信の徒では無い。ああ、できる事なら私の胸を截たち割って、真紅の心臓をお目に掛けたい。	悪いメロス
940	走れメロス	光村	8 防衛	-1 内面	愛と信実の血液だけで動いているこの心臓を見せてやりたい。	悪いメロス
941	走れメロス	光村	8 敗北	-1 内面	けれども私は、この大事な時に、精も根も尽きたのだ。	悪いメロス
942	走れメロス	光村	8 自嘲	-1 内面	私は、よくよく不幸な男だ。私は、きっと笑われる。	悪いメロス
943	走れメロス	光村	8 罪悪感	-1 内面	私の一家も笑われる。	いいメロス
944	走れメロス	光村	8 自責	-1 内面	私は友を欺あざむいた。	いいメロス
945	走れメロス	光村	8 自責	-1 内面	途中で倒れるのは、はじめから何もしないのと同じ事だ。	いいメロス
946	走れメロス	光村	8 自暴自棄	-1 内面	ああ、もう、どうでもいい。	悪いメロス
947	走れメロス	光村	8 あきらめ	-1 内面	これが、私の定った運命なのかも知れない。	悪いメロス
948	走れメロス	光村	8 謝罪	-1 内面	セリヌンティウスよ、ゆるしてくれ。君は、いつでも私を信じた。	悪いメロス
949	走れメロス	光村	8 自尊心	1 内面	私も君を、欺かなかった。私たちは、本当に佳い友と友であったのだ。	悪いメロス
950	走れメロス	光村	8 自慢	1 内面	一度だって、暗い疑惑の雲を、お互い胸に宿したことは無かった。	悪いメロス
951	走れメロス	光村	8 信頼	1 内面	今だって、君は私を無心に待っているだろう。	悪いメロス
952	走れメロス	光村	8 感謝	1 内面	ああ、待っているだろう。ありがとう、セリヌンティウス。	いいメロス
953	走れメロス	光村	8 感謝	1 内面	よくも私を信じてくれた。	いいメロス
954	走れメロス	光村	8 罪悪感	-1 内面	それを思えば、たまらない。友と友の間の信実は、この世で一ほん誇るべき玉なのたか	いいメロス
955	走れメロス	光村	8 懇願	0 内面	セリヌンティウス、私は走ったのだ。君を欺くつもりは、みじんも無かった。信じてく	悪いメロス
956	走れメロス	光村	8 自尊心	1 内面	私は急ぎに急いでここまで来たのだ。濁流を突破した。山賊の囲みからも、するりと抜けて一気に峠を駆け降りて来たのだ。	悪いメロス
957	走れメロス	光村	8 自慢	1 内面	私だから、出来たのだよ。	悪いメロス
958	走れメロス	光村	8 やるせなさ	-1 内面	ああ、この上、私に望み給うな。	悪いメロス
959	走れメロス	光村	8 敗北	-1 内面	放って置いてくれ。どうでも、いいのだ。私は負けたのだ。	悪いメロス
960	走れメロス	光村	8 自嘲	-1 内面	だらしが無い。笑ってくれ。	悪いメロス
961	走れメロス	光村	8 不愉快	-1 内面	王は私に、ちょっとおくれ来て来い、と耳打ちした。おくれたら、身代りを殺して、私を助け	いいメロス
962	走れメロス	光村	8 屈辱	-1 内面	てくれると約束した。 私はエウソウガを信じた。ソレは、フーは、ソレの、私はエウソウガを信じた。	いいメロス
963	走れメロス	光村	8 敗北	-1 内面	私は、おくれて行くだろう。王は、ひとり合点して私を笑い、そうして事も無く私を放免するだろう。	いいメロス
964	走れメロス	光村	8 罪悪感	-1 内面	そうになったら、私は、死ぬよりつらい。	いいメロス
965	走れメロス	光村	8 自責	-1 内面	私は、永遠に裏切者だ。地上で最も、不名誉の人種だ。	いいメロス
966	走れメロス	光村	8 自暴自棄	-1 内面	セリヌンティウスよ、私も死ぬぞ。	悪いメロス
967	走れメロス	光村	8 懇願	-1 内面	君と一緒に死なせてくれ。	悪いメロス
968	走れメロス	光村	8 うぬぼれ	0 内面	君だけは私を信じてくれるにちがいない。	悪いメロス
969	走れメロス	光村	8 自嘲	-1 内面	いや、それも私の、ひとりよがりか？	いいメロス
970	走れメロス	光村	8 自嘲	-1 内面	ああ、もういっそ、悪徳者として生き伸びてやろうか。	悪いメロス
971	走れメロス	光村	8 期待	1 内面	村には私の家が在る。羊も居る。妹夫婦は、まさか私を村から追い出すような事はしないだろう。	悪いメロス
972	走れメロス	光村	8 虚勢	-1 内面	正義だの、信実だの、愛だの、考えてみれば、くだらない。	悪いメロス
973	走れメロス	光村	8 防衛	-1 内面	人を殺して自分が生きる。それが人間世界の定法ではなかったか。	悪いメロス
974	走れメロス	光村	8 落胆	-1 内面	ああ、何もかも、ばかばかしい。	悪いメロス
975	走れメロス	光村	8 軽蔑	-1 内面	私は、醜い裏切り者だ。	いいメロス
976	走れメロス	光村	8 自暴自棄	-1 内面	どうとも、勝手にするがよい。やんぬる哉かな。——四肢を投げ出して、うとうと、まどろんでしまった。	悪いメロス
977	走れメロス	光村	8 驚き	0 設定	ふと耳に、せんせん、水の流れる音が聞えた。	
978	走れメロス	光村	8 緊張	0 行為	そっと頭をもたげ、息を吞んで耳をすました。	

979	走れメロス	光村	8 好奇心	0 内面	すぐ足もとで、水が流れているらしい。	いいメロス
980	走れメロス	光村	8 欲望	0 行為	よろよろ起き上って、見ると、岩の裂目から涇々こんこんと、何か小さく囁ささやきながら清水が湧き出ているのである。	
981	走れメロス	光村	8 欲望	0 行為	その泉に吸い込まれるようにメロスは身をかかめた。水を両手で掬って、一くち飲んで	
982	走れメロス	光村	8 清々しさ	1 行為	ほうと長い溜息が出て、夢から覚めたような気がした。	
983	走れメロス	光村	8 決意	1 内面	歩ける。行こう。	いいメロス
984	走れメロス	光村	8 希望	1 内面	肉体の疲労回復かいふくと共に、わずかながら希望が生まれた。義務遂行の希望である。	
985	走れメロス	光村	8 希望	1 内面	わが身を殺して、名誉を守る希望である。	
986	走れメロス	光村	8 もどかしさ	0 情景	斜陽は赤い光を、樹々の葉に投げ、葉も枝も燃えるばかりに輝いている。	
987	走れメロス	光村	8 激励	1 内面	日没までには、まだ間がある。私を、待っている人があるのだ。	いいメロス
988	走れメロス	光村	8 激励	1 内面	少しも疑わず、静かに期待してくれている人があるのだ。	いいメロス
989	走れメロス	光村	8 激励	1 内面	私は、信じられている。	いいメロス
990	走れメロス	光村	8 激励	1 内面	私の命などは、問題ではない。死んでお詫び、などと気のいい事は言うて居られぬ。	いいメロス
991	走れメロス	光村	8 激励	1 内面	私は、信頼に報いなければならぬ。いまはただその一事だ。	いいメロス
992	走れメロス	光村	8 激励	1 内面	走れ！ メロス。	いいメロス
993	走れメロス	光村	8 自信	1 内面	私は信頼されている。	いいメロス
994	走れメロス	光村	8 自信	1 内面	私は信頼されている。	いいメロス
995	走れメロス	光村	8 激励	1 内面	先刻の、あの悪魔の囁きは、あれは夢だ。悪い夢だ。	いいメロス
996	走れメロス	光村	8 激励	1 内面	忘れてしまえ。五臓が疲れているときは、ふいとあんな悪い夢を見るものだ。	いいメロス
997	走れメロス	光村	8 同情	1 内面	メロス、おまえの恥ではない。	いいメロス
998	走れメロス	光村	8 激励	1 内面	やはり、おまえは真の勇者だ。再び立って走れるようになったではないか。	いいメロス
999	走れメロス	光村	8 感謝	1 内面	ありがたい！ 私は、正義の士として死ぬ事が出来るぞ。	いいメロス
1000	走れメロス	光村	8 焦り	-1 内面	ああ、陽が沈む。ずんずん沈む。	いいメロス
1001	走れメロス	光村	8 懇願	0 内面	待ってくれ、ゼウスよ。	いいメロス
1002	走れメロス	光村	8 熱望	1 内面	私は生れた時から正直な男であった。正直な男のままにして死なせて下さい。	いいメロス
1003	走れメロス	光村	8 焦り	-1 行為	道行く人を押しつけ、跳はねとばし、メロスは黒い風のように走った。	
1004	走れメロス	光村	8 焦り	-1 行為	野原で酒宴の、その宴席のまっただ中を駆け抜け、酒宴の人たちを仰天させ、犬を蹴けとばし、小川を飛び越え、少しずつ沈んでゆく太陽の、十倍も早く走った。	
1005	走れメロス	光村	8 危惧	-1 発話	一団の旅人と 颯さつとすれちがった瞬間、不吉な会話を小耳にはさんだ。「いまごろは、あの男も、襟にかかっているよ。」	
1006	走れメロス	光村	8 決意	1 内面	ああ、その男、その男のために私は、いまこんなに走っているのだ。	
1007	走れメロス	光村	8 激励	1 内面	その男を死なせてはならない。急げ、メロス。	いいメロス
1008	走れメロス	光村	8 激励	1 内面	遅れてはならぬ。愛と誠の力を、いまこそ知らせるがよい。	いいメロス
1009	走れメロス	光村	8 熱中	1 内面	風体なんかは、どうでもいい。メロスは、いまは、ほとんど全裸体であった。	いいメロス
1010	走れメロス	光村	8 熱中	1 様子	呼吸も出来ず、二度、三度、口から血が噴き出た。	
1011	走れメロス	光村	8 希望	1 行為	見える。はるか向うに小さく、シラクスの市の塔楼が見える。	
1012	走れメロス	光村	8 希望	1 情景	塔楼は、夕陽を受けてきらきら光っている。	
1013	走れメロス	光村	8 苦悩	-1 発話	「ああ、メロス様。」うめくような声が、風と共に聞えた。	
1014	走れメロス	光村	8 戸惑い	-1 発話	「誰だ。」メロスは走りながら尋ねた。	
1015	走れメロス	光村	8 いらだち	-1 発話	「フィロストラトスでございます。貴方のお友達セリヌンティウス様の弟子でございます。」その若い石工も、メロスの後について走りながら叫んだ。	
1016	走れメロス	光村	8 やるせなさ	-1 発話	「もう、駄目でございます。むだでございます。走るの、やめて下さい。	
1017	走れメロス	光村	8 あきらめ	-1 発話	もう、あの方かたをお助けになることは出来ません。」	
1018	走れメロス	光村	8 希望	-1 発話	「いや、まだ陽は沈まぬ。」	
1019	走れメロス	光村	8 悲しみ	-1 発話	「ちょうど今、あの方が死刑になるところです。	
1020	走れメロス	光村	8 憎しみ	-1 発話	ああ、あなたは遅かった。おうらみ申します。ほんの少し、もうちょっとでも、早く来たなら！」	
1021	走れメロス	光村	8 希望	1 発話	「いや、まだ陽は沈まぬ。」	
1022	走れメロス	光村	8 もどかしさ	-1 内面	メロスは胸の張り裂ける思いで、亦く大きい夕陽ばかりを見つめていた。走るより他は	
1023	走れメロス	光村	8 同情	0 発話	「やめて下さい。走るの、やめて下さい。いまはご自分のお命が大事です。	
1024	走れメロス	光村	8 尊敬	1 発話	あの方は、あなたを信じて居りました。刑場に引き出されても、平気でいました。王様が、さんざんあの方をからかっても、メロスは来ます、とだけ答え、強い信念を持ちつづけている様子でございました。」	
1025	走れメロス	光村	8 悔しさ	-1 発話	「それだから、走るのだ。信じられているから走るのだ。	
1026	走れメロス	光村	8 共感	1 発話	間に合う、間に合わぬは問題でないのだ。人の命も問題でないのだ。私は、なんだか、もっと恐ろしく大きいものの為に走っているのだ。	
1027	走れメロス	光村	8 高揚感	1 発話	ついて来い！ フィロストラトス。」	
1028	走れメロス	光村	8 激励	1 発話	「ああ、あなたは気が狂ったか。それでは、うんと走るがいい。	
1029	走れメロス	光村	8 あきらめ	-1 発話	ひよっとしたら、間に合わぬものでもない。走るがいい。」	
1030	走れメロス	光村	8 期待	1 内面	言うにや及ぶ。まだ陽は沈まぬ。	
1031	走れメロス	光村	8 熱中	1 内面	最後の死力を尽して、メロスは走った。	
1032	走れメロス	光村	8 熱中	1 行為		

1033	走れメロス	光村	8 熱中	1 内面	メロスの頭は、からっぼだ。何一つ考えていない。	
1034	走れメロス	光村	8 熱中	1 行為	ただ、わけのわからぬ大きな力にひきずられて走った。	
1035	走れメロス	光村	8 高揚感	1 行為	日は、ゆらゆら地平線に没し、まさに最後の一片の残光も、消えようとした時、メロスは疾風の如く刑場に突入した。	
1036	走れメロス	光村	8 歓喜	1 内面	間に合った。	いいメロス
1037	走れメロス	光村	8 熱望	1 発話	「待て。その人を殺してはならぬ。メロスが帰って来た。約束のとおり、いま、帰って来た。」と	
1038	走れメロス	光村	8 もどかしさ	-1 行為	大声で刑場の群衆にむかって叫んだつもりであったが、喉のどがつぶれて嘔しわがれた声が幽かすかに出たばかり、	
1039	走れメロス	光村	8 もどかしさ	-1 様子	群衆は、ひとりとして彼の到着に気がつかない。すでに磔の柱が高々と立てられ、縄を打たれたセリヌンティウスは、徐々に釣り上げられてゆく。	
1040	走れメロス	光村	8 熱中	1 行為	メロスはそれを日撃して最後の男、先刻、洶流を泳いだように群衆を掻きわけ、掻きわ	
1041	走れメロス	光村	8 熱望	1 発話	「私だ、刑吏！ 殺されるのは、私だ。メロスだ。彼を人質にした私は、ここにいる！」と、かすれた声で精一ぱいに叫びながら、	
1042	走れメロス	光村	8 熱望	1 行為	ついに磔台に昇り、釣り上げられてゆく友の両足に、齧かじりついた。	
1043	走れメロス	光村	8 驚き	0 様子	群衆は、どよめいた。	
1044	走れメロス	光村	8 共感	1 発話	あつぱれ。ゆるせ、とロ々にわめいた。	
1045	走れメロス	光村	8 安堵	1 様子	セリヌンティウスの縄は、ほどかれたのである。	
1046	走れメロス	光村	8 感動	1 発話	「セリヌンティウス。」メロスは眼に涙を浮べて言った。	
1047	走れメロス	光村	8 謝罪	1 発話	「私を殴れ。ちから一ぱいに頬を殴れ。私は、途中で一度、悪い夢を見た。君が若もし私を殴ってくれなかったら、私は君と抱擁する資格さえ無いのだ。殴れ。」	
1048	走れメロス	光村	8 共感	1 行為	セリヌンティウスは、すべてを察した様子で首肯うなずき、刑場一ぱいに鳴り響くほど音高くメロスの右頬を殴った。	
1049	走れメロス	光村	8 優しさ	1 表情	殴ってから優しく微笑ほほえみ、	
1050	走れメロス	光村	8 謝罪	1 発話	「メロス、私を殴れ。同じくらい音高く私の頬を殴れ。私はこの三日の間、たった一度だけ、ちらと君を疑った。生れて、はじめて君を疑った。君が私を殴ってくれなければ、私は君と抱擁できない。」	
1051	走れメロス	光村	8 共感	1 発話	メロスは腕に唸うなりをつけてセリヌンティウスの頬を殴った。	
1052	走れメロス	光村	8 感謝	1 発話	「ありがとう、友よ。」二人同時に言い、ひしと抱き合い、	
1053	走れメロス	光村	8 感動	1 行為	それから嬉し泣きにおいおい声を放って泣いた。	
1054	走れメロス	光村	8 感動	1 様子	群衆の中からも、歎歎の音が聞えた。	
1055	走れメロス	光村	8 感動	1 行為	暴君ディオニスは、群衆の背後から二人の様を、まじまじと見つめていたが、	
1056	走れメロス	光村	8 きまり 悪さ	0 行為	やがて静かに二人に近づき、顔をあからめて、こう言った。	
1057	走れメロス	光村	8 敗北	-1 発話	「おまえらの望みは叶えなかつたぞ。おまえらは、わしの心に勝つたのだ。	
1058	走れメロス	光村	8 共感	1 発話	信実とは、決して空虚な妄想ではなかつた。	
1059	走れメロス	光村	8 懇願	1 発話	どうか、わしをも仲間に入れてくれまいか。どうか、わしの願いを聞き入れて、おまえらの仲間の一人にしてほしい。」	
1060	走れメロス	光村	8 感動	1 様子	どっと群衆の間に、歓声が上がった。	
1061	走れメロス	光村	8 歓喜	1 発話	「万歳、王様万歳。」	
1062	走れメロス	光村	8 優しさ	1 行為	ひとりの少女が、緋ひのマントをメロスに捧げた。	
1063	走れメロス	光村	8 きまり 悪さ	0 行為	メロスは、まごついた。佳き友は、気をきかせて教えてやった。	
1064	走れメロス	光村	8 優しさ	1 発話	「メロス、君は、まっばだかじやないか。早くそのマントを看るがいい。この可愛い娘さんは、メロスの裸体を、皆に見られるのが、たまらなく口惜しいのだ。」	
1065	走れメロス	光村	8 きまり 悪さ	0 様子	勇者は、ひどく赤面した。	
	合計(ポジ・ネガ)			4		
	平均(ポジ・ネガ)			0.013289037		
1066	握手	光村	9 尊敬	1 行為	上野公園に古くからある西洋料理店へ、ルロイ修道士は時間どおりにやって来た。	
1067	握手	光村	9 寂しさ	-1 情景	桜の花はもうとうに散って、[…] 気の毒になるぐらい空いている。	
1068	握手	光村	9 高揚感	1 行為	椅子から立って手を振って居所を知らせると、	多数決: 「高揚感」8、「期待」3、「興奮」0
1069	握手	光村	9 優しさ	1 発話	「呼び出したりしてすみませんね。」	
1070	握手	光村	9 尊敬	1 行為	達者な日本語で声をかけながら、こっちへ寄ってきた。	
1071	握手	光村	9 尊敬	1 境遇	彼の日本語には年季が入っている。	
1072	握手	光村	9 感謝	1 発話	「今度故郷へ帰ることになりました。[…] しばらくでした。」	
1073	握手	光村	9 感謝	1 行為	ルロイ修道士は大きな手を差し出した。	
1074	握手	光村	9 緊張	-1 表情	その手を見て思わず顔をしかめたのは、[…] 「天使の十戒」を頭に浮かべたせいで	多数決: 「緊張」6、「不安」3、「恐怖」2
1075	握手	光村	9 緊張	-1 内面	子供の考えだしたものであるから、[…] それで少しばかり身構えたのだ。	多数決: 「緊張」6、「不安」3、「恐怖」3
1076	握手	光村	9 愛情	1 発話	ルロイ修道士は机越しに握手で迎えて、[…] と言ってくれた	
1077	握手	光村	9 懐古	0 境遇	彼の握力は万力よりも強く、[…] 腕がしびれた。	
1078	握手	光村	9 戸惑い	-1 内面	だが、顔をしかめる必要はなかつた。	
1079	握手	光村	9 戸惑い	-1 行為	それは実に穏やかな握手だった。	

1080	握手	光村	9 戸惑い	-1 行為	ルロイ修道士は病人の手でも握るようにそっと握手をした。	
1081	握手	光村	9 愛情	1 行為	それから、このケベック郊外の農場の五男坊は、[…] 近況を熱心に語り始めた。	
1082	握手	光村	9 平穩	0 発話	「おいしそうですね。」	多数決: 「平穩」7、「冷静」2、「高揚感」2、「興奮」0
1083	握手	光村	9 寂しさ	-1 内面	だが、彼のてのひらはもうギチギチとは鳴らない。	
1084	握手	光村	9 寂しさ	-1 内面	あのころはよく鳴ったのに。	
1085	握手	光村	9 感謝	1 境遇	たいていは裏の畑や鶏舎にいて、子供たちの食料を作ることに精を出していた。	
1086	握手	光村	9 尊敬	1 境遇	そのために、彼の手はいつも汚れており、てのひらはかしの板でもはったように固	
1087	握手	光村	9 感謝	1 境遇	そこで、あのころのルロイ修道士の[…] ギチギチと鳴ったものだった。	
1088	握手	光村	9 気がかり	0 発話	「先生の左の人さし指は、相変わらず不思議なかつこうをしていますね。」	
1089	握手	光村	9 気がかり	0 境遇	正常な爪はもう生えてこないのである。	
1090	握手	光村	9 懇願	0 発話	ルロイ修道士が代表となって[…] ほかの曜日にきつとする。」と申し入れた。	
1091	握手	光村	9 拒絶	-1 発話	すると監督官は、「大日本帝国の[…] ありやせんのだ。」と叱りつけ、	
1092	握手	光村	9 怒り	-1 境遇	見せしめに、ルロイ修道士の左のひとさし指を木づちで思い切りたたきつぶしたの	
1093	握手	光村	9 警戒	-1 境遇	だから気をつけろ。	
1094	握手	光村	9 警戒	-1 境遇	ルロイ先生はいい人にはちがいないが、心の底では日本人を憎んでいる。	
1095	握手	光村	9 警戒	-1 境遇	いつかは爆発するぞ。	
1096	握手	光村	9 戸惑い	0 境遇	……しかし、ルロイ先生はいつまでたっても優しくかった。	
1097	握手	光村	9 不思議	0 境遇	そればかりかルロイ先生は、[…] 鶏を育てている。	
1098	握手	光村	9 不思議	0 境遇	これはどういことだろう。	
1099	握手	光村	9 警戒	-1 発話	「この子供をちゃんと育ててから、[…] あとでどっと元をとる気なんだ。」	
1100	握手	光村	9 反省	0 境遇	おひたしや汁の実になった野菜が[…] ほんの少しでも疑っては罰が当たる。	多数決: 「反省」8、「罪悪感」3、「後悔」0、「自嘲」0
1101	握手	光村	9 信賴	1 境遇	みんながそう思い始めたからである。	多数決: 「信賴」11、「納得」1、「自嘲」0
1102	握手	光村	9 謝罪	-1 発話	「日本人は先生に対して、[…] 申し訳ありません。」	多数決: 「謝罪」9、「きまり悪さ」1、「陳謝」0、「恐縮」
1103	握手	光村	9 愛情	1 行為	ルロイ修道士はナイフを皿の上に置いてから、右のひとさし指をぴんと立てた。	
1104	握手	光村	9 不思議	0 行為	指の先は天井を指してぶるぶる細かく震えている。	
1105	握手	光村	9 懐古	0 内面	また思い出した。	
1106	握手	光村	9 懐古	0 内面	ルロイ修道士は、[…] 右のひとさし指をぴんと立てるのが癖だった。	
1107	握手	光村	9 愛情	1 発話	「総理大臣のようなことを[…] それだけのことですから。」	
1108	握手	光村	9 納得	1 発話	「わかりました。」	
1109	握手	光村	9 満足	1 行為	わたしは右の親指をぴんと立てた。	
1110	握手	光村	9 懐古	0 境遇	これもルロイ修道士の癖で、[…] 右の親指をぴんと立てる。	
1111	握手	光村	9 懐古	0 内面	そのことも思い出したのだ。	
1112	握手	光村	9 満足	1 発話	「おいしいですね、このオムレツは。」	
1113	握手	光村	9 満足	1 行為	ルロイ修道士も右の親指を立てた。	
1114	握手	光村	9 不思議	0 内面	わたしは、はてなど心の中で首をかしげた。	
1115	握手	光村	9 不思議	0 様子	おいしいと言うわりには、ルロイ修道士に食欲がない。	
1116	握手	光村	9 気がかり	1 情景	ラグビーのボールを押しつぶしたような[…] グラウンドに持ち出せそうである。	
1117	握手	光村	9 不思議	0 様子	ルロイ修道士は[…] オムレツをちっとも口へ運んではないのだ。	
1118	握手	光村	9 心配	-1 発話	「それよりも、わたしは[…] もし、していたなら、謝りたい。」	
1119	握手	光村	9 きまり悪さ	-1 発話	「一度だけ、ぶたれました。」	
1120	握手	光村	9 恐怖	-1 境遇	ルロイ修道士の、両手のひとさし指をせわしく交差させ、打ちつけている姿が脳裏に	
1121	握手	光村	9 恐怖	-1 境遇	これは危険信号だった。	
1122	握手	光村	9 恐怖	-1 境遇	この指の動きでルロイ修道士は、「おまえは悪い子だ。」とどなっているのだ。	
1123	握手	光村	9 恐怖	-1 境遇	そして次には、きつと平手打ちが飛ぶ。	
1124	握手	光村	9 恐怖	-1 境遇	ルロイ修道士の平手打ちは痛かった。	
1125	握手	光村	9 悲しみ	-1 発話	「やはりぶちましたか。」	
1126	握手	光村	9 悲しみ	-1 様子	ルロイ修道士は悲しそうな表情になって、ナブキンを折りたたむ。	
1127	握手	光村	9 気がかり	0 内面	食事はもうおしまいなのだろうか。	
1128	握手	光村	9 自責	-1 発話	「でも、わたしたちは、[…] 無断で天使園を抜け出して東京へ行ってしまったので	
1129	握手	光村	9 後悔	0 境遇	そして待っていたのがルロイ修道士の平手打ちだった。	多数決: 「後悔」4、「納得」4、「自嘲」4、「懐古」0
1130	握手	光村	9 自嘲	0 境遇	「あさっての朝、必ず戻ります。[…] 園長室の壁にはりつけておいたのだが。	多数決: 「自嘲」5、「後悔」4、「不満」3、「自責」0
1131	握手	光村	9 自嘲	0 発話	「ルロイ先生は一月間、[…] 平手打ちよりこっちのほうがこたえましたよ。」	多数決: 「自嘲」7、「懐古」5、「自責」0
1132	握手	光村	9 懐古	0 発話	「そんなこともありましたがねえ。あのときの東京見物の費用は、どうやってひねり出	
1133	握手	光村	9 きまり悪さ	-1 発話	「それはあのとき白状しましたが……。」	多数決: 「きまり悪さ」12、「戸惑い」0、「恥」0、「自嘲
1134	握手	光村	9 気がかり	0 発話	「わたしは忘れてしまいました。もう一度教えてくださいませんか。」	
1135	握手	光村	9 懐古	0 発話	「準備に三か月はかかりました。[…] 焼き鳥屋に売ったりもしました。」	多数決: 「懐古」6、「反省」3、「きまり悪さ」3、「自責」
1136	握手	光村	9 怒り	-1 行為	ルロイ修道士は改めて両手のひとさし指を交差させ、せわしく打ちつける。	
1137	握手	光村	9 愛情	1 表情	ただしあのころと違って、顔は笑っていた。	
1138	握手	光村	9 心配	-1 発話	「先生はどこかお悪いんですか。ちっとも召しあがりませんか。」	
1139	握手	光村	9 優しさ	1 発話	「少し疲れたのでしょうか。[…] 前のような大食らいに戻っていますよ。」	多数決: 「優しさ」10、「愛情」1、「虚勢」1、「自嘲」0

1140	握手	光村	9	不安	-1	発話	「だったらいいのですが……。」	
1141	握手	光村	9	愛情	1	発話	「仕事はうまくいっていますか。」	
1142	握手	光村	9	平穩	0	発話	「まあまあといったところです。」	多数決:「平穩」5、「優しさ」4、「気がかり」3、「あや
1143	握手	光村	9	安心	1	発話	「よろしい。」	
1144	握手	光村	9	満足	1	行為	ルロイ修道士は右の親指を立てた。	
1145	握手	光村	9	愛情	1	発話	「仕事はうまくいかないときは、[…] ルロイのこの言葉を忘れないでください。」	
1146	握手	光村	9	動揺	-1	内面	冗談じゃないぞ、と思った。	
1147	握手	光村	9	不安	-1	内面	これでは、遺言を聞くために会ったようなものではないか。	
1148	握手	光村	9	不安	-1	内面	そういえば、さっきの握手もなんだか変だった。	
1149	握手	光村	9	不安	-1	内面	「それは実に穏やかな握手だった。[…] 実はルロイ修道士が病人なのではないか。	
1150	握手	光村	9	不安	-1	内面	元園長は何かの病にかかり、[…] かつての園児を訪ねて歩いているのではないか。	
1151	握手	光村	9	葛藤	-1	発話	「日本でお暮らしになっただけで、楽しかったことがあったとすれば、それはどんなこ	
1152	握手	光村	9	葛藤	-1	内面	先生は重い病気にかかっているのでしょうか、[…] 結局は、平凡な質問をしてしまっ	
1153	握手	光村	9	愛情	1	発話	「それはもう、こうやっているときに決まっています。[…] 上川一雄君ですよ。」	
1154	握手	光村	9	懐古	0	内面	もちろん知っている。	
1155	握手	光村	9	やるせなさ	-1	境遇	陽気がいいから、発見されるまで[…] 母親たちの最後の愛情が春を選ばせるのだ。	多数決:「やるせなさ」12、「愛情」0
1156	握手	光村	9	懐古	0	境遇	そこで、中学生、高校生が知恵を絞って姓名をつける。	
1157	握手	光村	9	懐古	0	内面	だから、忘れるわけではないのである。	
1158	握手	光村	9	愛情	1	発話	「あの子は今、市営バスの運転手をしています。[…] まずわたしが乗りますと、こ	
1159	握手	光村	9	満足	1	行為	んな合図をするんです。」	
1160	握手	光村	9	愛情	1	発話	ルロイ修道士は右の親指をぴんと立てた。	
1161	握手	光村	9	気がかり	1	発話	「わたしの癖をからかっているんですね[…] けれども、そういうときがわたしには	
1162	握手	光村	9	悲しみ	0	発話	いっとう楽しいのですね。」	
1163	握手	光村	9	愛情	0	発話	「いっとう悲しいときは……？」	
1164	握手	光村	9	愛情	-1	発話	「天使園で育った子が世の中に出て結婚しますね。[…] 父子二代で天使園に入るこ	
1165	握手	光村	9	勇気	1	行為	とはないんです。」	
1166	握手	光村	9	信頼	1	行為	ルロイ修道士は壁の時計を見上げて、[…] 右のひとさし指に中指をからめて掲げ	
1167	握手	光村	9	戸惑い	1	行為	これは「幸運を祈る」「しっかりおやり」という意味の、ルロイ修道士の指言葉だっ	
1168	握手	光村	9	優しさ	0	行為	上野駅の中央改札口の前で、思い切ってきた。	
1169	握手	光村	9	疑い	1	発話	「ルロイ先生、死ぬのは怖くありませんか。わたしは怖くてしかたがありません	
1170	握手	光村	9	自信	-1	様子	かつて、わたしたちがいたずらを[…] ルロイ修道士は少し赤くなって頭をかいた。	多数決:「優しさ」6、「きまり悪さ」3、「不安」1、「祟
1171	握手	光村	9	信頼	1	発話	「天国へ行くのですから、そう怖くはありませんよ。」	
1172	握手	光村	9	尊敬	-1	発話	「天国か。本当に天国がありますか。」	
1173	握手	光村	9	愛情	1	発話	「あると信じるほうが楽しいでしょうが。[…] そのために、この何十年間、神様を	
1174	握手	光村	9	愛情	1	発話	信じてきたのです。」	
1175	握手	光村	9	悲しみ	1	行為	わかりましたと答える代わりに、[…] ルロイ修道士の手をとって、しっかりと握っ	
1176	握手	光村	9	悲しみ	1	行為	それでも足りずに、腕を上下に激しく振った。	
1177	握手	光村	9	やるせなさ	1	発話	「痛いですよ。」	
	合計(ポジ・ネガ)				-4		ルロイ修道士は顔をしかめてみせた。	
	平均(ポジ・ネガ)				-0.035714286		上野公園の葉桜が終わるころ、ルロイ修道士は仙台の修道院でなくなった。	多数決:「やるせなさ」6、「寂しさ」2、「怒り」2、「混
							わたしたちに会って[…] 腫瘍の巣になっていたそうだ。	
							葬式でそのことを聞いたとき、[…] せわしく打ちつけていた。	
1178	高瀬舟	光村	9	意地悪	-1	内面	耳を覆いたく思う 冷淡な同心	
1179	高瀬舟	光村	9	悲しみ	-1	内面	無言のうちにひそかに胸を痛める同心	
1180	高瀬舟	光村	9	恥	-1	内面	その同心は不覚の涙を禁じ得ぬのであった。	
1181	高瀬舟	光村	9	嫌悪	-1	境遇	不快な職務として嫌われていた。	
1182	高瀬舟	光村	9	平穩	0	情景	知恩院の桜が入相の鐘に散る春の夕べ	
1183	高瀬舟	光村	9	不思議	0	様子	この痩せ肉の、色の青白い喜助の様子を見るに、[…] 権勢にこびる態度ではない。	
1184	高瀬舟	光村	9	不思議	0	行為	絶えず喜助の挙動に細かい注意をしていた。	
1185	高瀬舟	光村	9	不安	-1	情景	下京の町を離れて、加茂川を横切った頃からは、辺りがひっそりとして、ただ、へさ	
1186	高瀬舟	光村	9	平穩	0	行為	きに割かれる水のささやきを聞くのみである。	
1187	高瀬舟	光村	9	気がかり	0	行為	夜舟で寝ることは許されているのに、喜助は横になろうともせず、[…] 目にはかす	
1188	高瀬舟	光村	9	気がかり	0	内面	かな輝きがある。	
1189	高瀬舟	光村	9	不思議	0	行為	庄兵衛はまともには見ていぬが、始終、喜助の顔から目を離さずにいる。	
1190	高瀬舟	光村	9	不思議	0	内面	そして、不思議だ、不思議だと、心の内で繰り返している。	
					0	表情	喜助の顔が、[…] 鼻歌を歌いだすとかしように思われたからである。	
					0	様子	目も当てられぬ気の毒な様子	

1191	高瀬舟	光村	9 不思議	0 内面	この男はどうしたのだろう
1192	高瀬舟	光村	9 不思議	0 表情	遊山船にでも乗ったような顔をしている。
1193	高瀬舟	光村	9 戸惑い	0 内面	この色の青い痩せ男が、その人の情けというものが全く欠けているほどの、世にもまれな悪人であろうか。
1194	高瀬舟	光村	9 戸惑い	0 内面	どうも、そうは思われない。
1195	高瀬舟	光村	9 戸惑い	0 内面	ひょっと気でも狂っているのではあるまいか。
1196	高瀬舟	光村	9 戸惑い	0 内面	いやいや。それにしては、何一つつじつまの合わぬ言葉や挙動がない。
1197	高瀬舟	光村	9 混乱	0 内面	この男はどうしたのだろう。庄兵衛がためには、喜助の態度が考えれば考えるほどわからなくなるのである。
1198	高瀬舟	光村	9 気がかり	0 行為	しばらくして、庄兵衛はこらえ切れなくなって呼びかけた。
1199	高瀬舟	光村	9 混乱	0 発話	「喜助。お前何を思っているのか。」
1200	高瀬舟	光村	9 警戒	-1 行為	「はい。」と言って、辺りを見回した喜助は、[…] 居ずまいを直して庄兵衛の気色
1201	高瀬舟	光村	9 きまり 悪さ	-1 内面	庄兵衛は、自分が突然問いを發した動機を明かして[…] 言い訳をしなくてはならぬ
1202	高瀬舟	光村	9 好奇心	0 発話	いったいおまえはどう思っているのだい。
1203	高瀬舟	光村	9 安堵	1 行為	喜助はにっこり笑った。
1204	高瀬舟	光村	9 感謝	1 発話	御親切におっしゃってくださいって、ありがとうございます。
1205	高瀬舟	光村	9 平穩	0 発話	なるほど島へ行くということは、ほかの人には悲しいことでございましょう。その心持ちは、私にも思いやってみることができます。
1206	高瀬舟	光村	9 苦惱	-1 発話	これまでの私のいたして参ったような苦しみは、どこへ参ってもなかりと存じま
1207	高瀬舟	光村	9 感謝	1 発話	お上のお慈悲で、命を助けて島へやってくださいます。
1208	高瀬舟	光村	9 安堵	1 発話	島は、よしやつらい所でも、鬼のすむ所ではございませぬ。
1209	高瀬舟	光村	9 苦惱	-1 発話	私はこれまで、どこといって自分のいい所というものがございますでした。
1210	高瀬舟	光村	9 感謝	1 発話	今度お上で、島にいらとおっしゃってくださいます。[…] ありがたいことござい
1211	高瀬舟	光村	9 安堵	1 発話	ついぞ病気をいたしたことはございませぬから、[…] 体を痛めるようなことはある
1212	高瀬舟	光村	9 感謝	1 行為	それから今度、島へおやりくださるにつきまして、[…] 喜助は胸に手を当てた。
1213	高瀬舟	光村	9 恥	-1 発話	お恥ずかしいことを申しあげなくてはなりません。
1214	高瀬舟	光村	9 苦惱	-1 発話	私は、今日まで、二百文というお足を、こうしてふところに入れて持っていたことはございませぬ。[…] 借りたのでございませぬ。
1215	高瀬舟	光村	9 感謝	1 発話	それが、お牢に入ってから、仕事をせずに食べさせていただきます。
1216	高瀬舟	光村	9 恐縮	-1 発話	私はそればかりでも、お上に対してすまないことをいたしているようでありませぬ。
1217	高瀬舟	光村	9 感謝	1 発話	それに、お牢を出るときに、この二百文をいただきましたのでございませぬ。
1218	高瀬舟	光村	9 平穩	1 発話	こうして、相変わらずお上の物を食べてみますれば、この二百文は私が使わずに持っていることができます。
1219	高瀬舟	光村	9 期待	1 発話	私にとっては、[…] この二百文を島でする仕事の元手にしよう と楽しんでおりま
1220	高瀬舟	光村	9 混乱	-1 様子	庄兵衛は「うん、そうかい。」とは言ったが、[…] しばらく何も言うことができずに、考え込んで黙っていた。
1221	高瀬舟	光村	9 苦惱	-1 設定	しかし不幸なことには、[…] これが原因である。
1222	高瀬舟	光村	9 同情	-1 内面	いかにも哀れな、気の毒な境界である。
1223	高瀬舟	光村	9 戸惑い	-1 内面	しかし一転して我が身の上を顧みれば、彼と我との間に、果たしてどれほどの差があ
1224	高瀬舟	光村	9 自嘲	-1 内面	彼と我との相違は、いわばそろばんの桁が違っているだけで、喜助のありがたがる二
1225	高瀬舟	光村	9 同情	-1 内面	百文に相当する貯蓄だに、こっちはないのである。
1226	高瀬舟	光村	9 不思議	-1 内面	さて桁を違えて考えてみれば、[…] 察してやることのできる。
1227	高瀬舟	光村	9 納得	0 内面	しかし、いかに桁を違えて考えてみても、不思議なのは喜助の欲のないこと、足ることを知っていることである。
1228	高瀬舟	光村	9 不満	-1 内面	庄兵衛はいかに桁を違えて考えてみても、[…] 懸隔のあることを知った。
1229	高瀬舟	光村	9 不安	-1 内面	自分の扶持米で立ててゆく暮らしは、[…] 満足を覚えたことはほとんどない。
1230	高瀬舟	光村	9 混乱	-1 内面	しかし心の奥には、[…] この疑が意識の閾の上に頭をもたげてるのである。
1231	高瀬舟	光村	9 尊敬	0 内面	いったいこの懸隔はどうして生じてくるのだろうか。
1232	高瀬舟	光村	9 尊敬	0 発話	このとき庄兵衛は、空を仰いでいる喜助の頭から毫光が差すように思った。
1233	高瀬舟	光村	9 きまり 悪さ	-1 行為	庄兵衛は喜助の顔を守りつつ[…] 称呼を改めたわけではない。
1234	高瀬舟	光村	9 警戒	-1 行為	その声が我が口から出て[…] 取り返すこともできなかった。
1235	高瀬舟	光村	9 好奇心	0 発話	「はい。」と答えた喜助も、「さん」と呼ばれたのを不審に思うらしく、おそろおそ
1236	高瀬舟	光村	9 緊張	0 様子	る庄兵衛の気色をうかがった。
1237	高瀬舟	光村	9 恐縮	-1 発話	「いろいろのことをきくようだが、[…] おれに、ついでに、その訳を話して聞かせ
1238	高瀬舟	光村	9 感謝	-1 発話	喜助はひどく恐れ入った様子で、「かしこまりました。」と言って、小声で話したし
1239	高瀬舟	光村	9 信賴	-1 発話	どうもとんだ心得違いで、恐ろしいことをいたしまして、なんとも申しあげようがご
1240	高瀬舟	光村	9 驚き	-1 発話	私は小さいときに[…] 近所中の走り使いなどをいたして、飢え凍えもせずに育ちま

多数決: 「戸惑い」9名、「動揺」8名

多数決: 「自嘲」11名、「不安」6名

1241	高瀬舟	光村	9 心配	-1 行為	私にはどうも様子がわかりませんので、『どうしたのだい、血を吐いたのかい。』と言って、そばへ寄ろうといたすと、	多数決: 「心配」7名、「混乱」3名
1242	高瀬舟	光村	9 心配	0 様子	弟は右の手を床について、少し体を起こしました。	
1243	高瀬舟	光村	9 絶望	-1 発話	『すまない。どうぞ堪忍してくれ。どうぞせ治りそうにない病気だから、	
1244	高瀬舟	光村	9 自責	-1 発話	早く死んで少しでも兄貴に楽がさせたいと思ったのだ。	
1245	高瀬舟	光村	9 熱望	-1 発話	これをうまく抜いてくれたらおれは死ねるだろうと思っている。ものを言うのが切なくていけない。どうぞ手を貸して抜いてくれ。	
1246	高瀬舟	光村	9 驚き	-1 様子	私はなんと言おうにも、声がでません	
1247	高瀬舟	光村	9 決意	-1 発話	私はやっとのことで、『待っていてくれ、お医者を呼んでくるから。』と申しまし	
1248	高瀬舟	光村	9 不本意	-1 行為	弟は恨めしそうな目つきをいたしました	
1249	高瀬舟	光村	9 懇願	-1 発話	医者がなんになる、ああ苦しい、早く抜いてくれ、頼む。	
1250	高瀬舟	光村	9 戸惑い	-1 行為	私は途方に暮れたような心持ちになって、ただ弟の顔ばかり見ております。	
1251	高瀬舟	光村	9 熱望	-1 表情	弟の目は『早くしろ、早くしろ。』と[…] 恐ろしい催促をやめません。	
1252	高瀬舟	光村	9 熱望	-1 表情	その目の恨めしそうなのがだんだん陰しくなって	
1253	高瀬舟	光村	9 熱望	-1 表情	とうとう敵の顔をでもにらむような、憎々しい目	
1254	高瀬舟	光村	9 決意	-1 発話	私はとうとう、これは弟の言ったとおりにしてやらなくてはならないと思いました。	
1255	高瀬舟	光村	9 あきらめ	-1 発話	私は『しかたがない、抜いてやるぞ。』と申しました。	
1256	高瀬舟	光村	9 満足	1 表情	すると弟の目の色がからりと変わって、晴れやかに、さもうれしそうになりました。	
1257	高瀬舟	光村	9 決意	0 行為	私はなんでもひと思いこしなくてはとあって、膝をつくようにして体を前へ乗り出し	
1258	高瀬舟	光村	9 安堵	0 行為	弟はついてきた右の手を離して、今まで喉を押さえていた手の肘を床について、横に	
1259	高瀬舟	光村	9 決意	0 行為	私は剃刀の柄をしっかりと握って、ずっと引きました。	
1260	高瀬舟	光村	9 驚き	-1 行為	ばあさんはあつと言ったきり、表口を開け放しにしておいて駆け出してしまいました	
1261	高瀬舟	光村	9 用心	0 内面	私は剃刀を抜くとき、手早く抜こう、まっすぐ抜こうというだけの用心はいたしました	
1262	高瀬舟	光村	9 疑い	-1 行為	どうも抜いたときの手応えは、[…] 外の方が切れたのでございましょう。	
1263	高瀬舟	光村	9 虚無	-1 行為	私は剃刀を握ったまま、ばあさんの入ってきてまた駆けだしていったのを、ぼんやりして見ておりました。	
1264	高瀬舟	光村	9 心配	-1 行為	ばあさんが行ってしまってから、気がついて弟を見ますと、弟はもう息が切れており	
1265	高瀬舟	光村	9 虚無	-1 行為	それから[…] 目を半分開いたまま死んでいる弟の顔を見つめていたのでございま	
1266	高瀬舟	光村	9 尊敬	0 様子	少しうっ向きかげんになって庄兵衛の顔を下から見上げて話していた喜助	
1267	高瀬舟	光村	9 悲しみ	-1 行為	こう言ってしまって、視線を膝の上に落とした。	
1268	高瀬舟	光村	9 同情	-1 内面	庄兵衛はその場の様子を目のあたり見るような思い	
1269	高瀬舟	光村	9 疑い	-1 内面	これが果たして弟殺しというものだろうか、[…] その疑いを解くことができなかつ	
1270	高瀬舟	光村	9 混乱	-1 内面	弟は、剃刀を抜いてくれたら死なれるだろうから、[…] そこに疑いが生じて、どうしても解けぬのである。	
1271	高瀬舟	光村	9 あきらめ	-1 内面	庄兵衛の心のうちには、いろいろに考えてみた末に、[…] 従うほかないという念が	
1272	高瀬舟	光村	9 あきらめ	-1 内面	庄兵衛はお奉行様の判断を、そのまま自分の判断にしようと思ったのである。	
1273	高瀬舟	光村	9 疑い	-1 内面	そうは思っても、庄兵衛は、まだどこやらに腑に落ちぬものが残っているのだ、	
1274	高瀬舟	光村	9 虚無	-1 様子	[…] きいてみたくてならなかった。	
	合計(ポジ・ネガ)			-43	次第にふけてゆくおぼろ夜に、沈黙の人二人を乗せた高瀬舟は、黒い水の面を滑って	
	平均(ポジ・ネガ度)			-0.443298969		
1275	故郷	光村	9 寂しさ	-1 情景	苦のすき間から外をうかがうと、[…] あちこちに横たわっていた。	
1276	故郷	光村	9 寂しさ	-1 内面	覚えぬ寂寥の感が胸に込み上げた。	
1277	故郷	光村	9 寂しさ	-1 内面	ああ、これが二十年来、片時も忘れることのなかった故郷であろうか。	
1278	故郷	光村	9 寂しさ	-1 内面	私が覚えている故郷は、まるでこんなふうではなかった。	
1279	故郷	光村	9 寂しさ	-1 内面	私の故郷は、もつとずっとよかった。	
1280	故郷	光村	9 寂しさ	-1 内面	その美しさを思い浮かべ、[…] その影はかき消され、言葉は失われてしまう。	
1281	故郷	光村	9 自嘲	-1 内面	やはりこんなふうだったかもしれないという気がしてくる。	
1282	故郷	光村	9 自嘲	-1 内面	そこで私は、こう自分に言い聞かせた[…] 寂寥もありはしない。	
1283	故郷	光村	9 自嘲	-1 内面	そう感じるの、自分の心境が変わっただけだ。	
1284	故郷	光村	9 自嘲	-1 内面	なぜなら、今度の帰郷は決して楽しいものではないのだから。	不安
1285	故郷	光村	9 寂しさ	-1 内面	今度は、故郷は別れを告げに来たのである。	
1286	故郷	光村	9 寂しさ	-1 内面	私たちが長いこと一族で住んでいた古い家は今はもう他人の持ち物になってしまっ	
1287	故郷	光村	9 寂しさ	-1 内面	いっしょに住んでいた親戚たちは、[…] ひっそり閑としている。	
1288	故郷	光村	9 きまり悪さ	-1 内面	母は機嫌よかったが、さすがにやるせない表情は隠しきれなかった。	やるせなさ
1289	故郷	光村	9 きまり悪さ	-1 内面	私を座らせ、休ませ、茶をついでくれなどして、すぐ引っ越しの話は持ち出さない。	やるせなさ
1290	故郷	光村	9 気がかり	0 内面	ホムルは、私とは初対面で、離れた所に立って、じっと私の方を見つめていた。	
1291	故郷	光村	9 きまり悪さ	-1 内面	だが、とうとう引っ越しの話になった。	
1292	故郷	光村	9 納得	0 内面	母もそれに賛成した。	

1293	故郷	光村	9	優しさ	1	発話	「一、二日休んだら、親戚回りをしてね、[…] と、母は言った。	
1294	故郷	光村	9	納得	0	発話	「ええ。」	
1295	故郷	光村	9	優しさ	1	発話	「それから、ルントウ(閩土) ね。あれが、いつも家へ来るたびに[…] 今に来るか	
1296	故郷	光村	9	懐古	0	境遇	もう三十年近い昔のことである。	
1297	故郷	光村	9	懐古	0	境遇	その頃は、父もまだ生きていたし、家の暮らし向きも楽で、私は坊ちゃんであられ	
1298	故郷	光村	9	用心	-1	境遇	さまざまな供物をささげ、[…] 祭器をとられぬように番をする必要があった。	
1299	故郷	光村	9	満足	1	内面	私もうれしかった。	
1300	故郷	光村	9	期待	1	境遇	というのは、かねてルントウという[…] と名づけたことも承知していたから。	
1301	故郷	光村	9	期待	1	性格	彼は、わなをかけて小鳥を捕るのがうまかった。	
1302	故郷	光村	9	期待	1	内面	それからというもの、来る日も来る日も新年が待ち遠しいかった。	
1303	故郷	光村	9	期待	1	内面	新年になればルントウがやって来る。	
1304	故郷	光村	9	期待	1	境遇	待ちに待った年末になり、ある日のこと、母が私に、ルントウが来たお知らせしてくれ	
1305	故郷	光村	9	期待	1	行為	飛んでいってみると、彼は台所にいた。	興奮
1306	故郷	光村	9	好意	1	様子	艶のいい丸顔で、小さな毛織りの帽子かぶり、きらきら光る銀の首輪をはめていた。	
1307	故郷	光村	9	愛情	1	様子	それは父親の溺愛ぶりを示すもので、[…] その首輪でつなぎ止めてあるのだ。	
1308	故郷	光村	9	好意	1	様子	彼は人見知りだったが、私にだけは平気で、そばに誰もいないとよく口をきいた。	
1309	故郷	光村	9	好意	1	様子	半日もせず、私たちは仲良くなった。	
1310	故郷	光村	9	あやふや	0	内面	そのとき何をしゃべったかは、覚えていない。	
1311	故郷	光村	9	懐古	1	内面	ただ、ルントウが、城内へ来ていろいろ[…] はしゃいでいたことだけは記憶に残っ	
1312	故郷	光村	9	自慢	1	発話	「だめだよ。大雪が降ってからでなきゃ。[…] はとだの、ランペイ(藍背) だの…	
1313	故郷	光村	9	期待	1	内面	それからは雪の降るのが待ち遠しくなった。	
1314	故郷	光村	9	自慢	1	発話	「今は寒いけどな、夏になったら、おいらのとこへ来るといいや。[…] おまえも来	好意
1315	故郷	光村	9	不安	-1	発話	「どろぼうの番？」	
1316	故郷	光村	9	自慢	1	発話	「そうじゃない。通りがかりの人が、[…] 手に刺叉を持って、忍び寄って……。」	
1317	故郷	光村	9	不安	-1	内面	そのとき私は、その「チャー」という[…] そして獐猛な動物だという感じがした。	
1318	故郷	光村	9	不安	-1	発話	「かみつかない？」	
1319	故郷	光村	9	自慢	1	発話	「刺叉があるじゃないか。忍び寄って、[…] 毛が油みたいに滑って……。」	
1320	故郷	光村	9	興奮	1	内面	こんなにたくさん珍しいことがあろうなど、それまで私は思ってもみなかった。	
1321	故郷	光村	9	興奮	1	内面	海には、その五色の貝殻があるものなのか。	
1322	故郷	光村	9	興奮	1	内面	すいかには、こんな危険な経歴があるものなのか。	
1323	故郷	光村	9	興奮	1	内面	私はすいかといえば、果物屋に売っているものとばかり思っていた。	
1324	故郷	光村	9	自慢	1	発話	「おいらとこの砂地では、高潮の時分になると[…] かえるみたな足が二本あって…	
1325	故郷	光村	9	尊敬	1	内面	ああ、ルントウの心は神秘の宝庫で、私の遊び仲間とは大違いだ。	多数決: 「尊敬」11、「羨望」6
1326	故郷	光村	9	尊敬	1	内面	こんなことは、私の友達は何も知っていない。	多数決: 「不満」8、「悲しみ」6、「もどかしさ」2
1327	故郷	光村	9	自嘲	-1	内面	ルントウが海辺にいるとき、彼らは私と同様[…] 四角な空を眺めているだけなの	
1328	故郷	光村	9	寂しさ	-1	境遇	惜しくも正月は過ぎて、ルントウは家へ帰らねばならなかった。	
1329	故郷	光村	9	寂しさ	-1	行為	別れがつらくて、私は声を上げて泣いた。	
1330	故郷	光村	9	不満	-1	様子	ルントウも台所の隅に隠れて、嫌がって泣いていたが、とうとう父親に連れてゆかれ	
1331	故郷	光村	9	感謝	1	行為	その後、彼は父親にこつづけて、貝殻を一包みと、美しい鳥の羽を何本か届けてくれ	好意
1332	故郷	光村	9	寂しさ	-1	行為	私も一、二度何か贈り物をしたが、それきり顔を合わす機会はなかった。	
1333	故郷	光村	9	懐古	0	内面	今、母の口から彼の名が出たので、[…] 私はやっと美しい故郷を見た思いがした。	
1334	故郷	光村	9	気がかり	-1	発話	「そりゃいいな。でー今、どんな？……。」	
1335	故郷	光村	9	きまり悪さ	-1	発話	「どんなって……、やっぱり、楽ではないようだが……。」	
1336	故郷	光村	9	いらだち	-1	発話	「あの連中、また来ている。道具を買うという口実で[…] ちょっと見てくるから	不快
1337	故郷	光村	9	気がかり	-1	行為	私はホルンをこちらへ呼んで、話し相手になってやった。	優しさ
1338	故郷	光村	9	気がかり	-1	様子	字は書ける？よそへ行くの、うれしい？などなど。	優しさ
1339	故郷	光村	9	好奇心	1	発話	「汽車に乗ってゆくのか？」	
1340	故郷	光村	9	好奇心	1	発話	「お船は？」	
1341	故郷	光村	9	驚き	0	発話	「まあまあ、こんなになって、ひげをこんなに生やして。」	
1342	故郷	光村	9	不愉快	-1	様子	不意に甲高い声が響いた。	
1343	故郷	光村	9	驚き	0	様子	びっくりして、頭を上げてみると、私の前には、頬骨の出た、唇の薄い、五十がらみの女が立っていた。	
1344	故郷	光村	9	皮肉	-1	様子	両手を腰にあてがい、スカートをはかないズボン姿[…] コンパスそっくりだった。	
1345	故郷	光村	9	動揺	-1	内面	私はどきんとした。	
1346	故郷	光村	9	皮肉	-1	発話	「忘れたかね。よくだっこしてあげたものだが。」	
1347	故郷	光村	9	動揺	-1	内面	ますますどきんとした。	
1348	故郷	光村	9	優しさ	1	発話	「長いこと家にいなかったから、見忘れてしまっただろ。おまえ、覚えているだろ。」	
1349	故郷	光村	9	優しさ	1	発話	「ほら、筋向かいのヤン(楊) おばさん……豆腐屋の。」	
1350	故郷	光村	9	納得	1	内面	そうそう、思い出した。	
1351	故郷	光村	9	懐古	0	様子	そういえば子供の頃が、筋向かいの豆腐屋に[…] 唇もこんなに薄くはなかったはず	

1352	故郷	光村	9	疑い	-1	様子	しかし、その人ならおしろいを塗っていたし、[…] こんなに薄くはなかった。	
1353	故郷	光村	9	疑い	-1	様子	それに一日中座っていたのだから、[…] 見ようにも見られなかった。	
1354	故郷	光村	9	無関心	0	内面	たぶん年齢のせいだろうか、私はそういうことにさっぱり関心がなかった。	
1355	故郷	光村	9	無関心	0	内面	そのため見忘れてしまったのである。	
1356	故郷	光村	9	嫌悪	-1	様子	ところがコンパスのほうでは、それがいかにも不潔らしく、蔑むような表情を見せ	皮肉
1357	故郷	光村	9	皮肉	-1	様子	まるで、フランス人のくせにナポレオンを知らず、[…] 冷笑を浮かべながら、	
1358	故郷	光村	9	皮肉	-1	発話	「 忘れたのかい。なにしろ身分のあるお方はは目が上を向いているからね……。」	
1359	故郷	光村	9	動揺	-1	発話	「 そんなわけじゃないよ……僕は……。」	
1360	故郷	光村	9	動揺	-1	行為	私はどきまぎして、立ち上がった。	
1361	故郷	光村	9	反感	-1	発話	「 それならね、お聞きなさいよ[…] けっこう役に立ちますからね。」	皮肉
1362	故郷	光村	9	戸惑い	-1	発話	「 僕は金持ちじゃないよ。これ売って、その金で……。」	
1363	故郷	光村	9	反感	-1	発話	「 おやおや、まあまあ[…] だまってたって、そうはいきませんよ。」	皮肉
1364	故郷	光村	9	あきらめ	-1	行為	返事のしようがないので、私は口を閉じたまま立っていた。	
1365	故郷	光村	9	皮肉	-1	発話	「 ああ、ああ、金がたまれば財布のひもを締める。財布のひもを締めるからまたたま	
1366	故郷	光村	9	軽蔑	-1	行為	コンパスは、ふくれつつらで背を向けると、ぶつぶつ言いながら、ゆっくりした足取	反感
1367	故郷	光村	9	軽蔑	-1	行為	行きがけの駄賃に、母の手袋をズボンの下にねじ込んで。	
1368	故郷	光村	9	驚き	0	内面	思わずあっと声が出かかった。	
1369	故郷	光村	9	興奮	1	行為	急いで立ち上がって迎えた。	
1370	故郷	光村	9	驚き	0	様子	ひと目でルントウとわかったものの、そのルントウは、私の記憶にあるルントウとは似もつかなかった。	
1371	故郷	光村	9	懐古	0	様子	目も、彼の父親がそうであったように、周りが赤くはれている。	
1372	故郷	光村	9	感動	1	内面	私は感激で胸がいっぱいになり、	
1373	故郷	光村	9	戸惑い	-1	内面	しかし、どう 口をきいたものやら思案がつかぬままに、一言、	
1374	故郷	光村	9	感動	1	発話	「 ああ、ルンちゃんーよく来たね……。」	
1375	故郷	光村	9	感動	1	内面	続いて言いたいことが、後から後から、[…] チアオチー、跳ね魚、貝殻、チャー…	
1376	故郷	光村	9	戸惑い	-1	内面	だが、それらは、何かでせき止められた[…] 口からは出なかった。	
1377	故郷	光村	9	葛藤	0	行為	彼は突っ立ったままだった。	
1378	故郷	光村	9	葛藤	0	様子	喜びと寂しさの色が顔に現れた。	
1379	故郷	光村	9	決意	1	発話	「 旦那様！……。」	
1380	故郷	光村	9	動揺	-1	様子	私は身震いしたらしかった。	
1381	故郷	光村	9	寂しさ	-1	内面	悲しむべき厚い壁が、二人の間を隔ててしまったのを感じた。	悲しさ
1382	故郷	光村	9	動揺	-1	様子	私は口がきけなかった。	
1383	故郷	光村	9	懐古	0	内面	これぞまさしく三十年前のルントウであった。	
1384	故郷	光村	9	懐古	0	様子	いくらか痩せて、顔色が悪く、銀の首輪もしてない違いはあるけれども。	
1385	故郷	光村	9	恐縮	-1	発話	「 これが五番目の子でございます。世間へ出さぬものですから、おどおどしておりま	
1386	故郷	光村	9	恐縮	-1	発話	「 御隠居様、お手紙は早くにいただきました。[…] お帰りにになると聞きまして…	
1387	故郷	光村	9	優しさ	1	発話	「 まあ、なんだってそんな他人行儀にするんだね。[…] シュウちゃん、でいいんだ	
1388	故郷	光村	9	優しさ	1	様子	と、母はうれしそうに言った。	
1389	故郷	光村	9	恐縮	-1	発話	「 めっそうな、御隠居様、なんとも……[…] 何のわきまもなく……。」	
1390	故郷	光村	9	恐縮	-1	行為	そして、またもシュイションを前に出してお辞儀させようとしたが、	
1391	故郷	光村	9	緊張	-1	様子	子供ははにかんで、父親の背にしがみついたままだった。	
1392	故郷	光村	9	納得	0	発話	「 これがシュイション？五番目だね。[…] あちらでいっしょに遊んでおやり。」	
1393	故郷	光村	9	優しさ	1	行為	と、母は言った。	
1394	故郷	光村	9	好意	1	行為	言われて、ホンルはシュイションを誘い、シュイションもうれしそうに、そろって出	
1395	故郷	光村	9	優しさ	1	行為	母はルントウに席を勧めた。	
1396	故郷	光村	9	恐縮	-1	行為	彼はしばらくためらった後、ようやく腰を下ろした。	
1397	故郷	光村	9	恐縮	-1	発話	「 冬場は、ろくなものがございません。[…] どう かな旦那様に……。」	
1398	故郷	光村	9	気がかり	-1	行為	私は、暮らし向きについて尋ねた。	
1399	故郷	光村	9	苦悩	-1	行為	彼は首を振るばかりだった。	
1400	故郷	光村	9	苦悩	-1	発話	「 とてもとても。今では六番目の子も役に立ちますが、[…] 腐らせるばかりで…	
1401	故郷	光村	9	あきらめ	-1	行為	首を振りどおしである。	
1402	故郷	光村	9	絶望	-1	様子	顔にはたくさんのしわが畳まれているが、まるで石像のように、そのしわは少しも動	
1403	故郷	光村	9	絶望	-1	行為	苦しみを感じはしても、[…] 黙々とたばこをふかした。	
1404	故郷	光村	9	寂しさ	-1	境遇	母が都合をきくと、家に用が多いから、明日が帰らねばならぬと言う。	
1405	故郷	光村	9	好意	1	行為	それに昼飯もまだと言うので、自分で台所へ行って、飯をいため食べるように勧め	
1406	故郷	光村	9	やるせなさ	-1	行為	彼が出ていった後、母と私とは境遇を思っため息をついた。	
1407	故郷	光村	9	悲しみ	-1	境遇	子だくさん、凶作、重い税金[…] 人間にってしまったのだ。	
1408	故郷	光村	9	優しさ	1	行為	母は、持っていくかぬ品物はみんなくれてやろう、好きなように選ばせよう、と私に	
1409	故郷	光村	9	満足	1	様子	とりとめのない話ばかりだった。	
1410	故郷	光村	9	寂しさ	-1	境遇	それからまた九日して、私たちの旅立ちの日になった。	

多数決: 「あきらめ」9、「苦悩」5

1411 故郷	光村	9 寂しさ	-1 境遇	それぞれに一日中忙しくて、もう話をする暇はなかった。	
1412 故郷	光村	9 寂しさ	-1 様子	夕方になって、私たちが船に乗り込む頃には[…] すっかり片づいていた。	
1413 故郷	光村	9 寂しさ	-1 様子	船がひたすら前進した。	
1414 故郷	光村	9 寂しさ	-1 情景	両岸の緑の山々は、たそがれの中で薄墨色に変わり、次々に船尾へと消えた。	
1415 故郷	光村	9 寂しさ	-1 情景	私といっしょに窓辺にもたれて、暮れてゆく外の景色を眺めていたホルンが、	
1416 故郷	光村	9 気がかり	-1 発話	「伯父さん、僕たち、いつ帰ってくるの。」	
1417 故郷	光村	9 不思議	0 発話	「帰ってくる？ どうしてまた、行きもしないうちに、帰るなんて考えたんだい。」	
1418 故郷	光村	9 気がかり	-1 発話	「だって、シュイションが僕に、家へ遊びに来いって。」	
1419 故郷	光村	9 気がかり	-1 行為	大きな黒い目をみはって、彼はじっと考え込んでいた。	
1420 故郷	光村	9 動揺	-1 内面	私も、私の母も、はっと胸をつかれた。	
1421 故郷	光村	9 皮肉	-1 行為	ヤンおばさんは、この発見を手柄顔に[…] 飛ぶように走り去った。	
1422 故郷	光村	9 皮肉	-1 様子	纏足用の底の高い靴で、よくもと思うほど速かったそうさ。	
1423 故郷	光村	9 寂しさ	-1 情景	古い家はますます遠くなり、故郷の山や水もますます遠くなる。	
1424 故郷	光村	9 決別	-1 内面	だが名残惜しい気はしない。	
1425 故郷	光村	9 孤独	-1 内面	自分の周りに目に見えぬ高い壁があって[…] 気がめいるだけである。	寂しさ
1426 故郷	光村	9 悲しみ	-1 内面	すいか畑の銀の首輪の小英雄の面影は、元は鮮明このうえなかったが、今では急にぼんやりしてしまった。	
1427 故郷	光村	9 悲しみ	-1 内面	これもたまらなく悲しい。	
1428 故郷	光村	9 決別	1 内面	私も横になって、船の底に水のぶつかる音を聞きながら、今、自分は自分の道を歩いているとわかった。	多数決: 「決別」10、「決意」4
1429 故郷	光村	9 安心	1 様子	思えば私とルトウとの距離は全く遠くなかったが、[…] シュイションのことを	多数決: 「安心」9、「安堵」7
1430 故郷	光村	9 希望	1 内面	せめて彼らだけは、私と違って[…] 魂をすり減らす生活を共にすることは願わな	
1431 故郷	光村	9 希望	1 内面	また、ルトウのように、打ちひしがれて心が麻痺する生活を共にすることも願わな	
1432 故郷	光村	9 希望	1 内面	また、他の人のように、やけを起こして野放図に走る生活を共にすることも願わな	
1433 故郷	光村	9 希望	1 内面	希望をいえば、彼らは新しい生活をもたなくてはならない。	
1434 故郷	光村	9 希望	1 内面	私たちの経験しなかった新しい生活を。	
1435 故郷	光村	9 動揺	1 内面	希望という考えが浮かんだので、私はどきっとした。	
1436 故郷	光村	9 懐古	1 内面	たしかルトウが香炉と燭台を囁望したとき、[…] 心ひそかに彼のことを笑ったも	
1437 故郷	光村	9 自嘲	1 内面	ただ、彼の望むものはすぐ手に入り、私の望むものは手に入りにくいだけだ。	
1438 故郷	光村	9 希望	1 情景	まどろみかけた私の目に、海辺の広い緑の砂地が浮かんでいる。	
1439 故郷	光村	9 希望	1 情景	その上の紺碧の空には、金色の丸い月が懸かっている。	
1440 故郷	光村	9 納得	1 内面	思うに希望とは、もともとあるものともいえぬし、ないものともいえない。	
1441 故郷	光村	9 納得	1 内面	それは地上の道のようなものである。	
1442 故郷	光村	9 納得	1 内面	もともと地上には道がない。	
1443 故郷	光村	9 希望	1 内面	歩く人が多くなれば、それが道になるのだ。	
合計(ポジ・ネガ)			-26		
平均(ポジ・ネガ)			-0.153846154		